

三五六

得ス

第七百六十二條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)債主ノ

債ヲ得可キ順序ニ付テノ訴訟ノ本案及ヒ附帶ノ事ニ管シタル裁判
言渡ハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽キタル上ニテ之ヲ爲
メ可シ

債主ノ債ヲ得可キ順序ニ付テノ訴訟ノ本案ニ管シタル裁判言渡書
ハ其日ヨリ三十日內ニ一方ノ代書師ニ之ヲ送達ス可ク且其言渡ハ
故障ヲ述フルヲ得ス○其言渡書ヲ控訴ス可キ定期ハ之ヲ代書師
ニ送達シタル日ヨリ算フ可シ○其控訴ハ一方ノ代書師其言渡書ノ
送達ヲ得タル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲ス可シ但シ是迄訴訟ニ管シタ
ル初告裁判所ト控訴ノ原告人ノ眞ノ住所トノ間五ヨリヤメートル
毎ニ猶豫ノ期限一日ヲ増ス可シ○控訴ノ書面ハ其被告人ノ代書師

ノ住所ニ送達シ又負債者被告人ニシテ其代書師ナキ時ハ其本人ノ
眞ノ住所ニ送達ス可シ○其控訴ノ書面ニハ其被告人ヲ呼出スルト
原告人ノ控訴ヲ爲ス旨趣トヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其書
面ノ効ナカル可シ

故障ヲ述ヘシ債主ノ得可キ金高及ヒ分配ス可キ金高ノ如何ナルヲ
問ハス爭アル金高千五百フランク以上ナル時ニ非レハ同上ノ控訴
ヲ許サズ

第七百六十三條 (千八百五十八年五月廿一日左ノ如ク改ム)初告裁判

所ノ言渡ヲ控訴シタル債主アル時其爭アル債ヨリ更ニ後ニ列次ス
可キ債主ノ代書師ヲ控訴院ニ呼出ス可キノ道理アルニ於テハ之ヲ
呼出ス可シ

此場合ニ於テハ控訴院ニ呼出ヲ受ケタル同上ノ代書師ヨリ其憑據

三五七

ヲ記シタル願書ヲ出スノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ爲スニ及ハスシテ第
七百六十一條ニ記シタル如ク控訴院ニテ其訴ヲ吟味ス可シ

第七百六十四條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 控訴院
ニテ債主ノ順序ニ付テノ控訴ヲ裁判スルニハ檢察官ノ説ヲ聽ク可
シ○其裁判言渡書ニハ裁判費用ノ高キ定ム可ク又其言渡書ハ一方
ノ者之ヲ得タル日ヨリ十五日内ニ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達ス可
ク相手方ノ者之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス○相手方ノ代書師覆
審院ニ其言渡ノ取消ヲ訴出ス可キ期日ハ其言渡書ノ送達ヲ得タル
日ヨリ之ヲ算フ可シ

第七百六十五條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債主ノ
順序ノ争ニ付キ初告裁判所ノ言渡ヲ控訴シタルヲナキ時ハ其控訴
ヲ爲ス可キ期限ノ終リシヨリ八日内又其控訴ヲ爲シタル時ハ控訴

院ノ言渡書ヲ一方ノ者ヨリ相手方ノ代書師ニ送達シタル日ヨリ八
日内ニ掛リ裁判役第七百五十九條ニ循ヒ當テ順序ノ争アリシ債並
ニ其債ヨリ後ニ列次ス可キ債ノ順序ヲ確定ス可シ
此時ヨリ後負債者ハ償ヲ得ルヲ能フ可キ順序ノ債ノ息銀ヲ拂フニ
及ハス

第七百六十六條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債主ノ
順序ニ付テノ訴訟ノ費用ハ糶賣ニ因リ得タル代金中ヨリ之ヲ差引
ク可カラズ

然レ債主中ノ一人其相當ノ證書ヲ差出シタルト雖モ掛リ裁判役公
務ヲ以テ其債主ノ償ヲ得可キ權利ヲ却還シタル時其債主後ニ裁判
所吟味ノ席ニ出テ己ノ權利ヲ申述ヘ外ニ其權利ニ付キ争ヲ爲ス者
ナシ裁判所ニテ其權利ヲ允許シタルニ於テハ其訴訟ノ費用ヲ己レノ

債ヲ得可キ債ト同一ノ順序ニ爲シテ糶賣代金中ヨリ取戻スヲ得可シ

順序ノ争アル債主ヨリ後ニ列次ス可キ債主數人ノ代書師 第七百六十條見合

ハ其債主數人ヨリ前ニ列次スル債主等ニ糶賣代金ヲ分配シタル上

尙餘リタル金高中ヨリ自己ノ爲シタル費用ノ償ヲ得可シ〇同上ノ

代書師ニ其費用ノ償ヲ許ルス裁判言渡書ニハ償ノ償ヲ得ルヲ能ハ

サル債主又ハ負債者其代書師ノ權ニ代テ負訴訟ノ債主ヨリ代書師

ノ費用高ニ當ル可キ金高ノ償ヲ得ント訴フルヲ允許スル言渡ノ

旨ヲ附記ス可シ〇其裁判言渡ノ如ク執行フ可キヲ記シタル書面

裁判言渡書ニ記ニハ前文ノ旨ヲ記シ且其言渡ノ爲メ利益ヲ得可キ

入シタルモノ

債主又ハ負債者ノ姓名ヲ記ス可シ

債主ノ順序ニ付テノ訴訟ノ時争ヲ爲ス者又ハ争ヲ受クル者其證書

ヲ出スヲ怠ル時ハ縱令克訴訟トナルト雖モ其訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

債主ノ順序ニ付テノ訴訟ニ付キ裁判ノ費用ヲ相手方ニ償フ可キノ

言渡ヲ受ケタル債主糶賣代金中ヨリ己ノ償ノ償ヲ得可キ順序ナル

時ハ其者ノ得可キ金高中ヨリ相手方ニ償フ可キ裁判費用ノ高ヲ差

引ク可シ但シ此事ハ債主ノ順序ヲ定ムルニ付テノ別段ノ規則ナリ

トス

第七百六十七條 (千八百五十八年五月廿一日左ノ如ク改ム) 掛リ裁判

役債主等ノ順序ヲ確定シタル言渡ヨリ三日内ニ其手續ヲ爲シタル

者ノ代書師ヨリ他ノ債主又ハ糶ニテ買入レタル者又ハ負債者ノ代

書師ニ書面ヲ送リテ其言渡ノ旨ヲ報告ス可シ

債主中ノ一人又ハ買入人又ハ負債者全上ノ言渡ニ付キ故障ヲ述ヘ

ソトスル時ハ必ス其言渡ヨリ八日内ニ之ヲ述ヘ且其時ヨリ更ニ八日内ニ裁判所休業ノ時ト雖モ其代書師ヨリ他ノ數人ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ要ム可シ但シ負債者代書師ヲ任セサル時ハ定例ノ呼出狀ヲ其住所ニ送達ス可シ○此故障ヲ述フル訴ヲ吟味シ及ヒ裁判スル方法並ニ其裁判言渡ノ控訴ヲ吟味シ及ヒ裁判スル方法ハ第七百六十一條第七百六十二條第七百六十四條ニ記スル所ニ循フ可シ

第七百六十八條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債ノ債ヲ得ルヲ能ハサル債主又ハ負債者ハ債主ノ順序ニ付キ争アル時間ノ息銀ニ付キ負訴訟ノ債主ニ對シ債ヲ得ントスル訴ヲ爲スヲ得可シ

第七百六十九條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 掛リ裁判役ノ爲シタル債主ノ順序ヲ定ムル言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可カラサル期限ニ至リシ日ヨリ十日内ニ裁判所ノ書記官ハ是迄債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ爲シタル債主ノ代書師ニ其裁判言渡書ノ寫ヲ渡シ其代書師之ヲ書入質役所ニ出ス可シ○書入質ノ管轄者ハ掛リ裁判役ノ言渡書ヲ檢視シタル上債ノ債ヲ得ルヲ能ハサル債主等ノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可シ

第七百七十條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 前條ノ定期内ニ裁判所ノ書記官ハ債ノ債ヲ得可キ債主等各人ニ買入人又ハ金高預リ役所ヨリ其債ノ債ヲ得可キ書面ヲ渡ス可シ 債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ爲シタル代書師ノ其費用ノ債ヲ得可キ書面ハ債ノ債ヲ得ルヲ能ハサル債主等ノ書入質ノ權ノ記入ヲ役所ノ簿冊ヨリ塗抹シタルノ受合書ヲ差出サ、レハ之ヲ渡ス可カラズ

○此受合書ハ債主ノ順序ヲ定ムル調書ニ添ヘ置ク可シ
 第七百七十一條 (千八百五十八年五月廿一日左ノ如ク改ム)債ノ償ヲ
 得タル債主等ハ各其得タル金高ノ受取書ヲ買入人ニ與ヘテ其書入
 質ノ權ノ記入ヲ塗抹スルコトヲ承諾ス可シ○書入質ノ管轄者ハ償ヲ
 得タル債主其償ヲ得可キ爲メ管テ裁判所ノ書記官ヨリ渡シタル書
 面ト其債主ノ金高受取書トヲ檢視シタル上其書入質ノ權ノ記入ヲ
 公務ヲ以テ次第ニ塗抹ス可シ
 又其管轄者管テ自己ノ公務ヲ以テ爲シタル書入質ノ權ノ記入ハ法
 第二千百 八條見合 耀ニテ買入レタル者ヨリ債主又ハ負債者ニ其代金ヲ盡ク
 拂ヒタルノ證ヲ立テタル上コト之ヲ塗抹ス可シ
 第七百七十二條 (千八百五十八年五月廿一日左ノ如ク改ム)負債者ノ
 一 不動産ヲ差押ヘテ耀賣ト爲スヨリ更ニ他ノ方法ヲ以テ其不動産ヲ

賣拂フ時ハ債主中ノ一人又ハ其買入人ヨリ債主ノ償ヲ得可キ順序
 ヲ定メント訴フルコトヲ得可シ
 又其訴ハ賣主ヨリモ之ヲ爲シ得可シト雖モ買入人ヲシテ其代金ヲ
 拂ハシムルニ付テノ猶豫ノ期限内ニ之ヲ爲ス可カラズ
 此場合ニ於テハ書入質ノ權ヲ滌除ス可キ爲メ定メタル法式ヲ行ハ
 スシテ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可カラズ
 其訴ヲ爲ス法式ハ此章中ニ記列スル所ニ等シカル可シ
 法律上ノ書入質ノ權ヲ有スル債主民法第二千九十五條ニ定メタ
 ル定期内ニ其書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入セシメサル時ハ其定
 期ヨリ三月内ニ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴アルニ非レハ他ノ債主ヨ
 リ先キニ其償ヲ得可キノ權ヲ行フコトヲ得ス但シ法律上ノ書入質ノ
 權ヲ有スル債主ハ第七百十七條ノ最終ノ一項ニ記シタル規則ニ循

フ可シ

六六三

第七百七十三條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債債者ノ不動産ヲ賣拂フタル方法ノ如何ナルヲ問ハズ自己ノ書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シタル債主ノ數四人ヨリ少ナキ時ハ債主ノ順序ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可カラズ

債主ノ順序ヲ定ムル訴ノ手續ヲ爲ス者ハ第七百五十條及ヒ第七百七十二條ニ記シタル定期ノ後ニ至リ第七百五十一條ニ記シタル法式ト定期トニ從ヒ債主等ヲシテ互ニ協議シテ其順序ヲ定ムルノ手續ヲ爲サシム可キ爲メ別段掛リ裁判役ニ願書ヲ出シ若シ又別段掛リ裁判役アラサル時ハ裁判所ノ上席人ニ其願書ヲ出ス可シ
債主等相協議シテ其順序ヲ定メサル時ハ裁判所ニテ訴ノ手續ヲ爲ス者ノ願ニ因リ債主及ヒ其他ノ者ニ呼出狀ヲ送り急速吟味ノ法式

ヲ以テ其債主ノ順序ヲ定ム可シ但シ各債主及ヒ其他呼出ヲ受ケル者ノ憑據ヲ記シタル書面ヲ差出スノ外別段訴訟ノ手續ヲ爲スニ及ハス○此訴訟ノ裁判言渡書ハ債主及ヒ其他呼出ヲ受ケタル者ノ代書師ヲ任シタル時ハ其代書師ノミニ送達ス可シ

此裁判言渡ヲ控訴シタル時ハ第七百六十三條及ヒ第七百六十四條ノ如ク處置ス可シ

第七百七十四條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債債者ノ不動産ヲ買入レタル者ハ書入質ノ權ノ記入ノ寫書ヲ得ルノ費用及ヒ其記入ヲ爲シタル債主等ニ報告民法第二千百八十三條見合ヲ爲スノ費用ノ債主他人ヨリモ先キニ得可キノ特權アリ

七六三

第七百七十五條 (千八百五十八年五月廿一日左ノ如ク改ム) 債主ハ債債者ノ他人ヨリ債主得可キ權利ヲ保全ス可キ爲メ其負債者ノ書入

質ノ權ヲ記入スルコトヲ得可シ但シ其負債者ノ相當ノ順序ヲ以テ人ヨリ償ヲ得タル金高ハ債主ノ順序ヲ定ムル前ニ既ニ自己ノ書入質ノ權ヲ記入シタル債主又ハ其前ニ自カラ償ヲ得可キノ權アル旨ヲ陳述シタル債主數人ニ之ヲ動産ニ等シク分派ス可シ

第七百七十六條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 債主ノ

償ヲ得可キ順序ヲ定ムル訴訟ノ手續ヲ爲ス代書師第七百五十三條

第七百五十五條ノ第二項第七百六十九條ニ記シタル法式ト定期ト

ニ循ハカル時ハ別ニ裁判所ニ呼出テ受ルコトナク又別ニ裁判所ノ言

渡ヲ受クルコトナクシテ其訴訟ノ手續ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ○掛リ

裁判役ハ債主又ハ其他管係アル者ノ願ニ因リ又ハ自己ノ公務ヲ以

テ是迄ノ代書師ヲ引易フルコトヲ言渡シ其言渡テ債主順序ノ調書ニ

附記ス可シ○此言渡ハ之ヲ取消サント訴フルコトヲ許サス

又別段任セラレタル代書師 第七百五十條見合セ 第七百五十八條及ヒ第七百

六十一條ニ記シタル務ヲ行ハサル時ハ前項ニ記スル所ニ等シク他

ノ代書師ト引易ヘラル可シ

同上ノ訴訟ノ手續ヲ爲スノ權ヲ失ヒシ代書師ハ速カニ其代任ノ代

書師ニ證書類ヲ引渡シ其受取書ヲ取り置ク可シ且其權ヲ失ヒシ代

書師ハ債主ノ順序ノ定マリタル後ニ非レハ其費用ノ償ヲ得可カラ

ス

第七百七十七條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 負債者

ノ不動産ヲ抵償トシテ差押ヘタル時其不動産ヲ糶ニテ買入レタル

者債主ノ償ヲ得ル順序ノ調書ヲ成就スル前ニ書入質ノ權ノ記入ヲ

塗抹セント欲スル時ハ其不動産ノ代金ト既ニ拂期限ニ至リシ其息

銀トシ役所ニ預ク可シ但シ其買入ルハ此事ヲ爲ス前ニ債主等ニ其

代金ノ提供ヲ爲スニ及ハス
 若シ又債主ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ニ取掛ラサル時ハ不動産
 ノ買入人第七百五十條ニ記シタル定期ノ終リシ後其手續ニ取掛ル
 可キトテ訴フ可シ〇其買入人其訴ヲ爲スニハ代金ヲ預ケタル役所
 ノ受取書ヲ掛リ裁判役ニ差出シ且其代金ヲ預ケタルノ法ニ適シ
 タル旨ト書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹ス可キ旨トノ言渡ヲ得ント欲ス
 ルトテ陳述スル書面ヲ差出ス可シ
 第七百五十四條ニ記シタル債主等ノ其證書ヲ出ス可キ定期ノ終リ
 シ時ヨリ八日內ニ同上ノ不動産買入人ハ其代書師ヲシテ債主等ノ
 代書師ニ招書ヲ送ラシメ且負債者代書師ヲ任セサル時ハ其負債者
 ニ呼出狀ヲ送達セシメ此等ノ者ニ裁判所ニ出席シテ己レノ差出シ
 置キタル書面ヲ檢視シ若シ故障アラハ十五日內ニ之ヲ述フ可キト

ヲ要ム可シ〇若シ其十五日內ニ故障ヲ述フルトナキ時ハ掛リ裁判
 役買入人ノ代金ヲ預ケタルノ法ニ適シタル旨ト總テノ書入質ノ
 權ノ記入ヲ塗抹シ其權ヲ有スル債主等ハ其代金中ヨリ償ヲ得可キ
 旨トテ言渡シ其言渡ヲ債主順序ノ調書ニ附記ス可シ〇若シ又故障
 ヲ述フル者アル時ハ債主ノ順序ヲ定ムル手續ヲ遅延スルトナク其
 故障ノ裁判ヲ爲ス可シ
 又債主ノ償ヲ得ル順序ヲ定ムル手續ニ既ニ取掛リタル時ハ同上ノ
 不動産買入人ヨリ其代金ト息銀トテ役所ニ預ケタル後前文ニ等シ
 キ言渡ヲ得ント欲スル陳述ヲ債主順序ノ調書ニ附記シ其代書師ヲ
 シテ之ニ姓名ヲ手署セシメ且代金ヲ預リタル役所ノ受取書ヲ差出
 ス可シ〇然ル上ハ債主等ノ其證書ヲ出ス可キ期限ノ終リシ後前文
 ニ記スル所ノ如ク處置ス可シ

又負債者ノ不動産ヲ差押ヘテ之ヲ糶賣ト爲スヨリ更ニ他ノ方法ヲ以テ負債者ノ不動産ヲ賣拂フタル時其買入人一通リ書入質ノ權ノ記入ヲ滌掃スル法式ヲ行ヒタル上總テノ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ヲ全ク滌掃セント欲スルニ於テハ其不動産ノ代金ト息銀トヲ役所ニ預ク可シ但シ其買入人ハ此事ヲ爲ス前ニ債主等ニ其代金ノ提供ヲ爲スニ及ハス○其買入人其代金及ヒ息銀ヲ役所ニ預ケントスルニハ其賣主ニ十五日内ニ總テノ書入質ノ權ノ記入ヲ塗抹シタル證書ヲ渡ス可キヲ要メ且其賣主ニ已レノ役所ニ預ク可キ總金高ヲ告知ス可シ○十五日ノ期限ヲ經タル後其買入人代金ト息銀トヲ役所ニ預ク其時ヨリ三日内ニ買入人役所ノ受取書ヲ掛リ裁判役ニ出シテ債主ノ順序ヲ定ムル手續ニ取掛ル可キヲ願フ可シ○然ル上ハ其願ニ從ヒ前數項ニ記シタル如ク其順序ノ手續ニ取掛ル可シ

第七百七十八條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)買入人其代金ト息銀トヲ役所ニ預クルトニ付キ故障ヲ述フル者アル時ハ其者其憑據ヲ債主ノ順序ノ調書ニ附記ス可シ若シ此手續ヲ爲サハル時ハ其故障ヲ述ヘタルノ効ナカル可シ○然ル上ニテ掛リ裁判役ハ其故障ノ裁判ヲ裁判所吟味ノ席ニテ受ク可キヲ言渡ス可シ此事ニ付キ裁判所吟味ノ席ニ訴出スル者ハ其代書師ヲシテ其訴ニ管係アル他ノ者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其吟味ヲ受クルニ付キ各其憑據ヲ記シタル願書ヲ出サシムルノ外別ニ訴訟ノ手續ヲ爲スニ及ハス但シ此場合ニ於テハ第七百六十一條第七百六十三條第七百六十四條ニ記スル如ク處置ス可シ
全上ノ買入人ハ其手續ヲ爲シタル費用ヲ代金中ヨリ差引ク可キノ言渡ヲ得可シ

第七百七十九條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム)債主ノ

債ヲ得可キ順序ヲ定ムル手續ヲ爲ス間又ハ既ニ其順序ヲ確定シ債

主ニ其債ノ償ヲ得可キ書面ヲ渡シタル後ニ買入人其代金ヲ拂ツテ

能ハサルニ因リ再ヒ不動産ヲ糶賣ト爲スコトアル時ト雖モ債主ノ順

序ヲ改メ定ムルノ手續ヲ更ニ爲スニ及ハス○掛リ裁判役ハ再度ノ

糶賣ノ模様ニ隨テ債主ノ其債ノ償ヲ得可キ書面ヲ點易シテ再度ノ

買入人ヨリ其債ノ償トシテ代金ヲ受取ル可キ書面ヲ債主等ニ渡ス

可シ

○第十五章 負債者ヲ禁錮スル事

第七百八十條 債主ハ負債者ノ其債ヲ償ハサルニ因リ之ヲ禁錮ス可

キノ裁判言渡書ヲ其要決ノ書ト共ニ負債者ニ送達シタル時ヨリ一

日ノ後ニ非レハ其言渡ノ如ク禁錮スルコトヲ得ス○此等ノ書面ハ其

言渡書ヲ以テ別段任シタル使吏又ハ負債者所在ノ地ノ初告裁判所

ノ上席人ノ別段任シタル使吏之ヲ送達ス可シ○其訴ヲ爲シタル債

主其言渡ヲ爲シタル裁判所所在ノ邑内ニ住セサル時ハ別段其地ニ

住所ヲ撰ミタル旨ヲ全上ノ書面ニ附記ス可シ

第七百八十一條 左ノ場合ニ於テハ負債者ヲ召捕フ可カラス

第一 日出ノ前及ヒ日没ノ後

第二 法律ニテ定メタル祭日

第三 寺院及ヒ禮拜堂ニテ拜神ノ式ヲ爲ス時閉

第四 官署ニテ官員會議シテ事務ヲ取扱フ時閉

第五 如何ナル場所タルヲ問ハス人ノ住家内又ハ負債者自己ノ

住家内但シ其地ノ治安裁判役負債者ノ自己ノ住家又ハ他人ノ

住家内ニテ之ヲ召捕フ可キコト言渡シ使吏ト共ニ其家屋ニ至

ル時ハ格別ナリトス

六七三

第七百八十二條 又負債者訴訟ノ證人トナリテ懲治罪裁判所又ハ民法初告裁判所又ハ重罪審院又ハ控訴院ニ呼出テ受ケ往來自在ノ手形ヲ所持スル時ハ之ヲ召捕フ可カラズ但シ其手形ハ負債者ヲ證人トシテ呼出シタル裁判所ノ裁判役檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニテ之ヲ渡ス可シ○其手形ニハ其効アル可キ期限ヲ記ス可シ若シ其期限ヲ記セサル時ハ全ク其効ナシトス○負債者其手形ヲ所持スル時ハ其證人トナリテ裁判所ニ出ルノ日又ハ裁判所ニ往返スル時間之ヲ召捕フ可カラズ

第七百八十三條 負債者禁錮ノ調書ニハ通常ノ呼出狀ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ左件ヲ附記ス可シ

第一 再次ノ要決書

第二 債主負債者ヲ禁錮セントスル地ノ邑内ニ住セサル時ハ別段其邑内ニ住所ヲ擇ミタル事

使吏其調書ヲ送達スル時ハ補佐ノ爲メ立會人二人ヲ伴行ス可シ

第七百八十四條 一度負債者ニ要決ノ書ヲ送リタルヨリ滿一年ヲ過キタル後ハ別段任テ受ケタル使吏更ニ負債者ニ要決ノ書ヲ送達ス可シ

第七百八十五條 若シ負債者使吏ニ抗スル時ハ使吏其負債者ノ走脱ヲ防ク可キ爲メ其門戸ニ番人ヲ置キ自カラ兵力ヲ借リニ趣ク可シ但シ此場合ニ於テハ負債者治罪法ノ規則ニ循ヒ犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

七七三

第七百八十六條 負債者至急吟味ヲ受ケント願フ時ハ其召捕ハレタル地ノ初告裁判所ノ上席人ノ面前ニ呼出テ受ケ上席人至急吟味ヲ

爲シテ之ヲ裁判ス可シ○又裁判所ノ聽訟刻限外ニ召捕ハレタル時
ハ債債者其上席人ノ家ニ呼出サル可シ

第七百八十七條 至急吟味ノ裁判言渡ハ使吏ノ調書ニ記入シテ即時
コ之ヲ執行フ可シ

第七百八十八條 負債者至急吟味ヲ受シ可キヲ願ハス又ハ至急吟
味ヲ願フト雖モ裁判所ノ上席人其願ヲ聞届ケサル時ハ負債者ヲ其
地ノ獄舎ニ入レ若シ其地ニ獄舎ノアヲサル時ハ最近ノ獄舎ニ入ル
可シ○負債者ヲ禁錮スル爲メ法律上ニ定メ置キタル以外ノ場所ニ
負債者ヲ連行キ又ハ受取リタル使吏及ヒ其他ノ者ハ法ニ背キテ人
ヲ禁錮シタルノ罰ヲ受シ可シ

第七百八十九條 獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書ニハ左件ヲ記ス可
シ

第一 負債者召捕ノ言渡書

第二 債主ノ姓名住所

第三 債主獄舎ノアル邑内ニ住セサル時ハ別段其邑内ニ住所ヲ

擇ミタル事

第四 負債者ノ姓名居所職業

第五 債主負債者ノ養料ヲ少クトモ一月分官署ニ預ケタル事

第六 負債者禁錮ノ調書一通及ヒ獄監ノ負債者ヲ受取リタル調

書一通ヲ負債者ニ渡シタル事

獄監ノ負債者ヲ受取リタル調書ニハ使吏其姓名ヲ手署ス可シ

第七百九十條 獄監ハ其簿冊ニ召捕ノ言渡書ヲ登記ス可シ○若シ使

吏其言渡書ヲ獄監ニ示サ、ル時ハ獄監負債者ヲ受取リ之ヲ獄ニ入

ル、コヲ承諾ス可カラス

第七百九十一條 債主ハ豫メ負債者ノ養料ヲ官署ニ預ケ置ク可シ〇
若シ是迄負債者ヲ禁錮セシメタル債主其負債者ヲ赦ス時更ニ他ノ
債主猶之ヲ禁錮シ置カント爲スニ於テハ以前ノ債主其預ケ置キタ
ル負債者ノ養料ヲ取戻ス可カラズ但シ後ニ其負債者ヲ禁錮セント
スル債主ノ承諾ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第七百九十二條 負債者其債ヲ拂ハサルニ因リ債主ノ爲メニ獄舎ニ
禁錮セラレ其債主ノ赦ヲ得タル時ニ至テ之ヲ禁錮セシムルヲ得可
キ他ノ債主更ニ猶之ヲ禁錮シ置クヲ得可シ〇又是迄罪ヲ犯シタ
ルニ因リ獄ニ禁錮セラレタル者其罪ノ赦ヲ受ケ且獄ヲ出ツ可キノ
言渡ヲ得タル時其債主ハ猶之ヲ獄ニ禁錮シ置クヲ得可シ

第七百九十三條 是迄禁錮ヲ受ケタル負債者ヲ債主猶禁錮シ置カ
ント欲スル時ハ初メテ之ヲ禁錮スル時ニ等シキ法式ヲ行フ可シ但シ

此場合ニ於テハ使吏其立會人ヲ伴行スルニ及ハス又以前ノ債主營
テ負債者ノ養料ヲ預ケ置キタル時ハ猶之ヲ禁錮セント欲スル債主
別ニ其養料ヲ出スニ及ハス

以前負債者ヲ禁錮セシメタル債主ハ其禁錮ヲ繼續セシメント欲ス
ル債主ヲシテ己レノ預ケ置キタル養料ノ平當ナル一部ヲ擔當セシム
ルコトヲ其獄舎ノ地ノ初告裁判所ニ訴フルヲ得可シ

第七百九十四條 債主前數條ニ定メタル法式ヲ行ハサル時ハ負債者
其禁錮ノ言渡ヲ取消スノ訴訟ヲ爲スヲ得可シ但シ其訴ハ獄舎ノ
アル地ノ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ〇若シ又負債ノ訴ノ本案ニ付キ其
禁錮ノ言渡ヲ取消サントスル時ハ其言渡ヲ執行フタル裁判所ニ其
取消ノ訴ヲ爲ス可シ

第七百九十五條 何レノ場合ニ於テモ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消サ
ン

トスル訴ヲ爲スハ裁判役ノ允許ヲ得タル上急速ニ之ヲ爲シ特ニ任ヲ受ケタル使吏債主ノ別段擇ミタル住所獄監ノ負債者ニ受取リタル調書ニ記セシモノニ呼出狀ヲ送達ス可シ但シ其訴ハ裁判所ニテ檢察官ノ説ヲ聽キタル上急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第七百九十六條 如何ナル理由ニ付キ負債者禁錮ノ言渡ヲ取消シタルト雖モ之ヲ取消シタルニ因リ他ノ債主ノ猶其負債者ヲ禁錮シ置ク可キヲ取消ス可カラズ

第七百九十七條 禁錮ノ言渡ノ取消ヲ得タル負債者ハ其獄ヲ出テタルヨリ少クモ一日ノ後ニ非レハ同一ノ負債ニ付キ召捕ラル、コナカル可シ

第七百九十八條 負債者ハ其禁錮ヲ受ケシ理由タル負債ノ金高ト召捕ノ費用トヲ獄監ニ預ケテ自由ヲ得ルコトヲ得可シ

第七百九十九條 負債者禁錮ノ言渡ノ取消ヲ得タル時ハ債主其負債者ニ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受クルコトアル可シ

第八百條 禁錮ヲ受ケタル負債者ハ左ノ諸件ニ因リ其自由ヲ得ルコトヲ得可シ

第一 禁錮ヲ爲サシメタル債主ノ承諾及ヒ其禁錮ヲ繼續セシメントスル他ノ債主アル時ハ亦其債主ノ承諾

第二 禁錮ヲ爲サシメタル債主及ヒ其禁錮ヲ繼續セシメントスル債主ニ負債ノ金高並ニ其息銀及ヒ訴訟ノ費用高禁錮ノ費用高並ニ債主ノ出セシ養料ヲ拂ヒ又ハ之ヲ官署ニ預クル事

第三 負債者己ノ財産ヲ盡ク債主ニ拋棄スル事 民法第一千二百六十八條見合

第四 債主預メ負債者ノ養料ヲ預ケサル事

第五 負債者七十歳ノ齡ニ至リシ時但シ此場合ニ於テモ負債者

「ステリヲナリ」民法第二千五百十九條見合

第八百一條 債主其負債者ヲ自由ニ爲スヲ承諾スル旨ハ公證人ノ
面前ニテ之ヲ書面ニ記シ又ハ獄監ノ負債者ヲ受取ル書面ヲ記シテ
簿冊ニ之ヲ記入ス可シ

第八百二條 負債者ハ別ニ裁判言渡ヲ得スニテ其負債ノ金高ヲ獄監
ニ預クルヲ得可シ若シ獄監之ヲ受取ルヲ肯セサル時ハ負債者
別段裁判所ノ允許ヲ得テ其獄監ヲ速カニ裁判所ニ呼出ス可シ但シ
其呼出狀ハ別段任ヲ受ケタル使吏之ヲ送達ス可シ

第八百三條 若シ債主負債者ノ養料ヲ預ケサル時ハ獄監其旨ヲ證ス
ル受合書ヲ負債者ニ渡シ負債者ノ自由ヲ得ント求ムル所ノ願書ニ
添ヘ之ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シタル上別ニ債主ヲ呼出スヲナク
裁判所ニテ其自由ヲ得可キ旨ヲ言渡ス可シ

然レ債主負債者ノ養料ヲ預クルヲ遲延シタル場合ニ於テ負債者
其自由ヲ得ント欲スル願ヲ爲ス前ニ債主其養料ヲ預ケタル時ハ裁
判所ニ於テ負債者ノ其自由ヲ得ントスル願ヲ取上ク可カラズ

第八百四條 債主ノ養料ヲ預ケサルニ因リ負債者其自由ヲ得タル時
ハ債主其負債者ニ其自由ヲ得ル手續ニ付テノ費用ヲ償ヒ又負債者
之ヲ受取ルヲ肯セサル時ハ之ヲ裁判所ノ書記官ニ預ケ且豫メ負
償者ニ給ス可キ六月ノ養料ヲ預クルニ非ザレハ債主其負債者ヲ再
ヒ禁錮セシムルヲ得ス○債主一度自由ヲ得タル負債者ヲ再ヒ禁
錮セント爲スヲ管テ要決ノ書ヲ送リタルヨリ一年内ナル時ハ更ニ
禁錮ヲ爲サシムルノ手續ヲ改メ爲スニ及ハス

三八五 第八百五條 負債者自由ヲ得ントスル訴ハ其禁錮ヲ受ケタル獄舎所
在ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ○其訴ヲ爲スニハ先ツ其

旨ヲ裁判役ニ願ヒ裁判役ノ允許ヲ得タル上債主ノ當テ擇ミタル住
所ニ急速ニ出呼狀ヲ送達ス可シ又其訴ノ旨ヲ檢察官ニ報告シタル
上別段ノ手續ヲ爲スニ及ハヌ遲引ナク他ノ訴ヨリ最モ先キニ其訴
ヲ裁判ス可シ

○第十六章 至急吟味ノ事

第八百六條 總テ至急ノ場合ノ時又ハ裁判言渡ヲ執行フ可キ證書ノ
如ク執行ヒ又ハ裁判言渡書ノ如ク執行フニ付テノ故障ヲ裁判ス
可キ時ハ左ノ如ク之ヲ處置ス可シ

第八百七條 至急吟味ヲ願フ訴ハ裁判所ヨリ定メタル日刻ニ裁判所
ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ別段設クル所ノ吟味ノ
席ニ之ヲ爲ス可シ

第八百八條 若シ又別段至急ナルヲ要スルコトアル時ハ裁判所ノ上席

人又ハ之ニ代ル可キ裁判役至急吟味ヲ願フ訴ヲ受ケタル一日内ニ
其祭日タルヲ間ハヌ別段刻限ヲ定メ被告人ヲ裁判所吟味ノ席ニ呼
出シ又ハ其上席人又ハ其代員ノ住宅ニ之ヲ呼出ス可キコト原告人
ニ許ス可シ但シ此場合ニ於テハ原告人其上席人又ハ其代員ノ允許
ヲ得タル上其別段任シタル使吏ヲシテ被告人ニ其呼出狀ヲ送達セ
シムルニ非レハ其呼出ヲ爲スコト不得ス

第八百九條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡ハ訴訟ノ本案ノ害トナルコトナ
カル可シ○其裁判言渡ハ別ニ保證人ヲ立ルコトナク假ニ之ヲ執行フ
可シ但シ裁判役ヨリ別ニ保證人ヲ立ツ可キコト言渡シタル時ハ格
別ナリトス

全上ノ裁判言渡ハ抗傳者其故障ヲ述フルコト不得ス

全上ノ裁判言渡ニ服セサル者控訴ヲ爲シ得可キコト法律上ニテ允

訴シタル場合ニ於テハ其言渡ヨリ八日ノ期限ニ至ラサル内ト雖モ之ヲ爲スヲ得可シ又一方ノ者其裁判言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十五日ノ後ニ至ル時ハ其控訴ヲ爲スヲ許サス其控訴ハ別段手續ヲ爲スヲナク急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第八百十條 至急吟味ノ上ノ裁判言渡書ノ正本ハ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第八百十一條 然レ極メテ切迫ナルコトアル時ハ裁判役其言渡書ノ正本ヲ以テ其言渡ノ如ク執行ヲ可キノ證書ト爲スヲ許言渡スヲ得可シ

○下篇 種々ノ訴訟ノ手續

○第一卷 (千八百六年四月二十二日決定五月二日布告)

○第一章 負債者債主ニ其債ヲ償還セント提供スル事及ヒ其借高ヲ官署ニ預クル事

第八百十二條 負債者債主ニ其債ヲ償還セント提供スル調書ニハ其提供スル品物ヲ詳カニ記シテ他物ヲ代用スルコトナカラシム可シ若シ又度量ス可キ物金高穀物飲料ヲ提供スル時ハ其度量シタル高ト其性質トヲ記ス可シ

第八百十三條 同上ノ調書ニハ債主負債者ノ提供シタル品物又ハ金高ヲ受取ルコトヲ承諾シタルヤ又ハ之ヲ承諾セサルヤノ答書ヲ記入シ且債主其答書ニ姓名ヲ手署シタルヤ又ハ手署スルコトヲ肯セサルヤ又ハ手署スルコトヲ知ラヌト述ヘタルヤヲ附記ス可シ

第八百十四條 若シ債主負債者ノ提供シタル品物又ハ金高ヲ受取ル
トシ承諾セサル時ハ負債者其義務ヲ免ル、爲メ民法第千二百五十
九條ニ記シタル法式ニ循ヒ其提供シタル品物又ハ金高ヲ官署ニ預
クルトシ得可シ

第八百十五條 提供シタル事又ハ官署ニ預ケタル事ハ法ニ適シタル
言渡ヲ得ントスル訴又ハ此等ノ事ノ効ナカル可シトノ言渡ヲ得ン
トスル訴ハ主タル訴ヲ爲スノ法式ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此等ノ
訴附帶ノ訴タル時ハ願書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第八百十六條 提供シタル物件ノ未タ官署ニ預ケサル時提供ノ法ニ
適シタルトシ定ムル言渡書ニハ若シ債主其提供シタル物件ヲ受取
ルトシ肯セサルニ於テハ其物件ヲ官署ニ預ク可キトシ附記ス可シ
且其言渡書ニハ其物件ヲ官署ニ預ケタル日ヨリ以來債ノ息銀ヲ出

ス可キ義務ノ止ミタルトシモ亦附記ス可シ

第八百十七條 負債者其意ニ因リ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ其債ヲ償
還スル爲メ物件ヲ官署ニ預クル前ニ其債主ノ債主其物件ヲ負債者
ヨリ其債主ニ渡ス可ラサルノ故障ヲ述ヘタル時ハ負債者其故障ヲ
受ケタル儘ニテ之ヲ官署ニ預ケ且其故障ノ旨ヲ其債主ニ報告ス可
シ

第八百十八條 提供及ヒ官署ニ預クルトシ付キ前數條ニ記シタルヨ
リ以外ノ事ハ民法ヲ以テ之ヲ定ム 民法第千二百五
十七條以下見合

〇第二章 土地又ハ家屋ノ所有者其借主ノ動産並ニ收納物ヲ質
トシテ差押フル事及ヒ他ノ地ヨリ來レル負債者ノ動産ヲ質
トシテ差押フル事

第八百十九條 土地又ハ家屋ノ所有者ハ貸貸ノ證書ノ有無ヲ問ハス

既ニ拂期限ニ至リシ貸賃ヲ得ルノ質物トシテ家屋又ハ農業ノ爲メ
設ケタル建物ノ中又ハ土地ノ中ニ在ル借主ノ動産並ニ收納物ヲ差
押フルコトヲ得可シ但シ此差押ヲ爲スニハ先ツ要決ノ書ヲ送り其翌
日ニ至リ別ニ裁判役ノ允許ヲ得スシテ之ヲ爲スコトヲ得可シ又土地
及ヒ家屋ノ所有者ヨリ之ヲ借受ケタル者其下タ貸ヲ爲シタル時ハ
其下タ借ヲ爲シタル者ノ動産及ヒ收納物ヲ差押フル事亦同様ナリ
トス

又其所有者及ヒ下タ貸ヲ爲シタル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ願書
ヲ出シ其允許ヲ得タル上ニテ別ニ要決ノ書ヲ送ラス直チニ其動産
又ハ收納物ヲ差押フルコトヲ得可シ

又此等ノ者ハ借主己ノ承諾ヲ得スシテ其家屋又ハ土地ニ具ヘタル
動産ヲ他所ニ搬運スル時ハ其動産ヲ差押フルコトヲ得可シ且民法第

二千百二條ニ循ヒ其他所ニ搬運シタル動産他人ノ手ニアルヲ取戻
カント訴フル時ハ其動産ヲ質トシテ他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得可
キノ特權ヲ有ス可シ

第八百二十條 家屋又ハ土地ノ所有者ハ其借受人借賃ヲ拂ハカル時
其償ヲ得シカ爲メ下タ借ヲ爲シタル者ノ其借り受ケタル家屋又ハ
土地ニ具ヘタル動産又ハ收納物ヲ質トシテ差押フル事ヲ得可シ但
シ其下タ借ヲ爲シタル者ハ既ニ正シク其借賃ヲ拂ヒタルノ證ヲ立
ツル時ハ其差押ヲ免ル、コトヲ得可シト雖モ契約ニ依ラス借賃ヲ前
拂ニ爲シタルコトヲ述ヘ其差押ヲ免ル、コトヲ得ス
民法第七百五
十三條見合

第八百二十一條 貸賃ノ償ヲ得可キ質トシテ動産ヲ差押フル事ハ負
債ノ抵償トシテ動産ヲ差押フルト同様ノ法式ニ循フ可シ且其差押
ヲ受ケタル者ヲ其動産ノ預リ人ト爲スコトヲ得可シ若シ又收納物ヲ

差押フル時ハ前卷第九章ノ規則ニ循フ可シ

第八百二十二條

凡ソ債主ハ其債ノ證書ヲ有セサル時ト雖モ初告裁判所ノ上席人又ハ治安裁判役ノ允許ヲ得タル上別ニ要決ノ書ヲ送ルニ及ハスシテ他ノ地ヨリ來レル負債者ニ屬スル其邑内ニ在ル動産ヲ差押フルヲ得可シ

第八百二十三條

其差押ヘタル動産其差押ヲ爲シタル者ノ手元ニアル時ハ其者自カラ其預リ人トナルヲ得可シ然ラサレハ別ニ其預リ人ヲ定ム可シ

第八百二十四條

此章ニ記スル差押ノ法ニ適シタル言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヘタル動産ヲ賣拂フ可カラス○第八百二十一條ノ場合ニ於テハ差押ヲ受ケタル者又第八百二十三條ノ場合ニ於テハ差押ヲ爲シタル者又別ニ預リ人ヲ定メタル時ハ其預リ人必ス其預

ル所ノ動産ヲ引渡ス可シ若シ之ヲ引渡サ、ルニ於テハ禁錮ヲ受ル可シ

第八百二十五條

其他ノ諸件ニ付テハ動産ヲ抵償トシテ差押フル事及ヒ其動産ノ賣拂ニ因リ得タル代金ヲ債主數人ニ分派スル事ノ爲メ上篇ニ記シタル所ニ循フ可シ

第三章

自己ノ所有ナリト述フル動産他人ノ手ニ在ルヲ取戻

サントスル爲メ之ヲ差押フル事

第八百二十六條

自己ノ所有ナリト述フル動産他人ノ手ニ在ルヲ取戻サントスル爲メ之ヲ差押ントスル者ハ先ツ初告裁判所ノ上席人ニ願書ヲ差出シ其上席人ノ之ヲ允許スル言渡ヲ得タル上ニ非レハ其差押ヲ爲ス可カラス若シ其願書ヲ差出シテ允許ヲ得タルトナク其差押ヲ爲シタル時ハ之ヲ爲シタル本人並ニ使吏其相手方本人ニ

損失ノ償ヲ爲ス可シ

第八百二十七條 前條ノ差押ヲ爲ス可キ允許ヲ得ントスル願書ニハ

其差押ントスル動産ヲ簡畧ニ記載ス可シ

第八百二十八條 裁判役ハ法律上ニ定メタル祭日ト雖モ同上ノ動産

差押ヲ爲スコトヲ許ルスヲ得可シ

第八百二十九條 一方ノ者他人ノ所有スル動産ヲ己レノ所有ナリト述

ヘテ之ヲ取戻ス可キ爲メ差押ヲ爲サントスル時現ニ之ヲ有スル者

其門戸ヲ開クコトヲ肯セス又ハ其差押ヲ承諾セサル時ハ其旨ヲ初告

裁判所ノ上席人ニ訴ヘ至急吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ク可シ但

シ其吟味ノ間ハ差押ヲ猶豫ス可シト雖モ其差押ヲ爲サントスル者

其門戸ノ前ニ番人ヲ附ケ置ク可シ

第八百三十條 此章ニ記シタル動産差押ヲ爲スノ法式ハ上篇第八章

ニ記シタル所ノ動産差押ヲ爲ス時ト同一タル可シ

第八百三十一條 此章ニ記シタル動産差押ノ法ニ適シタルトノ言渡

ヲ得ントスル訴ハ其差押ヲ受クル者ノ住所ノ地ヲ管轄スル初告裁

判所ニ申出ス可シ若シ又既ニ爲シタル主タル訴ヲ爲サントスル時

ハ此迄其主タル訴訟ヲ吟味スル裁判所ニ其訴ヲ申出ス可シ

○第四章 負債者其債ヲ償フカ爲メ其不動産ヲ賣拂フタル時債

主更ニ高價ニ之ヲ賣拂ハントスル爲メ再ヒ之ヲ糶賣ニ爲ス

事

第八百三十二條 民法第二千八百八十三條ニ記シタル如ク負債者ノ不

動産ヲ買入レタル者ヨリ其賣主ノ債主ニ送達ス可キ報告書並ニ民

法第二千八百八十五條ニ記シタル如ク其債主同上ノ不動産ヲ更ニ高

價ニ賣拂ハノカ爲メ再ヒ之ヲ糶賣ニ爲ス事ヲ訴フル旨ヲ其不動産

買入人ニ報告スル書面ハ別段之ヲ送達スル使吏ヲ任ス可キヲ初
 告裁判所ノ上席人ニ願フタル上其上席人其使吏ヲ任ス可シ但シ其
 ニ通ノ報告書ニハ買入人及ヒ債主更ニ高價ニ賣ル可キ爲メ再度糶
 賣ニ爲サントスル訴ヲ爲ス裁判所ニ於テ代書師ヲ任シタル旨ヲ附
 記ス可シ
 又債主其負債者ノ賣拂フタル不動産ヲ再ヒ糶賣ニ爲スヲ訴フル
 旨ヲ其買入人ニ報告スル書面ニハ其訴ヲ爲ス債主ノ立ントスル保
 證人ノ姓名住所ヲ附記シ且其買入人ヲシテ其保證人ヲ承諾セシム
 ル爲メ三日内ニ其買入人ヲ裁判所ニ呼出ス旨ヲ附記ス可シ但シ其
 買入人其保證人ヲ承諾セサル時ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ
 爲ス可シ○債主ヨリ不動産ノ買入人ニ送達スル同上ノ書面ハ其買
 入人ノ代書師ノ住所ニ之ヲ送達シ且同上ノ保證人再度ノ糶賣ヲ訴

フル債主ノ保證ヲ爲ス可キ旨ヲ述フル書面ノ寫ト其保證人其保證
 スル所ノ金高ヲ償ヒ得可キ産業ヲ有スル證書ヲ裁判所ノ書記局ニ
 差出シタル旨ヲ記セシ書面ノ寫トテ前ニ記シタル書面ニ添ヘテ買
 入人ノ代書師ニ送達ス可シ
 再度ノ糶賣ヲ爲サント訴フル債主民法第二千四十一條ニ循ヒ保證
 人ヲ立ルヲ能ハサル時保證ノ爲メ金高ヲ官署ニ預ケ又ハ國債ノ證
 票ヲ官署ニ預ケタル時ハ前項ニ記シタル買入人ニ送達スル報告書
 ト共ニ其金高又ハ國債ノ證票ヲ官署ニ預ケタル證書ノ寫ヲ送達ス
 可シ

不動産ノ買入人債主ノ立タル保證人ヲ承諾セサル旨ヲ申述ヘ裁判
 所ニテ其申述ノ如ク允許シタル時ハ債主再度ノ糶賣ヲ爲サントス
 ル訴ノ効ナシ買入人其不動産ヲ己レニ保有ス可シ但シ此迄再度ノ糶

賣ヲ訴ヘタル者ヨリ更ニ他ノ債主別ニ其再度ノ糶賣ヲ訴ヘタル時ハ格別ナリトス

第八百三十三條 債主中ノ一人前條ニ記シタル如ク負債者ノ不動産買入人ヲ裁判所ニ呼出ス旨ト其不動産ヲ再度糶賣ニ爲ス旨トヲ記シタル書面ヲ其買入人ニ送達シタル時其再度ノ糶賣ヲ訴フル債主又ハ不動産ノ買入人其訴ヨリ一ヶ月内ニ再度ノ糶賣ノ手續ヲ爲スヲ怠ルニ於テハ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等は迄其訴ヲ爲シタル債主ノ權ニ代テ再度ノ糶賣ノ手續ヲ爲スヲ訴フルヲ得可シ但シ其權ニ代ル訴ヲ爲サントスルニハ是迄再度ノ糶賣ヲ訴ヘタル者ヨリ更ニ他ノ債主其糶賣ノ訴ニ干涉スルノ願書ヲ出シ其願書ヲ其債主ノ代書師ヨリ是迄訴ヲ爲シタル債主ノ代書師ニ送達セシム可シ

又再度ノ糶賣ヲ爲サント訴ヘタル債主陰ニ負債者又ハ買入人ト謀テ私曲ヲ爲スコアル時又ハ其債主ニ詭偽懈怠アル時ハ自己ノ權利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタル債主等は迄訴ヲ爲セシ債主ノ權ニ代テ糶賣ノ手續ヲ爲サント訴フルヲ得可シ
前ニ記シタル數箇ノ場合ニ於テ是迄再度ノ糶賣ノ訴ヲ爲シタルヨリ更ニ他ノ債主是迄訴ヲ爲セシ債主ノ權ニ代テ糶賣ノ手續ヲ爲スト雖モ再度ノ糶賣ノ時ニ至リ別ニ買入ントスル者ナキ時ハ是迄訴ヲ爲セシ債主其不動産買入ヲ自カラ擔當ス可シ但シ其債主ノ嘗テ立タル保證人ハ猶其保證ノ義務ヲ免ル、コヲ得ス

第八百三十四條 (千八百五十五年三月二十三日廢ス)民法第二千二百一十三條第二千二百二十七條第二千二百二十八條ニ記スル所ニ循ヒ書入質ノ權ヲ有スル債主其引當ト爲シタル不動産賣拂ノ前ニ自己ノ權

利ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入シタルコトナキ時ハ其賣拂ヨリ後ニ至
 リ其賣拂ノ證書ヲ其役所ノ簿冊ニ登記シタルヨリ遅クトモ十五日
 内ニ其債主己ノ權利ヲ其役所ノ簿冊ニ記入シタルノ證書ヲ立テサレ
 ハ民法第三篇第十八卷第八章ニ記スル所ニ循ヒ不動産ヲ再度ノ糶
 賣ニ爲ス可キコトヲ訴フルヲ許サス
 又不動産ニ付キ特權ヲ有スル債主ニ付テモ亦前項ニ記スル所ト同
 一ナリトス但シ此規則ヲ以テ民法第二千八百八條及ヒ第二千九百九條
 ニ因リ不動産ノ賣主又ハ遺物相續人ノ得可キ權利ヲ害スルコトナカ
 ル可シ

第八百三十五條 前條ノ場合ニ於テ不動産ノ買入人ハ其買入ノ旨ヲ
 役所ノ簿冊ニ登記シタル後ニ自己ノ書入質ノ權利ヲ役所ノ簿冊ニ
 記入ヒシ債主等ニ民法第二千八百八十三條及ヒ第二千八百八十四條ニ

記シタル報告ヲ爲スニ及ハヌ又如何ナル場合ニ於テモ此等ノ債主
 法式ニ循ヒ定期内ニ再度ノ糶賣ヲ爲スヲ求メサル時ハ不動産ノ買
 入人民法第二千八百八十六條ニ循ヒ其代金ヲ拂フコトニ義務アリ

トス

第八百三十六條 民法第二千八百八十七條ニ記シタル如ク再度ノ糶賣
 ヲ爲スニハ其手續ヲ爲ス債主左件ヲ記シタル貼附書ヲ刊刷セシム
 可シ

第一 不動産賣拂糶賣ト混スノ證書ノ日附及ヒ大趣旨若シ又不
 動産ヲ交換シ又ハ贈遺ト爲シタル時ハ其交換又ハ贈遺ノ證書
 ノ日附及ヒ大趣旨並ニ此等ノ證書ノ立會ヲ爲シタル證書人ノ
 姓名及ヒ其他其證書ヲ記スルニ管シタル官吏ノ姓名
 第二 不動産ヲ賣拂ズタル價高若シ不動産ヲ交換シ又ハ贈遺上

四〇四

爲シタル時ハ當テ債主等ニ送リタル報告書ニ記セシ其不動産ノ價ノ積リ高

第三 糶賣ヲ爲スニ付キ債主ノ附直段

第四 不動産ノ以前ノ所有者ノ姓名職業住所買入人又ハ交換或

ハ贈遺ニ因リ得タル者ノ姓名職業住所是迄糶賣ノ手續ヲ爲ス

債主ノ姓名職業住所若シ又他ノ債主第八百三十三條ニ循ヒ其

糶賣ヲ爲ス債主ノ權ニ代リタル時ハ其代テ糶賣ノ手續ヲ爲ス

債主ノ姓名職業住所

第五 糶賣ニ爲ス不動産ノ種類並ニ其位置

第六 糶賣ノ手續ヲ爲ス債主ノ代書師ノ姓名居所

第七 糶賣ヲ訴出シタル裁判所並ニ其糶賣ヲ爲ス場所及ヒ日刻

此等ノ諸件ヲ記シタル貼附書ハ糶賣ヲ爲スヨリ少クトモ十五日前

多クトモ三十日前ニ當テ其不動産ヲ所有セシ負債者ノ住所ノ門ト

第六百九十九條ニ記シタル場所トニ之ヲ貼附ス可シ

全上ノ期限内ニ第六百九十六條ニ記シタル新聞紙ニ右ノ諸件ヲ記

入シ且第六百九十八條及ヒ第六百九十九條ニ記シタル如ク貼附ヲ

爲シタルコト新聞紙ニ記入シタルコトヲ證ス可シ

第八百三十七條 糶賣ノ手續ヲ爲ス債主ハ糶賣ヲ爲スヨリ少クトモ

十五日前多クトモ三十日前ニ當テ不動産ヲ所有セシ負債者並ニ其

買入人ニ定マリタル日刻ニ其糶賣ノ場所ニ來テ立會ヲ爲ス可キノ

呼出狀ヲ送達ス可シ○又不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ

之ヲ得タル者其糶賣ノ手續ヲ爲シタル時又ハ是迄其糶賣ノ手續ヲ

爲シタル者ニ代テ他ノ債主糶賣ノ手續ヲ爲シタル時ハ此等ノ者ニ

リ是迄其糶賣ノ手續ヲ爲セシ債主ニ全上ノ呼出狀ヲ送達ス可シ

四〇五

六〇四

又全上ノ定期内ニ不動産ノ買入人又ハ交換或ハ贈遺ニ因リ之ヲ得
 タル者ハ其買入レノ證書又ハ交換或ハ贈遺ノ證書ヲ裁判所ノ書記
 局ニ納メ其證書ヲ以テ糶賣ノ言渡書ニ換用ス可シ
 其糶賣ヲ訴ヘタル債主ノ附直段ヲ以テ糶賣ノ附直段ト爲ス可シ
 第八百三十八條 (千八百五十八年五月二十一日左ノ如ク改ム) 不動産
 糶賣ヲ訴ヘタル債主ハ自カラ其糶賣ノ手續ヲ爲シタルト他ノ債主
 之ニ代テ其手續ヲ爲シタルトモ問ハズ其糶賣ノ爲メ定メタル日ニ
 更ニ高價ニテ買入ントスル者ノ出テ來ラサル時ハ自カラ其不動産
 ヲ買入ル可シ
 其糶賣ニ付テハ第七百一條第七百二條第七百五條第七百六條第七
 百七條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百十七條第七
 百三十一條第七百三十二條第七百三十三條ノ規則ヲ通シ用ヒ且糶

七〇四

賣ノ時直段ヲ附ケタル者即時ニ其代金ヲ拂フヲ能ハサル時ハ其者
 ノ引受ニテ更ニ糶賣ヲ爲サシムルニ付テノ第七百三十四條以下ノ
 規則ヲ通シ用フ可シ
 第七百五條第七百六條第八百三十二條第八百三十六條第八百三十
 七條ノ法式ハ必ス之ニ循フ可シ若シ之ニ背ク時ハ其數條ニ記スル
 諸件ノ効ナカル可シ
 債主ノ糶賣ヲ爲サント訴フル書面ヲ取消サントスル訴及ヒ債主買
 入人ヲシテ其保證人ヲ承諾セシムル爲メ其買入人ヲ呼出ス呼出狀
 ヲ取消サントスル訴ハ保證人ヲ承諾ス可キト否トヲ裁判スル言渡
 ノ前ニ必ス之ヲ爲シ又糶賣ヲ爲ス法式ヲ取消サントスル訴ハ糶賣
 ヲリ少シトモ三日前ニ必ス之ヲ爲ス可シ○其糶賣ヲ訴ル書面ヲ取
 消サントスル訴及ヒ債主ノ保證人承諾ノ事ニ付キ買入人ニ送達ス

ル呼出狀ヲ取消サントスル訴ハ其保證人ヲ承諾ス可キト否トヲ裁
判スル言渡ト共ニ之ヲ裁判シ又糶賣ヲ爲ス法式ヲ取消サントスル
訴ハ其糶賣ノ前ニ之ヲ裁判シ成ル可キ丈ハ其糶賣ノ言渡ト共ニ其
訴ヲ裁判ス可シ

負債者ノ賣拂フタル不動産ヲ債主更ニ糶賣ト爲サントスルコト付
キ一方ノ者抗傳シテ受ケタル裁判言渡ハ後ニ其故障ヲ裁判所ニ訴
フ可カラズ

不動産ノ買入人債主ノ立テタル保證人ヲ承諾ス可キト否トヲ裁判
スル前ノ手續ヲ取消サントスル訴ニ付テノ裁判言渡及ヒ其保證人
ヲ承諾ス可キト否トヲ定ムル裁判言渡並ニ糶賣ノ訴ヲ爲シタル債
主陰ニ負債者又ハ不動産買入人ト謀テ私曲ヲ爲シタル時又ハ其債
主ニ詭偽アル時他ノ債主其債主ニ代テ糶賣ノ手續ヲ爲サントスル

訴ヲ裁判スル言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ得可ク糶賣ニ付テノ其他ノ
裁判言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ許サズ

負債者ノ賣拂フタル不動産ヲ債主糶賣ニ爲シテ之ヲ買入ル、者ア
ル時又ハ其債主自カラ之ヲ買入レタル時ハ更ニ之ヲ糶賣ニ爲ス可
カラズ

負債者ノ賣拂フタル不動産ヲ債主糶賣ニ爲シ之ヲ買入レタル者ア
ル時ハ其以前ノ賣主ト新ナル買入人トニ付キ第七百十七條ノ規則
ニ循ヒ其効ヲ定ム可シ但シ其糶賣ノ言渡ノ後其不動産ニ付テノ法
律上ノ書入質ノ權ノ記入ヲ未ダ濳掃セサル時ハ隨意ノ賣拂ノ時ノ
如ク之ヲ濳掃シ且法律上ノ書入質ノ權利ヲ有スル債主ノ權ハ第七
百七十二條ノ終項ニ記シタル如ク處置ス可シ

○第五章 證書類ノ寫書ヲ得ル手續又ハ證書類ヲ更改セシムル

第八百三十九條 證書人又ハ其他證書ノ簿冊ヲ預カル者其證書ニ管
 係アル本人又ハ其遺物相續人又ハ其代權人ニ其證書ノ寫書ヲ渡ス
 可キ肯セサル時ハ其寫書ヲ得ント願フ者初告裁判所ノ上席人ノ允
 許ヲ得タル上別ニ勸解ノ式ヲ行フ可キ急速ニ其預リ人ヲ裁判所
 ニ呼出シ其預リ人其寫書ヲ渡ス可キ肯セサルノ道理ナキ時ハ之ヲ
 渡ス可キノ言渡ヲ受ケ猶之ヲ肯セサルニ於テハ禁錮ヲ受ク可シ
 第八百四十條 前條ノ裁判ヲ爲スニハ急速吟味ノ法式ヲ用フ可シ且
 抗傳者故障ヲ申立又ハ負訴訟ノ者控訴ヲ爲スニ管セス其裁判言渡
 ノ如ク執行ヲ可シ

第八百四十一條 官署ノ簿冊ニ記セサル證書ノ寫書又ハ完全セサル
 證書ノ寫書ヲ得ント欲スル者ハ初告裁判所ノ上席人ニ其願書ヲ差

出ス可シ但シ此場合ニ於テハ證書類ヲ簿冊ニ登記スルニ付テハ別
 段ノ規則ノ如ク執行ヲ可シ

第八百四十二條 別段ノ道理アル時ハ前條ニ記シタル願書ノ末ニ裁
 判所ノ上席人ノ言渡ヲ附記シ其言渡ニ從ヒ證書ノ寫書ヲ渡ス可シ
 且此場合ニ於テハ渡シタル寫書ノ末ニ其旨ヲ附記ス可シ

第八百四十三條 前條ノ場合ニ於テ證書人又ハ證書ノ預リ人寫書ヲ
 渡ス可キ肯セサル時ハ之ヲ初告裁判所ノ上席人ニ訴出シ至急吟味
 ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ク可シ

第八百四十四條 證書類ノ最初ノ寫書 此寫書ヲ以テ證ト爲シ債主其
 負債者ノ財産ヲ差押フルヲ得
 可キモノヲ失フタルニ因リ更ニ其寫書ヲ得ント欲スル者又ハ管テ
 云フ

受取リタル寫書ヲ納メ更ニ他ノ寫書ヲ得ント欲スル者ハ初告裁判
 所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ差出ス可シ〇此願ヲ爲ス者ハ裁判

所ノ上席人ノ允許ヲ得タル上ニテ定マリタル日刻ニ其再度ノ寫書
ヲ渡ス可キヲ證書人ニ要メ且其證書ニ管スル者ニ其寫書ヲ渡ス
時立會ヲ爲ス可キノ要ヲ爲ス可シ但シ再度ノ寫書ニハ裁判所上席
人ノ言渡ノ旨ヲ附記シ若シ負債者既ニ其債ノ一部ヲ還シタル時ハ
其殘高ヲ附記シ又ハ債主其貸金ノ一部ヲ他人ニ讓リ與ヘタル時ハ
其讓リ與ヘタル貸金ノ高ヲ附記ス可シ

第八百四十五條 前條ノ寫書ヲ渡スニ付キ争ノ起ル時ハ之ヲ訴出
シ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判ヲ受ク可シ

第八百四十六條 訴ヲ爲ス者己レノ管セサル證書類ノ寫書ヲ其訴訟ノ
時間ニ得ント欲スル時ハ次ノ手續ヲ爲ス可シ

第八百四十七條 前條ニ記シタル如ク他人ノ證書類ノ寫書ヲ得ル爲
メ「コムビュルソワル」ノ調書證書人等ニ願人ニ證書ノ寫書ヲ得ント欲

スル者ハ其代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ其寫書ヲ得ルノ承諾ヲ
得ント要ムル書ヲ送ラシメ若シ其承諾ヲ得サル時ハ其代書師ヨリ
彼ノ代書師ニ裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キノ招書ヲ送ラシメ其他ノ
手續ヲ爲スヲナシ急速吟味ノ法式ヲ以テ其裁判ヲ受ク可シ

第八百四十八條 前條ノ裁判言渡ハ抗傳者其故障ヲ申立テ又ハ其言
渡ニ服セサル者控訴ヲ爲スニ管セス其言渡ノ如ク執行ヲ可シ

第八百四十九條 證書人又ハ證書類ノ預リ人ハ「コムビュルソワル」ノ調
書又ハ對校ノ調書ヲ記シ且必要ナル寫書ヲ渡ス可シ但シ其寫書ヲ

渡ス可キヲ言渡シタル裁判所ニテ其裁判役中ノ一人又ハ其他ノ
初告裁判所ノ裁判役一人又ハ前ニ記シタルモノニアラサル證書人

ヲシテ此等ノ諸事ヲ爲サシム可キヲ別段定メタル時ハ格別ナリ
トス

四一四 第八百五十條 何ノノ場合ニ於テモ前數條ニ記シタル證書ニ管スル者ハ調書ヲ記スル時其立會ヲ爲シ其相當ト思料スル所ヲ申述ヘ之

ヲ其調書ニ記スルヲ得可シ

第八百五十一條 證書ノ正本ヲ預カル者未タ其正本ヲ記シタル謝金及ヒ費用ヲ受取ラサル時ハ其寫書ヲ得ント求ムル者ヨリ其寫書ノ謝金ト管テ其正本ヲ記シタル謝金及ヒ費用トヲ受取ラサル内ハ其寫書ヲ渡スヲ肯セサルヲ得可シ

第八百五十二條 寫書ヲ其正本ト對校セント欲スル者ハ其證書ノ預リ人ヲシテ其正本ヲ讀上ケシメ自カラ其寫書ヲ校檢ス可シ若シ其對校ヲ爲ス者寫書ト正本ト差違アルヲ述フル時ハ調書ニ記シタル日ニ裁判所ノ上席人ニ至急吟味ヲ願ヒ出テ上席人其對校ヲ爲ス可シ但シ此ノカ爲メ證書ノ預リ人其正本ヲ持來ル可シ

調書ノ費用并ニ預リ人ノ其正本ヲ持來ル費用ハ對校ヲ願フ者之ヲ先拂ニ爲ス可シ

第八百五十三條 裁判所ノ書記官及ヒ公ケノ簿冊ヲ預カル者ハ何人ニ限ラズ總テ願ヒ出ル者ニ相當ノ謝金ヲ得タル上ニテ證書ノ寫書ヲ渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ別段裁判所ノ言渡ヲ要スルヲナシ若シ其書記官及ヒ公ケノ簿冊ヲ預カル者寫書ヲ渡スヲ肯セサル時ハ願人ニ損失ノ償ヲ拂フ可シ

第八百五十四條 裁判言渡書ノ再度ノ寫書裁判言渡ノ如ク執行フハ可キヲ記シタルモノハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ上席人ノ言渡アルニ非レハ同一ノ人ニ之ヲ渡ス可カラズ

五一四 證書人ノ記シタル證書ノ再度ノ寫書ヲ渡スヲ付キ前ニ定メタル法式ハ裁判言渡書ノ再度ノ寫書ヲ渡スヲモ亦通シテ用フ可シ

四 第八百五十五條 身上證書ヲ改メント欲スル者ハ初告裁判所ノ上席
六一 人ニ願書ヲ差出ス可シ

第八百五十六條 其願ヲ吟味スルニハ別段掛リ裁判役ヲ任シ裁判所
ニテ其掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽キタル上ニテ裁判ヲ
爲ス可シ○又裁判所ニ於テハ其時ノ模様ニ從ヒ身上證書ニ管係ア
ル數人ヲ呼出ス可キヲ及ヒ其以前ニ親族會議ヲ召集ム可キヲ言
渡スヲ得可シ

身上證書ニ管係アル數人ヲ呼出ス可キ時ハ別ニ勸解ノ式ヲ爲ス
ナク呼出狀ヲ送達ス可シ

若シ又其管係アル數人ノ者既ニ訴訟ニ管シタル時ハ代書師ヨリ代
書師ニ招書ヲ送ラシメテ其管係アル者ヲ呼出ス可シ

第八百五十七條 簿冊ニ記シタル身上證書ハ之ヲ書キ改ム可カラズ

身上證書ノ官吏ハ更改ノ言渡書ヲ受取リタル後直ニ之ヲ簿冊ニ記
入シ且更改ス可キ證書ノ端ニ其旨ヲ附記ス可シ然ル上ハ其官吏其
更改シタル所ヲ記入セシテ證書ノ寫書ヲ渡ス可カラス若シ之ヲ
渡シタル時ハ損失ヲ受クル者ニ相當ノ償ヲ爲ス可シ

第八百五十八條 身上證書ヲ更改セント訴フル者ノ外別ニ其管係ア
ル者ヲキ場合ニ於テ其者裁判所ノ言渡ニ服セテ控訴セント欲スル
時ハ其言渡ヨリ三月内ニ控訴院ノ上席人ニ願書ヲ差出シテ控訴ヲ
爲ス可シ但シ控訴院ニ於テハ其願書ニ檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニ
テ其裁判ヲ爲ス可キ期日ヲ附記ス可シ

○第六章 失踪者ノ財産ヲ假リニ所有ト爲スニ付テノ規則

四 第八百五十九條 民法第百十二條ニ記シタル場合ニ於テ裁判所ノ言
渡ヲ得シト欲スル者ハ裁判所ノ上席人ニ願書ト諸證書類トヲ差出

シ上席人其願書ヲ受取リタル上別段定メタル日ニ申立ヲ爲ス可キ
掛リ裁判役ヲ任ス可シ但シ裁判言渡ヲ爲スニハ檢事ノ説ヲ聽ク可
シ

第八百六十條 民法第二百二十條ニ記シタル如ク失踪者ノ財産ヲ假リ

ニ所有ト爲サントスル時モ亦前條ノ手續ヲ爲ス可シ

○第七章 婚姻シタル婦訴訟ヲ爲サント欲スル時裁判所ヨリ其

訴訟ヲ爲スノ允許ヲ受クル手續

第八百六十一條 婦自己ノ權利ヲ保護スル爲メ訴訟ヲ爲サント欲ス

ル時ハ先ツ其夫ノ承諾ヲ得ント求メ其夫之ヲ肯セサル時ハ裁判所

ノ上席人ニ願書ヲ差出シ其上席人ハ定マリシ日ニ夫ヲシテ其承諾

ヲ爲サ、ルノ趣意ヲ述ヘシムル爲メ之ヲ裁判役會議ノ室ニ呼出ス

可キトシ其婦ニ允許ス可シ

第八百六十二條 裁判所ニテ夫ノ申立ヲ聽キタル上又ハ夫ノ出席セ

サル上ニテ檢察官ノ説ヲ聽キ婦ノ訴訟ヲ爲スノ允許ヲ得ントスル

訴訟ヲ裁判ス可シ

第八百六十三條 夫失踪ノ思料ヲ受ケタル時又ハ夫ノ失踪ヲ公告シ

タル時訴訟ヲ爲スノ允許ヲ得ント欲スル婦ハ裁判所ノ上席人ニ願

書ヲ出シ其上席人ハ其旨ヲ檢察官ニ報告スルヲ言渡シ且定リシ

日ニ申立ヲ爲サシムル爲メ掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第八百六十四條 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ婦ハ前條ニ記シタル法式

ニ循ヒ訴訟ヲ爲スノ允許ヲ願フ可シ但シ其婦ハ其願書ニ添ヘテ其

夫ノ治産ノ禁ヲ受ケタル言渡書ヲ出ス可シ

○第八章 夫婦財産ヲ分ツ事

第八百六十五條 婦其夫ト財産ヲ分ツトスル訴ヲ爲スニハ先ツ裁

判所ノ上席人ニ其旨ヲ求ムル願書ヲ出シ其允許ヲ得タル上ニテ其
訴ヲ爲ス可シ○上席人ハ其允許ヲ爲ス前ニ相當ノ説諭ヲ爲スヲ
得可シ

第八百六十六條 裁判所ノ書記官ハ別段聽訟ノ室ニ具ヘ置キタル懸
帖ニ逶延ナク左件ヲ記シタル婦ノ訴書ノ拔書ヲ記入ス可シ

第一 訴ノ日附

第二 夫婦ノ姓名、職業、住所

第三 婦ノ任シタル代書師ノ姓名、居所但シ其代書師ハ訴ヲ爲シ
タルヨリ三日内ニ書記官ニ其訴書ノ拔書ヲ出ス可シ

第八百六十七條 前條ニ記シタル訴書ノ拔書ハ商法裁判所ノ聽訟ノ
室及ヒ初告裁判所ノ代書師取締人ノ役所並ニ證書人ノ役所ニ具ヘ
タル懸帖ニ記入ス可シ但シ之ヲ記入シタル旨ハ裁判所書記官ト代

書師取締人役所ノ書記官ト證書人ノ役所ノ書記官トコテ之ヲ證ス
可シ

第八百六十八條 又前條ニ記シタル拔書ハ婦ノ求メニ從ヒ裁判所所
在ノ地ニテ刊行スル新聞紙ニ記入ス可シ若シ又裁判所所在ノ地ニ
新聞紙ナキ時ハ其州内ニテ刊行スル新聞紙ニ記入ス可シ
其記入ヲ爲シタル旨ハ第六百九十八條ニ記シタル如ク之ヲ證ス可

第八百六十九條 總テ婦ノ權利ヲ保護スル爲メノ言渡ヲ除クノ外夫
婦財産ヲ分ツ訴ニ付キ前數條ニ記シタル法式ヲ行フタルヨリ一月
ノ後ニ非レハ其裁判ノ言渡ヲ爲ス可カラズ若シ其法式ヲ行ハサル
時ハ夫又ハ其債主ヨリ婦ノ財産ヲ分ツ訴ヲ取消サント訴フルヲ
得可シ

二二四

第八百七十條 夫ノ債主アテサル時ト雖モ夫ノ自認ヲ以テ婦ノ訴ノ如ク允許ス可キノ證ト爲ス可カラス

第八百七十一條 夫ノ債主ハ婦ノ財産ヲ分ツ確定ノ裁判言渡アル時ニ至ル迄其代書師ヨリ婦ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ婦ノ財産ヲ分ツ訴狀及ヒ之ニ添フ可キ證書類ヲ受取ラント求ムルヲ得可ク又己レノ權利ヲ保護スル爲メ夫婦ノ訴ニ管涉スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ勸解ノ式ヲ爲スニ及ハス

第八百七十二條 夫婦財産ヲ分ツ裁判言渡書ハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ管轄地内ニ商法裁判所アル時ハ其商法裁判所ノ吟味ノ席ニテ公ケニ之ヲ讀上ケ且其言渡ノ日附之ヲ爲シタル裁判所並ニ夫婦ノ姓名職業住所ヲ附記シタル其言渡書ノ拔書ヲ懸帖ニ記入シ又夫ノ商人タルト否トヲ問ハス其住所ノ初告裁判所ノ聽訟ノ室ト商法

裁判所ノ聽訟ノ室トニ一年間其懸帖ヲ掲ケ置ク可シ若シ其住所ノ地ニ商法裁判所ノアラサル時ハ其住所ノ邑ノ官署ノ公堂ニ掲ケ置ク可シ○又代書師取締人ノ役所及ヒ證書人ノ役所ノ懸帖ニ全上ノ言渡書ノ拔書ヲ記入ス可シ○婦ハ前ニ記シタル法式ヲ行ヒシ日ノ後ニ非レハ言渡書ノ如ク執行フコトニ取掛ル可カラス然レ全上ノ一年ノ期限ノ終ルヲ必スシモ待ツニ及ハス
此條ノ規則ヲ以テ民法第千四百四十五條ニ記シタル規則ノ害ヲ爲ス可カラス

第八百七十三條 此章ニ記シタル法式ヲ行フタル上ハ前條ニ記シタル期限ノ終リシ後夫ノ債主其訴ニ管涉シテ財産ヲ分ツ言渡ヲ取消サント訴フルヲ許サス

三二四

第八百七十四條 婦是レ迄夫ト共通シタル財産ヲ分チタル上其財産

夫拋棄ナル旨ハ其財産ヲ分ツ訴ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ之ヲ申出ヌ可シ

○第九章 夫婦居ヲ分ツ事及ヒ離婚ノ事

第八百七十五條 夫婦互ニ居ヲ分ツトスル訴ヲ爲サント欲スル者ハ其訴ヲ爲ス原由ヲ簡略ニ記シタル願書ヲ其住所ノ初告裁判所ノ上席人ニ差出ヌ可シ又其訴ヲ爲スニ付テノ證書アル時ハ其證書ヲモ差出ヌ可シ

第八百七十六條 初告裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢視シタル上ニテ別段定メタル日ニ夫婦共ニ己ノ面前ニ出席ヌ可キヲ言渡ヌ可シ
第八百七十七條 夫婦共ニ自カラ裁判所ノ上席人ノ面前ニ出席ヌ可キ代書師又ハ代言人ヲ伴行ヌ可カラス

第八百七十八條 裁判所ノ上席人ハ夫婦ヲ和解セシムル爲メ相當ト

思料スル事件々ヲ説諭シ若シ和解セシムルヲ得サル時ハ雙方和解スルヲ得ザルニ因リ更ニ治安裁判役ノ面前ニ出テ勸解ノ式ヲ爲スニ及ハス直ニ初告裁判所吟味ノ席ニ出ツ可キヲ許ル旨ノ言渡ヲ爲シ且其上席人ハ婦ニ自カラ訴ヲ爲スヲ許ル旨ト其婦ヲシテ雙方協議シテ定メタル家屋又ハ其上席人ノ定メタル家屋ニ假リニ轉居セシムル旨トヲ言渡シ又婦ノ日用品ヲ婦ニ渡ヌ可キ旨ヲ言渡ヌ可シ○婦ノ養料ヲ得ント求ムル訴ハ裁判所吟味ノ席ニ之ヲ爲ス可シ

第八百七十九條 夫婦居ヲ分ツ訴ハ他ノ訴ト同様ノ法式ヲ以テ吟味シ檢察官ノ説ヲ聽キタル上ニテ之ヲ裁判ヌ可シ

四
第八百八十條 夫婦居ヲ分ツ訴ノ如ク允許スル裁判官言渡書ノ寫ハ第八百七十二條ニ記シタル如ク裁判所聽訟ノ室ト代書師取締役ノ役

四二六

所ト證書人ノ役所トニ具ヘタル懸帖ニ記入ス可シ

第八百八十一條 離婚ノ訴ハ民法ニ記シタル如ク之ヲ爲ス可シ

○第十章 親族會議ノ決定

第八百八十二條 若シ後見人トナル可キ者ヲ其在ラサル所ニテ其職

ニ任シタル時ハ親族會議中ヨリ別段擇ミタル者其旨ヲ後見ノ職ニ

任シタル者ニ報告ス可シ但シ其報告ハ親族會議ノ決定ヨリ三日内

ニ之ヲ爲ス可ク且其會議ノ場所ト後見ノ職ニ任シタル者ノ住所ト

ノ間路程三ミリヤメートル毎ニ其期限ニ一日ヲ増ス可シ

第八百八十三條 親族會議ニ數説アル時ハ其各員ノ説ヲ調書ニ記ス

可シ

後見人後見人ノ監察者管財人又ハ親族會議ノ各員ハ會議ノ決定ニ

服セスシテ裁判所ニ訴出スルヲ得可シ但シ其訴ハ會議員中ニテ

其決定ヲ可ナリトシタル者ニ對シテ之ヲ爲ス可ク別段勸解ノ式ヲ
爲スニ及ハス

第八百八十四條 其訴ハ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

第八百八十五條 親族會議ノ決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ルコトノ必

要ナル時ハ決定書ノ寫ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ其上席人ハ之ヲ

檢察官ニ報告ス可キ旨ヲ言渡シ且別段定メタル日ニ申立ヲ爲ス可

キ爲メ掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第八百八十六條 檢事ハ前條ニ記シタル上席人ノ言渡書ノ末ニ其説

ヲ附記シ又裁判所ニテ親族會議ノ決定ノ如ク允許スル言渡ハ檢事

ノ説ヲ記シタル次ニ之ヲ附記ス可シ

四二七

第八百八十七條 若シ後見人又ハ其他親族會議ノ決定ニ付キ裁判所

ノ允許ヲ得ント訴フ可キ者其決定ニテ定メタル期限内ニ其訴ヲ爲

サ、ル時又ハ其決定ニテ別ニ期限ヲ定メタルコトナキニ於テハ十五日内ニ其者其訴ヲ爲サ、ル時ハ會議員中ノ者ヨリ後見人又ハ裁判所ノ允許ヲ得ント訴フ可キ者ニ對シテ訴訟ヲ爲シ自カラ其允許ヲ乞フ可シ但シ後見人又ハ其他裁判所ノ允許ヲ得ント訴フ可キ者ハ己レノ受ケタル訴訟ノ費用ヲ擔當ス可ク幼者ヨリ之ヲ取還ス可カラズ

第八百八十八條 親族會議ノ員中ニテ其決定ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得ルコト可ナリトセサル者ハ其允許ヲ得ルノ訴ヲ爲ス可キ者ニ裁判所外ニテ記シタル書面ヲ以テ其旨ヲ報告シ若シ其者呼出テ受クルコトナク裁判所ニテ允許ヲ爲スノ言渡ヲ爲シタル時ハ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

第八百八十九條 親族會議ノ決定ニ付テノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スル

コトヲ得可シ

○第十一章 治産ノ禁ヲ受クル事

第八百九十條 治産ノ禁ヲ受ケシメントスル訴ヲ爲スニハ白痴癡疾狂疾ノ模様ヲ記シタル願書ヲ初告裁判所ノ上席人ニ差出シ又之ニ添フ可キ證書類アル時ハ之ヲ添ヘテ差出シ且證人ノ姓名ヲ申述フ可シ

第八百九十一條 裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢察官ニ送達シ且別段定メタル日ニ申立ヲ爲ス可キ掛リ裁判役ヲ任ス可シ

第九百九十二條 裁判所ニ於テハ掛リ裁判役ノ申立ト檢察官ノ説トヲ聽キタル上ニテ民法第一篇第十卷第二章第四款ニ記シタル如ク集會シタル親族會議ヲシテ治産ノ禁ノ訴ヲ受ケタル者ノ景狀ニ付キ其説ヲ述ヘシム可キコトヲ言渡ス可シ

○三四

第八百九十三條 第八百九十條ニ記シタル願書ト親族會議ノ決定書

トハ被告人間糺ヲ爲ス前ニ之ヲ被告人ニ送達シ置ク可シ

若シ被告人ノ間糺ト第八百九十條ニ記シタル證書類トノミニテハ

猶ホ十分其景狀ヲ了知スルコトヲ得スシテ證人ヲ以テ其景狀ヲ了知ス

ルコトヲ得可キ時ハ通例ノ式ニテ證人吟味ヲ爲ス可キコトヲ裁判所ヨ

リ言渡ス可シ

若シ別段已ムコトヲ得サル事情アル時ハ被告人ノ在ラザル所ニテ其證

人吟味ヲ爲ス可キコトヲ裁判所ヨリ言渡スコトヲ得可シ但シ此場合ニ

於テハ被告人ノ代言人其名代トシテ出席スルコトヲ得可シ

第八百九十四條 被告人治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケ之ニ服セスシテ控訴

スル時ハ是迄原告人ニ對シテ其控訴ヲ爲ス可シ

又其原告人又ハ親族會議ノ員中ノ者初告裁判所ノ言渡ニ服セスシ

テ控訴スル時ハ是迄ノ被告人ニ對シテ其控訴ヲ爲ス可シ

裁判所ヨリ別段補佐人民法第四百九十九條見合ヲ任シタル時被告人之ニ服セ

スシテ控訴ヲ爲ス時ハ是迄ノ原告人ニ對シテ其控訴ヲ爲ス可シ

第八百九十五條 治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人其言渡ヲ控訴ス

ルコトヲ得時又ハ控訴ヲ爲スト雖モ負訴訟トナル時ハ前章ニ記シタ

ル規則ニ循ヒ其後見人并ニ後見人ノ監察者ヲ任ス可シ

此場合ニ於テハ民法第四百九十七條ニ循ヒ任シタル假リノ財産支

配人其職ヲ止メ後見人ニ算計ヲ爲ス可シ但シ其支配人自カラ後見

ノ職ニ任シタル時ハ格別ナリトス

第八百九十六條 治産ノ禁ヲ免ル、コトヲ願フ訴ハ治産ノ禁ノ訴ト同

様ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且之ヲ裁判ス可シ

一三四

第八百九十七條 裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ立會ヲ得サレハ訴訟

ヲ爲シ又ハ和解ヲ爲シ又ハ金高ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取テ其受取書
ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ附與シ又ハ書入質ト爲ス等
ノ諸事ヲ爲ス可カラサル禁ノ言渡書 民法第四百九十九條見合
ハ民法第五百一
條ノ法式ヲ以テ之ヲ貼附ス可シ

○第十二章 負債者其債ヲ償フ能ハサル時其財産ヲ拋棄スル
事

第八百九十八條 民法第一千二百六十八條ニ記シタル如ク裁判所ノ言
渡ニ因リ財産拋棄ヲ爲スヲ得可キ負債者ハ其拋棄ノ訴ヲ爲シタ
ル裁判所ノ書記局ニ其者ノ人ヨリ得可キ義務ト其負債トノ目錄書
及ヒ商業ノ簿冊アルニ於テハ其簿冊并ニ其者ノ人ヨリ得可キ諸件
ノ證書ヲ差出ス可シ

第八百九十九條 負債者ハ其住所ノ裁判所ニ前條ノ訴ヲ爲ス可シ

第九百條 全上ノ訴ハ檢察官ニ報告ス可シ但シ其訴ヲ爲シタルト雖
モ裁判役此訴ニ管係アル者ヲ呼出シタル上總テ其他ノ訴訟ヲ全ク
停止ス可キ旨ヲ言渡シタルニ非レハ其他ノ訴訟ヲ停止ス可カラズ

第九百一條 財産拋棄ノ允許ヲ得タル負債者ハ其住所ノ商法裁判所
ノ聽訟ノ席ニ必ス自身出席シ其債主ヲ呼出シタル上ニテ其財産拋
棄ノ旨ヲ更ニ再度申述ヘ若シ其負債者住所ノ地ニ商法裁判所アラ
サル時ハ其住所ノ邑ノ官署ニテ全上ノ申述ヘテ爲ス可シ但シ邑ノ
官署ニ於テ其再度ノ申述ヘテ爲シタル時ハ邑長ノ姓名ヲ自署シタ
ル使吏ノ調書ヲ以テ負債者再度ノ申述ヲ爲シタル旨ヲ證ス可シ

第九百二條 若シ負債者既ニ其負債ノ爲メニ禁錮ヲ受ケタル時其財
産ヲ拋棄シテ負債ヲ免ル、ノ言渡ヲ得タルニ於テハ負債者ヲシテ
三四 前條ノ如ク其再度ノ申述ヘテ爲サシムル爲メ其負債者ノ禁錮ヲ赦

四三四

免スル旨ヲ其言渡書ニ附記ス可シ但シ此場合ニ於テ負債者ノ走脱
ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可シ使吏ヲシテ負債者ヲ
監察セシムルヲ云フ

第九百三條 負債者ノ住所ヲ管轄スル商法裁判所又ハ其裁判所ニ代
テ職務ヲ行フ初告裁判所ノ聽訟ノ室ト邑ノ官署ノ會議ノ室トニ具
ヘタル懸帖ニ其負債者ノ姓名、職業、居所ヲ記入ス可シ

第九百四條 負債者ニ財產拋棄ヲ允許スル言渡書ハ債主ニ負債者ノ
動産及ヒ不動産ヲ賣拂フコトヲ許ルシタルノ効アル書面ナリト看做
ス可シ但シ其賣拂ヲ爲ス方法ハ相續シタル財産ノ價高ニ至ル迄ノ
外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ有スル遺物相續人ノ爲メ定メタル方法
ト第九百八十六條以下見合同シカル可シ

第九百五條 外國人「ステリナター」ノ罪アル者民法第二千五
十九條見合詐僞アル
倒産人、盜罪人又ハ僞テ金ヲ竊取スルノ罪ヲ犯セシ者、算計ヲ爲ス可

キ者、後見人、財産ノ支配人、財産ノ預リ人ハ財産拋棄ヲ爲シテ禁錮ヲ
免ル可カラス

第九百六條 此章ノ規則ハ方今ニ至ル迄別段更改シタルコトナキ商法
ノ規則ノ害トナル可カラス

○第二卷 遺物相續ヲ始ムルニ付テノ手續千八百六年四月二十八
日決定五月八日布告

○第一章 死者ノ財産ニ封印ヲ爲ス事

第九百七條 死者ノ財産ニ封印ヲ爲ス可キ事アル時ハ治安裁判役之
ヲ爲シ又其裁判役ノアヲサル時ハ其代人ノヲ爲ス可シ

五三四 第九百八條 治安裁判役又ハ其代人其封印ヲ爲スニ付テハ別段ノ印

形ヲ用ヒ之ヲ預リ置ク可シ但シ其印紙ヲ初告裁判所ノ書記局ニ納メ置ク可シ

第九百九條 左ニ記列スル所ノ各人ハ死者ノ財産ニ封印ヲ爲スヲ求ムルヲ得可シ

第一 死者ノ遺物財産ヲ得可キ權アリト述フル者又ハ死者ト共通シタル財産ヲ得可キノ權アリト述フル者

第二 裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ヲ有スル死者ノ債主又ハ初告裁判所ノ上席人或ハ死者ノ財産所在ノ縣ノ治安裁判役ニリ別段ノ允許ヲ得タル死者ノ債主

第三 死者ノ配偶者及ヒ其遺物相續人ノアラサル時ハ死者ノ同居人及ヒ其從者僕婢

第九百十條 死者ノ遺物財産ヲ得可キノ權アリト述フル者又ハ死者

ノ債主ハ幼年ナリト雖モ既ニ後見ヲ免レタルニ於テハ管財人ノ立會ナクシテ死者ノ財産ニ封印ヲ爲スヲ求ムルヲ得可シ

若シ全上ノ者未ダ後見ヲ免レサル幼者ニシテ其後見人ナク又ハ其後見人不在ナル時ハ其幼者ノ親族ヨリ死者ノ財産ニ封印ヲ爲ス可キヲ求ムルヲ得可シ

第九百十一條 左ニ記列スル場合ニ於テハ檢察官ノ求メニ因リ又ハ邑長若シハ其補佐役ノ申立ニ因リ又ハ治安裁判役ノ公務ヲ以テ死者ノ財産ニ封印ヲ爲ス可シ

第一 幼者ノ後見人ナクシテ其親族ヨリ封印ヲ爲スヲ求メサル時

第二 死者ノ配偶者又ハ其遺物相續人中ノ一人不在ナル時

第三 死者公ケノ書類又ハ官金ヲ預ル者タル時但シ此場合ニ於

テハ死者ノ預リタル物件ノミニ封印ヲ爲ス可シ
第九百十二條 封印ハ財産所在ノ地ノ治安裁判役又ハ其代人ニ非レ
ハ之ヲ爲ス可カラス

第九百十三條 埋葬ノ前ニ財産ニ封印ヲ爲サ、ル時ハ治安裁判役其
封印ヲ爲ス可キノ求メテ受ケタル日刻ト其求メ並ニ封印ヲ爲スノ
遅延シタル原由トキ離書ニ附記ス可シ

第九百十四條 封印ヲ爲スニ付テノ調書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 封印ヲ爲シタル年月日時

第二 封印ヲ爲スノ趣意

第三 封印ヲ爲スヲ求ムル者アル時ハ其者ノ姓名、職業、住所並
ニ其者封印ヲ爲ス可キ財産所在ノ邑内ニ住セサル時ハ其邑内
ニ別段住所ヲ擇ミタル事

第四 又封印ヲ爲スヲ求ムル者ナキ時ハ第九百十一條ニ記シ
タル官吏ノ公務ニ因リ又ハ其求メ或ハ申立ニ因リ封印ヲ爲シ
タル事

第五 封印ヲ爲スヲ允許スル言渡アル時ハ其言渡ノ旨

第六 死者ノ財産ニ管係アル者封印ヲ爲スヲ付キ裁判所ニ出
席シタル事及ヒ其者ノ陳述

第七 封印ヲ爲シタル房室、卓子、引出シノ箱櫃、戸棚等ノ模様

第八 封印ヲ爲サ、ル財産ノ簡略ナル記載

第九 封印ヲ爲ス時其場所ニ在ル者自カラ其財産中ノ一物ヲモ
竊取シタルヲナシ且他人ノ之ヲ竊取シタルヲ見タルヲ又ハ知
リタルヲモナキ旨ノ類

第十 封印ヲ爲スヲ求ムル者ヨリ其封印ヲ爲ス、財産ノ預リ人ヲ

立テ其預リ人必要ナル身分ナル時ハ之ヲ其預リ人ト定メタル事又其預リ人必要ナル身分ナラサル時或ハ其預リ人ナキ時ハ治安裁判役其公務ヲ以テ別段其預リ人ヲ任シタル事

第九百十五條 封印ヲ爲シタル錠ノ錠ハ其封印ヲ除去スルニ至ル迄治安裁判所ノ書記官之ヲ預リ置キ其書記官ハ調書ニ其錠ヲ受取リタル旨ヲ記ス可シ此場合ニ於テハ裁判役並ニ書記官ハ其封印ヲ除去スル迄ハ其封印ヲ爲シタル財産所在ノ家屋ニ至ル可カラズ若シ此規則ニ背ク時ハ其職ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ但シ此等ノ官吏別段其家屋ニ至ル可キノ求メテ受ケタル上又ハ初告裁判所ノ上席人ノ言渡アル上ニテ其家屋ニ至ル時ハ格別ナリトス

第九百十六條 治安裁判役財産ニ封印ヲ爲ス時遺囑書又ハ其他封印シタル書類ヲ見出シタルニ於テハ其外面ノ模様ト其印形ト並ニ其

表書アルニ於テハ其表書トテ證シ其立會人ト共ニ其封紙ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ且其封印アル書類ヲ初告裁判所ノ上席人ニ送呈ス可キ日刻ヲ指示ス可シ但シ此等ノ諸件ハ調書ニ之ヲ記シ立會人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ又立會人其姓名ノ手署ヲ爲スニテ欲セサル時ハ其旨ヲ調書ニ附記ス可シ

第九百十七條 治安裁判役ハ死者ノ財産ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ財産ニ封印ヲ爲ス前ニ遺囑書ヲ搜查シテ之ヲ見出シタル時ハ前條ニ記シタル如ク處置ス可シ

第九百十八條 預定シタル日刻ニ至リ別段管係アル者ヲ呼出スニ及ハスニテ治安裁判役封印アル書類ヲ初告裁判所ノ上席人ニ送呈シ其上席人之ヲ受取リ其封印ヲ開キテ書類ノ模様ヲ検査シ若シ其書類中ニ遺物相續ニ管スルモノアル時ハ之ヲ證書人ニ預クルコトヲ言

渡ス可シ

二四四

第九百十九條 若シ封印ヲ爲シタル書類其表面ニ因リ又ハ其他書面ノ證據ニ因リ死者ヨリ更ニ他ノ者ニ屬ス可シト思ハル、時ハ初告裁判所ノ上席人其者ヲ定期内ニ呼出シテ其書類ヲ開封スル時立會ヲ爲サシム可キ旨ヲ言渡シ其預定シタル日ニ至リ其者ヲ呼出シタル上又ハ之ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニテ其書類ヲ開封シ其書類死者ノ遺物ニ管セサル時ハ初告裁判所ノ上席人其書類ニ記シタル所ヲ知ラシムルコトナク之ヲ全上ノ者ニ渡シ又ハ其書類ニ再ヒ封印ヲ爲シ置キ全上ノ者ノ求メ次第早速之ヲ渡ス可シ

第九百二十條 若シ又遺囑書ニ封印ナキ時ハ治安裁判役其遺囑書ノ模様ヲ檢査シ且第九百十六條ニ記セル所ノ規則ニ循フ可シ

第九百二十一條 若シ死者ノ家屋ノ門戸ヲ閉シタル時又ハ其財産ニ

封印ヲ爲スニ付キ妨アル時又ハ封印ヲ爲ス前又ハ其間ニ故障ノ起ル時ハ初告裁判所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ
○其至急吟味ヲ爲スタメニ暫ク封印ヲ爲スコト猶豫シ治安裁判役其死者ノ家ノ内又ハ其外ニ番人ヲ備ヘ置キ直ニ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ報告ス可シ

然レ治安裁判役封印ヲ爲スヲ猶豫スル時ハ損害アル可シト思量スルニ於テハ假リニ其言渡ヲ爲シ置キ後ニ其旨ヲ初告裁判所ノ上席人ニ報告ス可シ

第九百二十二條 財産封印ノ事又ハ其他ノ事ニ付キ治安裁判役ヨリ初告裁判所ノ上席人ニ報告シテ其決ヲ取ルヲ求ムル時ハ此等ノ事ニ付キ爲シタル諸件及ヒ言渡シタル諸件ヲ治安裁判役ノ書シタル調書ニ記シ初告裁判所ノ上席人ハ其言渡ノ旨ヲ其調書ニ附記シタ

三四四

ル所ニ姓名ヲ手署ス可シ

第九百二十三條

既ニ遺物財産ノ目錄書ヲ成就シタル上ハ其財産ニ
封印ヲ爲スニ及ハス但シ其目錄書ニ付キ故障ヲ述フル者アリテ初
告裁判所ノ上席人其財産ニ封印ヲ爲ス可キヲ言渡シタル時ハ格
別ナリトス

又目錄書ヲ記スル時間ニ封印ヲ爲スヲ求ムル者アル時ハ未タ目
録書ニ記セサル物件ノミニ封印ヲ爲ス可シ

第九百二十四條

若シ封印ヲ爲スニ足ル可キ死者ノ財産アラサル時
ハ治安裁判役財産ノアラサル旨ヲ調書ニ記ス可シ
又死者ノ家ニ居ル者ノ用フル爲メ必要ナル物件アル時又ハ封印ヲ
爲スヲ得サル物件アル時ハ治安裁判役此等ノ物件ヲ簡略ニ記列シ
タル調書ヲ記ス可シ

第九百二十五條

人口ニ萬以上ノ邑ニ於テハ初告裁判所ノ書記局ニ
死者ノ財産ニ封印ヲ爲シタル旨ヲ順序ヲ逐テ登記スル簿冊ヲ設ケ
置ク可シ但シ其簿冊ニハ其初告裁判所ノ管轄地内ノ治安裁判役封
印ヲ爲シタルヨリ二十四時内ニ報告スル順序ニ從ヒ左件ヲ記ス可
シ

第一 死者ノ姓名住所

第二 封印ヲ爲シタル裁判役ノ姓名住所

第三 其封印ヲ爲シタル日

○第二章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル事

第九百二十六條

死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル
事ハ封印ヲ爲シタル調書ニ之ヲ附記シ又ハ治安裁判所ノ書記官ニ
送達スル書面ニ記ス可シ

第九百二十七條 前條ノ故障ヲ述フル書面ニハ通例ノ呼出狀ニ記ス可キ諸件ノ外左件ヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其効ナカル可シ

第一 其故障ヲ述フル者其封印ヲ爲シタル治安裁判所ノ管轄地内ニ住セサル時ハ別段其地ニ住所ヲ擇ミタル事

第二 其故障ヲ申述フル理由ノ詳明ナル記載

○第三章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スル事

第九百二十八條 死者ノ埋葬ノ前ニ其財産ニ封印ヲ爲シタル時ハ其埋葬ノ日ヨリ三日ノ後又其埋葬ノ後ニ其財産ニ封印ヲ爲シタル時ハ其封印ヲ爲シタルヨリ三日ノ後ニ非レハ其封印ヲ除去シテ目錄ヲ記ス可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其封印除去ノ調書並ニ財産目錄ノ調書ノ効ナク且其調書並ニ目錄ヲ記シタル者及ヒ之ヲ記ス

ルヲ求メタル者ハ死者ノ財産ニ管係アル他ノ者ニ對シ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ別段急速ナルヲ必要トスル場合ニ於テ初告裁判所ノ上席人全上ノ定期ニ管セス封印ヲ除去ス可キヲ言渡シ且其急速ナルノ必要ナル旨ヲ其言渡書ニ附記シタル時ハ格別ナリトス○此場合ニ於テ封印ヲ除去スルニ立會フ可キノ權アル者其立會ヲ爲サ、ル時ハ初告裁判所ノ上席人其公務ヲ以テ別段其者ノ名代人タル可キ證書人一人ヲ任シ其證書人ヲシテ其封印ノ除去ヲ爲ス時ト目錄ヲ記スル時トニ立會ヲ爲サシム可シ

第九百二十九條 若シ死者ノ遺物相續人中ニ未タ後見ヲ免レサル幼者アル時ハ其幼者ノ後見人ヲ任シ又ハ其幼者後見ヲ免レタル後ニ非レハ死者ノ財産ノ封印ヲ除去ス可カラス

第九百三十條 死者ノ財産ニ封印ヲ爲サシムルノ權アル者ハ亦其除

去ヲ求ムルノ權アリ但シ第九百九條ノ第三ニ記シタル者ハ格別ナ
リトス

第九百三十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付テノ法式ハ左ノ

如シ

第一 其除去ヲ求ムル事但シ之ヲ求ムル事ハ治安裁判役ノ調書
ニ之ヲ記入ス可シ

第二 其除去ヲ爲ス可キ日刻ヲ指示ス裁判役ノ言渡書

第三 死者ノ配偶者最親近ノ遺物相續人遺囑贈遺ノ管理者死者
ノ財産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ別段指
定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者其財産ノ封印ヲ
除去スルニ付キ故障ヲ述フル者ニ其除去ノ時立會ヲ爲ス可キ
ノ呼出狀ヲ送達スル事

此等ノ管係アル者五ミリヤメートル以上ノ隔遠ノ地ニ住スル時
ハ其本人ヲ呼出スニ及ハス初告裁判所ノ上席人其公務ヲ以テ此
等ノ者ノ名代人トシテ任シタル證書人ヲシテ封印除去ノ時ト目
録ヲ記スル時トニ其立會ヲ爲サシム可シ
封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其別段擇ミタル住所ニ呼出
狀ヲ送達ヲ受ク可シ

第九百三十二條 死者ノ配偶者其遺囑贈遺ノ管理者遺物相續人死者
ノ財産ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者又ハ其財産ノ別段指
定メサル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受ク可キ者ハ死者ノ財産ノ封印
ヲ除去シ又ハ其財産ノ目錄ヲ記スル日毎ニ自カラ立會ヒ或ハ其名
代人ヲシテ立會ハシムルヲ得可シ
死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル數人ハ自カラ出

席スルト各自ノ名代人ヲ出ストヲ問ハス其封印ヲ除去シ又ハ其財產ノ目錄ヲ記スル初日ノミヨ立會ヲ爲スヲ得可シ其後ノ日ニ至テハ數人協議シテ其名代人一人ヲ出ス可シ若シ其數人名代人一名ヲ撰ムトシ協議セサル時ハ裁判役ノ公務ヲ以テ之ヲ任ス可シ又其數人ニ代テ封印ヲ除去シ又ハ目錄ヲ記スル初日ニ立會フタル者ノ内ニ其手續ニ管シタル初告裁判所ノ代書師アル時ハ其本人ヨリ受取リタル證書ニ據テ其名代人タルノ權ヲ授カリタル旨ヲ證シ又公正ノ證書ヲ有スル債主前ニ云フ所ノ封印除去ノ代書師中ニテ最モ先キニ其職ニ任セラレタル者其除去ノ故障ヲ述フル數人ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ爲シ若シ又債主皆公正ノ證書ヲ有セサル時ハ私ノ證書ヲ有スル債主ノ代書師中ニテ最モ先キニ任テ受ケタル者其故障ヲ述フル數人ノ名代人トナリテ常ニ其立會ヲ爲ス可シ

シ○其代書師中ニテ最モ先キニ任テ受ケタル者ヲ定ムルトハ封印ヲ除去シ又ハ目錄ヲ記スル初日ニ之ヲ爲ス可シ
 第九百三十三條 封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ノ中一人ノ權利他ノ者ノ權利ト異ナリ又ハ他ノ者ノ權利ト全ク反シタル時ハ其一人自カラ封印除去ノ時立會ヲ爲シ又ハ己レノ費用ヲ以テ其名代人一人ヲ出ス可シ
 第九百三十四條 自己ノ債債者ノ權利ヲ保護スル爲メ封印ノ除去ニ付キ故障ヲ述フル者ハ其封印除去ノ初日ト雖モ立會ヲ爲スヲ得又其後ノ日ニ於テモ數人共同ノ名代人ヲ撰ムニ管涉スルヲ得
 第九百三十五條 死者ト財產ヲ共通シタル其配偶者死者ノ遺物相續人死者ノ遺囑贈遺ノ管理者死者ノ財產ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ

受シ可キ者又ハ其財産ノ別段指定メタル一部ヲ遺囑ノ贈遺トシテ受シ可キ者ハ相協議シテ證書人一人又ハ二人ヲ撰ミ且評價人一人又ハ二人ヲ撰ム可シ若シ又此等ノ者協議セサル時ハ其時ノ模様ニ因リ初告裁判所ノ裁判役其公務ヲ以テ證書人一人又ハ二人或ハ評價人一人又ハ二人ヲ任ス可シ○評價人ハ治安裁判役ノ面前ニテ誓ヲ爲ス可シ

第九百三十六條

封印除去ノ調書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 其封印除去ノ日附

第二 封印ノ除去ヲ求メタル者ノ姓名職業其眞ノ住所其別段撰ミタル住所

第三 封印ノ除去ヲ許ルス言渡書ノ大略

第四 第九百三十一條ニ記シタル呼出狀ノ大略

第五 管係アル數人ノ出席ヲ爲シタル事及ヒ其申述タル諸件

第六 證書人或ハ評價人ヲ撰ミ又ハ之ヲ任シタル事

第七 封印ニ變更シタル事ナキ時ハ其封印ヲ眞正ナリト認ムル事若シ又封印ニ變更シタル事アル時ハ其變更シタル模様但シ其變更シタルノ時ハ其旨ヲ訴へ出ス可シ

第八 隠匿シタルノ疑アル物件ヲ探索スル訴並ニ其探索ノ上其物件ヲ見出シタルヤ否ノ事及ヒ其他裁判ス可キ種々ノ訴訟

第九百三十七條 封印ハ目錄ヲ記スルニ從テ次第ニ之ヲ除去ス可シ但シ此場合ニ於テハ其度毎ニ再ヒ封印ヲ爲シ置ク可シ

第九百三十八條 同種類ノ物件ハ之ヲ合同シ其順序ヲ逐テ次第ニ目錄ニ記入ス可シ但シ此場合ニ於テハ其度毎ニ再ヒ封印ヲ爲シ置ク可シ

四五四

第九百三十九條 死者ノ財産中ニ其遺物ニ非スシテ他人ニ屬ス可キ

物件又ハ書類アル時ハ之ヲ其眞ノ所有者ニ還ス可シ若シ即時ニ之ヲ還スコトヲ得スシテ別段其模様ヲ書留メ置クコトノ必要ナル時ハ封印ノ調書ニ之ヲ記入ス可シ之ヲ目錄ニ記入ス可カラズ

第九百四十條 若シ封印ヲ除去スル前又ハ之ヲ除去スル間ニ封印ヲ爲ス可キノ原由消散スル時ハ別段目錄ニ其封印ヲ爲シタル財産ヲ記入スルコトヲシテ其封印ヲ除去ス可シ

○第四章 死者ノ財産ノ目錄書

第九百四十一條 死者ノ財産ノ封印ヲ除去セシト求ムルコトヲ得可キ者ハ亦其財産ノ目錄ヲ記スルコトヲ求ムルヲ得可シ

第九百四十二條 其目錄ハ左ノ數人ノ立會ニテ之ヲ記ス可シ

第一 死者ノ配偶者

第二 死者ノ最親近ノ遺物相續人

第三 死者ノ遺囑贈遺ノ證書アル時ハ其遺囑贈遺ノ管理者

第四 死者ノ財産ヲ生存中ノ贈遺トシテ受ケタル者又ハ死者ノ

財産所有ノ權或ハ其財産ノ入額所得ノ權ノ全部ヲ遺囑ノ贈遺

トシテ受ケタル者又ハ其別段指定メカル一部ヲ遺囑ノ贈遺ト

シテ受ケタル者五ミリヤメートルノ距離内ニ住スル時ハ之ヲ

呼出シタル上又ハ呼出シテ猶出セサル上若シ此等ノ者ノ中ニ

テ五ミリヤメートル以外ノ場所ニ住スル者數人アル時ハ其中

ノ出席セサル者ノ名代人トシテ初告裁判所ノ上席人ヨリ證書
人一人ヲ任ス可シ

五五四

第九百四十三條 死者ノ財産ノ目錄ニハ通例證書人ノ面前ニテ記ス

ル所ノ書面ニ記ス可キ諸件ノ外更ニ左件ヲ記ス可シ

- 第一 目錄ヲ記スルヲ求ムル者、立會ノ爲メ出席ヲ爲ス者、出席
ヲ爲サ、ル者、其出席セサル者ノ名代人タル證書人、評價人等ノ
姓名、職業、住所並ニ出席ヲ爲サ、ル者ノ名代人タル可キ證書人
ヲ任スル裁判所ノ上席人ノ言渡ノ旨
- 第二 目錄ヲ記スル地ノ名
- 第三 財産ノ模様並ニ其真正ナル評價
- 第四 金銀器ノ種類、性合、量目
- 第五 貨幣ノ種類、分量
- 第六 書面類ハ初メト終トニ番號ヲ附シ證書人一人其書面類ニ
姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シ又商業ニ管シタル簿冊アル
時ハ其模様ヲ證明シ又其各葉ニ番號ヲ附シ且横線ヲ畫シ又其
紙ニ剩白アラハ其剩白ニ線ヲ引ク可シ

- 第七 死者ノ人ヨリ物件ヲ得可キ權利ノ證書及ヒ人ニ物件ヲ渡
ス可キ義務ノ證書ノ模様
- 第八 目錄ヲ記スル前ニ物件ヲ預リタル者又ハ其物件アル家屋
ニ住スル者決シテ其物件ヲ竊取シタルヲナシ又他人ノ之ヲ竊
取シタルヲ見知シタルヲナキ旨ヲ證スル爲メ其目錄ノ成就ス
ル時爲シタル誓
- 第九 別段ノ道理アル時ハ動産及ヒ書面類ヲ管係アル諸人ノ協
議シテ定メタル者ニ預シルヲ又之ヲ協議セサル時ハ初告裁判
所ノ上席人ノ任シタル者ニ之ヲ預シル事
- 第九百四十四條 若シ目錄ヲ記スル時ニ故障ヲ申述フル者アル時又
ハ夫婦共通ノ財産或ハ死者ノ遺物財産ノ支配及ヒ其他ノ事ニ付キ
求メテ爲ス者アリテ其他ノ者其求メテ承諾セサル時ハ證書人雙方

本人ヲシテ初告裁判所ノ上席人ニ訴出シ至急吟味ノ法式ヲ以テ其
裁判ヲ受ケシメ又證書人初告裁判所所在ノ縣内ニ住スルニ於テハ
其證書人自カラ初告裁判所ノ上席人ニ至急吟味ノ法式ヲ以テ裁判
ヲ受ク可キヲ求ムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其上席人其言
渡ノ旨ヲ目錄ノ調書ニ附記ス可シ

○第五章 動産賣拂ノ事

第九百四十五條 民法第八百二十六條ニ循ヒ遺物財産中ノ動産ヲ賣
拂フ可キ時ハ第五卷第八章ニ記シタル法式ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可シ
第九百四十六條 其賣拂ハ遺物財産ニ管係アル者ノ求メニ因リ初告
裁判所ノ上席人ノ言渡ニ循テ官吏之ヲ爲ス可シ
第九百四十七條 目錄ヲ記スル時立會ヲ爲ス可キ權アル者五ミリヤ
メートルノ距離内ニ住居シ又ハ別段住所ヲ擇ミタル時ハ動産賣拂

ノ時之ヲ呼出ス可シ但シ其呼出狀ハ別段擇ミタル住所ニ送達ス可
シ

第九百四十八條 若シ動産賣拂ノ事ニ付キ故障ノ起ル時ハ初告裁判
所ノ上席人至急吟味ノ法式ヲ以テ假リニ之ヲ裁判ス可シ

第九百四十九條 動産ノ賣拂ハ其所在ノ場所ニテ之ヲ爲ス可シ但シ
之ニ反シタル言渡アル時ハ格別ナリトス

第九百五十條 動産ノ賣拂ハ立會ヲ爲ス可キ者ノ出席シタルト否ト
ヲ問ハズ之ヲ爲ス可シ但シ出席ヲ爲サ、ル者アリト雖モ之カ爲メ
別段其名代人ヲ呼出スニ及ハズ

第九百五十一條 動産賣拂ヲ求ムル者ノ出席シタルト否トハ調書ニ
之ヲ記ス可シ

第九百五十二條 若シ遺物ノ動産賣拂ニ管シタル者丁年者ナラサル

ナシ其者皆出席シテ故障ノ起ルコトナク且外ニ其賣拂ニ管スル者ナキ時ハ前數條ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス

〇第六章 幼者ニ屬スル不動産ヲ賣拂フ事

第九百五十三條 幼者ニ屬スル不動産ヲ賣拂フ可キノ言渡ヲ爲スニハ其不動産ノ種類ト其大畧ノ價トヲ記シタル親族會議ノ決定アルコトヲ必要トス

又幼者丁年者ト其不動産ヲ共通シテ所有シ且丁年者其賣拂ヲ訴フル時ハ必スシモ幼者ノ親族會議ノ決定アルコトヲ必要トセス〇此場合ニ於テハ此卷ノ第七章ニ記スル所ノ法式ヲ以テ其賣拂ヲ爲スコシ

第九百五十四條 裁判所ニテ親族會議ノ決定ヲ許可スル時ハ其裁判所ノ裁判役一員ノ面前又ハ別段任ヲ受ケタル證書人一員ノ面前ニ

於テ其賣拂ヲ爲スコキ旨ヲ言渡スコシ

若シ其不動産數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ在ル時ハ其賣拂ノ訴ヲ受ケタル裁判所ヨリ其各所ノ裁判所ノ管轄地ニテ其賣拂ノ事ヲ引受ク可キ證書人ヲ任シ又ハ其各地ノ裁判所ニ其賣拂ノ事ヲ託スル書面ヲ送ル可シ

第九百五十五條 賣拂ノ言渡書ニハ各不動産ノ附直段ト其賣拂ノ箇條トヲ記スコシ〇其附直段ハ幼者ノ親族會議ノ決定又ハ其不動産所有ノ證書又ハ其不動産賃貸ノ公正ノ證書又ハ日附ノ儘カナル賃貸ノ私ノ證書又ハ此等ノ賃貸ノ證書ナキ時ハ地稅目錄ニ據テ之ヲ定ム可シ

然レモ裁判所ニテ其時ノ模様ニ因リ不動産ノ全部又ハ一部ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得可シ

其評價ハ不動産ノ種類ト大小トニ因リ裁判所ヨリ評價人一員又ハ三員ヲ任シテ之ヲ爲サシム可シ

第九百五十六條 裁判所ヨリ不動産ノ評價ヲ爲ス可キヲ言渡シタル時ハ其評價人其裁判所ノ上席人ノ面前又ハ其上席人ノ別段任シタル治安裁判役ノ面前ニテ誓ヲ爲シタル上其評價書ヲ記ス可シ但シ其評價書ニハ不動産ニ付テノ諸件ヲ委細ニ記入スルニ及ハス唯評價ノ大旨ノミヲ記入ス可シ

其評價書ハ之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可ク別ニ其寫ヲ渡スニ及ハス

第九百五十七條 不動産ノ糶賣ハ糶賣ノ箇條書ニ從テ之ヲ爲ス可シ但シ其箇條書ハ代書師之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可ク若シ又證書人ノ面前ニテ其糶賣ヲ爲ス可キ時ハ其證書人其箇條書ヲ記シテ己

ノ役所ニ納ム可シ

其糶賣ノ箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 糶賣ヲ許ルス言渡書ノ大略

第二 不動産所有ノ證書ノ大略

第三 不動産ノ種類並ニ其所在ノ地一團トナリタル不動産ノ名其不動産ノ方積ノ大略其雙方ノ隣家ノ名

第四 糶賣ヲ爲スニ付テノ附直段及ヒ糶賣ノ箇條

第九百五十八條 糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局又ハ證書人ノ役所ニ納メタル後左件ヲ記シタル貼附書ヲ印刷ス可シ

第一 糶賣ヲ許ルス言渡ノ大略

第二 不動産ヲ所有スル幼者其後見人後見人ノ監察者ノ姓名職業住所

四六四

第三 糶賣ノ箇條書ニ記シタル如キ不動産ノ模様ノ記載

第四 各不動産ノ賣拂ニ付テノ附直段

第五 糶賣ノ日刻及ヒ場所並ニ其糶賣ヲ證スル證書人ノ姓名住所又ハ其糶賣ヲ爲ス裁判所ノ名且何レノ場合ニ於テモ賣主ノ代書師ノ姓名

第九百五十九條 糶賣ヨリ少クモ十五日前多クモ三十日前ニ第

六百九十九條ニ記シタル場所ニ貼附書ヲ出シ且糶賣ヲ證スル證書

人ノ役所ノ門戸ニ其貼附書一通ヲ出シ同條ニ記シタル如ク其貼附

ヲ爲シタルヲ證ス可シ

第九百六十條 前條ニ記シタル期限内ニ其貼附書ノ寫ヲ第六百九十

六條ニ記シタル新聞紙ニ記入シ且不動産所在ノ地ニ非サル郡ニ於

テ其糶賣ヲ爲ス時ハ其糶賣ヲ爲ス郡中ノ別段定メタル新聞紙ニモ

亦之ヲ記入ス可シ

此等ノ事ヲ爲シタル旨ハ第六百九十八條ニ記シタル如ク之ヲ證ス可シ

第九百六十一條 糶賣ニ爲ス不動産ノ種類ト大サトコ准シ第六百九

十七條及ヒ第七百條ニ記シタル如ク其糶賣ノ旨ヲ更ニ公クニ爲ス

可シ

第九百六十二條 幼者ノ後見人ノ監察者ハ民法第四百五十九條ニ記

シタル如ク糶賣ノ時立會ヲ爲スマ呼出ヲ受ク可シ但シ之カ爲メ

糶賣ノ日刻ト場所トチ一月前ニ其監察者ニ報告シ且其者ニ糶賣ノ

時出席ノ有無ヲ問ハス糶賣ヲ爲ス可キ旨ヲ報告シ置ク可シ

第九百六十三條 糶賣ヲ爲ス時其賣拂ノ附直段ニテ買入レントスル

者ナキ時ハ裁判所ニ願書ヲ出シ裁判所ニ於テハ其附直段ヨリ更ニ

五六四

下直ニテ再ヒ之ヲ糶賣ニ出ス可キ旨ヲ裁判役會議ノ室ニテ言渡ス
トテ得可シ但シ其再度ノ糶賣ヲ爲ス可キ期限ハ裁判所ノ言渡ニ因
リ之ヲ定ムル所ニシテ初度ノ糶賣ノ時ヨリ十五日以内ナルトナカ
ル可シ

其再度ノ糶賣ヨリ少クモ八日前ニ前數條ニ記スル如ク再ヒ貼附
ヲ爲シ且新聞紙ニ記入シテ之ヲ公ケニ爲ス可シ

第九百六十四條 第七百一一條第七百五條第七百六條第七百七條第七
百一十一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四
條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條
第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條ニ記
シタル諸件ハ此章ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

然レモ證書人其糶賣ヲ證スル時ハ別段代書師ノ世話ヲ要スルコトナ

ク如何ナル人ト雖モ其糶賣ヲ爲スコトヲ得可シ

證書人ノ面前ニテ糶賣ヲ爲ス時若シ買入人其代金ヲ直ニ拂フコト能
ハサルニ因リ買入人ノ引受ヲ以テ更ニ糶賣ヲ爲ス可キニ於テハ糶
賣ヲ爲ス者其旨ヲ裁判所ニ訴フ可シ

此場合ニ於テハ證書人ヨリ買入人糶賣ノ箇條ノ如ク執行ハサル旨
ヲ證スル受合書ヲ渡ス可シ然ル上ハ初度ノ糶賣ノ調書ヲ以テ更ニ
糶賣ヲ爲スノ憑據ト爲ヌメ之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第九百六十五條 糶賣ヲ爲シタルヨリ八日內ニ如何ナル人ト雖モ第
七百八條第七百九條第七百十條ニ記スル所ノ法式ト期限トニ從ヒ
其買入直段ヨリ更ニ其六分一ヲ増シタル價ニテ買入レント求ムル
コトヲ得可シ

前項ノ求メニ因リ復タ糶賣ヲ爲シタル後ハ其不動産ヲ更ニ復タ糶

賣ニ爲ス可カラス

○第七章 遺物財産ノ分派及ヒ糶賣

第九百六十六條 民法第八百二十三條及ヒ第八百三十八條ニ記シタル場合ニ於テ裁判ノ手續ヲ經テ遺物財産ノ分派ヲ爲ス可キ時ハ遺物相續人中ニテ最モ先キニ手續ヲ爲ス者其訴ヲ爲ス可シ

第九百六十七條 同時ニ其訴ヲ爲サントスル者二人アル時ハ裁判所ノ書記官ヲシテ最モ先キニ呼出狀他ノ遺物相續人ヲ呼出ス書ノ正本ニ檢印ヲ爲サシメタル者其訴ヲ爲スノ權アリ但シ其檢印ヲ爲シタル日刻ヲ附記シ置ク可シ

第九百六十八條 二人以上ノ幼者ノ權利相觸ル、時其各自ノ後見人ヲ任スル規則ハ第八百八十二條以下ノ數條ニ循フ可シ

第九百六十九條 別段ノ道理アル時ハ遺物財産ノ分派ヲ願フ訴ヲ裁

判スル言渡ヲ以テ民法第八百二十三條ニ循ヒ掛リ裁判役一員ト證書人一員トヲ任ス可シ
若シ分派ノ手續ヲ爲ス間ニ掛リ裁判役又ハ證書人其手續ヲ爲スニ故障アル時ハ裁判所ノ上席人訴人ノ願ニ因リ其代人ヲ任スルノ言渡ヲ爲ス可シ但シ其言渡シハ之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス又之ヲ控訴スルヲ得ス

第九百七十條 財産分派ヲ爲シ得可キニ於テハ分派ノ訴ヲ裁判スル言渡書ヲ以テ其分派ヲ爲ス可キヲ言渡シ又然ラサレハ糶賣ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ但シ其糶賣ハ第九百五十五條ニ循ヒ裁判役ノ面前又ハ證書人ノ面前ニテ之ヲ爲ス可シ

裁判所ニテ分派ヲ言渡シタルト糶賣ヲ言渡シタルトヲ問ハス幼者ノ其訴ニ管係アル時ト雖モ豫メ評價ヲ爲サシムルヲナク直ニ其分

派又ハ糶賣ニ取掛ル可キ旨ヲ言渡スヲ得可シ但シ糶賣ヲ爲ス可キ時ハ第九百五十五條ニ循ヒ裁判所ニテ其附直段ヲ定ム可シ

第九百七十一條

若シ裁判所ニテ評價ヲ爲ス可キヲ言渡ス時ハ評價人一員又ハ三員ヲ任シ其評價人第九百五十六條ニ記シタル如ク誓ヲ爲ス可シ

評價人ヲ任スルヲ及ヒ其申立ハ第三百二條以下數條ニ記シタル規則ニ循ヒ之ヲ爲ス可シ

評價人ノ申立書ニハ評價ヲ爲シタル大旨ヲ簡畧ニ記ス可ク分派シ

又ハ糶賣ニ爲ス可キ財産ノ模様ヲ委細ニ記ス可ク及ハス

分派ヲ訴ヘタル者ハ其代書師ヨリ他ノ者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシ

メ他ノ者ニ評價人ノ申立書ヲ承諾スルヲ求ム可シ

第九百七十二條 其糶賣ニ付テハ前章ニ記シタル規則ニ循フ可シ但

シ糶賣ノ箇條書ニハ左件ヲ加フ可シ

第一 糶賣手續ノ訴ヲ爲ス者ノ姓名住所職業及ヒ其代書師ノ姓

名住所

第二 與ニ糶賣ヲ爲ス者ノ姓名住所職業及ヒ其代書師ノ姓名住

所

第九百七十三條 糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局又ハ證書人ニ預ケ

タルヨリ八日內ニ糶賣手續ノ訴ヲ爲ス者其代書師ヲシテ與ニ糶賣

ヲ爲ス者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其糶賣ノ箇條書ヲ檢視ス可キ

トシ要ム可シ

若シ其糶賣ノ箇條書ニ付キ故障ノ起ル時ハ別段願書ヲ出スニ及ハ

ズ唯一方ノ代書師ヨリ他ノ一方ノ代書師ニ招書ヲ送り裁判所ニ出

席スルヲ要メタル上裁判所吟味ノ席ニテ之ヲ裁判ス可シ

其裁判所ノ言渡ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記シタル規則ト定期トニ循ヒ之ヲ控訴スルヲ得可シ

糶賣ノ箇條書ヲ檢視ス可キヲ一方ヨリ他ノ一方ニ要メタル後ノ手續ニ管シタル故障ニ付キ前項ニ記シタルヨリ以外ノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得ヌ又之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス

若シ糶賣ヲ爲ス時其附直段ニテ買入レントスル者ナキ時ハ第九百六十三條ニ記スル如ク處置ス可シ

何人ニ限ラズ糶賣ヲ爲シタルヨリ八日內ニ第七百八條第七百九條

第七百十條ノ規則ニ循ヒ其價ノ六分ノ一ヲ増シテ買入レント要ムルヲ得可シ

其價ヲ増シテ買入レントスルノ効ハ幼者ノ不動産賣拂ノ時ト同一ナリトス

第九百七十四條 不動産所々ニ分隔シ各其評價ヲ爲シタル時其各不

動産ヲ分派ス可カラサルノ申立書アリト雖モ其申立書數通ヲ互ニ

見合セタルニ因リ不動産ノ全部ヲ分派スルヲ得可キ模様タル事

分明ナルニ於テハ之ヲ糶賣ニ爲ス可及ハス

第九百七十五條 死者ノ不動産ニ付キ之ヲ得可キ數人ノ權利既ニ定

マリタル時其不動産ノ分派ノミヲ訴フルニ於テハ評價人其評價ヲ

爲シ民法第四百六十六條ニ記スル如ク其不動産ヲ區分シ且其管係

アル者評價人ノ申立書ヲ承諾シタル上ニテ第九百六十九條ニ記シ

タル如ク別段任ヲ受ケタル掛リ裁判役又ハ證書人ノ面前ニテ其區

分シタル不動産ヲ圖引ニ爲ス可シ

第九百七十六條 其他ノ場合ニ於テ殊ニ裁判所ニテ評價人ヲシテ申

立ヲ爲サシムルヲナシ不動産ノ分派ヲ爲ス可キヲ言渡シタル時

ハ糶賣手續ノ訴ヲ爲シタル者共ニ分派ヲ爲ス者ヲシテ別段定メテ
 ル日ニ掛リ證書人ノ面前ニ出テシムル招書ヲ送り其面前ニテ民法
 第八百二十八條ニ記シタル如ク各相続人其爲ス可キ算計及ヒ返還
 ナ爲シ分派ス可キ財産ノ合部ト各人ニ分派ス可キ部分トヲ定メ分
 派ノ前ニ先キニ引取ル可キ物アル時ハ之ヲ引取り又相続人中ノ一
 人ヨリ他ノ相続人ニ引渡ス可キ物アル時ハ其物ヲ定ム可シ
 又糶賣ヲ爲シタル後數人ニ分派ス可キ部分ヲ平等ナラシムル爲メ
 糶賣ノ代金ヲ遺物財産ノ全部ト相混同ス可キ時ハ亦前項ト同一ナ
 リトス

第九百七十七條 掛リ證書人ハ其補佐ヲ爲ス證書人又ハ證人ノ立會
 ナシシテ自カラ其分派ノ事ヲ爲ス可シ若シ分派ノ訴ニ管係アル者
 其代言人ヲ伴行シタル時ハ其代言人ニ與フ可キ謝金ヲ財産分派ノ

費用ト爲ス可カラス其本人ノ費用ト爲ス可シ

民法第八百三十七條ノ場合ニ於テハ證書人分派ニ付テノ故障ト管
 係アル數人ノ申述フル所ト別ニ調書ニ記シ其調書ヲ裁判所ノ書
 記局ニ藏メ置ク可シ

若シ掛リ裁判役分派ニ管係アル數人ヲ裁判所吟味ノ席ニ出テシム
 ルコトヲ言渡シタル時ハ其數人ノ出席ス可キ日ヲ指定メタルヲ以テ
 即チ其數人ニ呼出狀ヲ送達シタルニ等シキ効アリトス
 故ニ掛リ裁判役ノ面前又ハ裁判所吟味ノ席ニ其管係アル數人ヲ別
 段呼出ス書面ヲ送達スルコト及ハス

第九百七十八條 民法第八百二十九條第八百三十條第八百三十一條
 ニ循ヒ證書人其分派ス可キ財産ノ合部ヲ定メ且遺物相続人中ノ一
 人ヨリ他ノ者ニ返還ス可キ物及ヒ其中ノ一人分派ノ前ニ先キニ引

取ル可キ物ヲ定メタル上遺物相續人皆丁年ニシテ其中一人ヲ撰テ
不動産ヲ區分セシメントシ其一人其務ヲ承諾シタルニ於テハ其者
其不動産ヲ分派ス可シ若シ然ラサルニ於テハ別ニ手續ヲ爲スニ及
ハスシテ證書人其分派ニ管係スル數人ヲ掛リ裁判役ノ面前ニ出テ
シメ掛リ裁判役評價人ヲ任ス可シ

第九百七十九條 不動産ヲ區分スル爲メ遺物相續人中ニテ別ニ撰テ
受ケタル者又ハ別段任テ受ケタル評價人ハ其不動産ヲ區分シテ其
申立書ヲ記ス可シ但シ其申立書ハ證書人之ヲ受取リテ此迄爲シタ
ル諸事ヲ記シタル調書ノ末ニ記入ス可シ

第九百八十條 不動産ヲ區分シ且裁判所ニテ其區分ニ付テノ爭ヲ裁
判セシ後是迄分派ノ手續ヲ爲シタル者共ニ分派ヲ受クル者ヲシテ
別段定メタル日ニ證書人ノ役所ニ出席セシムル招書ヲ送り此等ノ

者ヲシテ其調書ヲ成就スル時立會ハシメ且其讀上ヲ聽カシメ又其
者ヲシテ己レト共ニ其調書ニ姓名ヲ手署セシム可シ

第九百八十一條 分派ノ手續ヲ爲ス者ハ證書人ヨリ分派ノ調書ノ寫
ヲ受取リ裁判所ニ其允許ヲ得ント願フ可シ又裁判所ニテハ掛リ裁
判役ノ申立ヲ聽キタル上嘗テ管係アル諸人中ニ調書ヲ成就スル時
立會ヲ爲サ、リシ者アルニ於テハ此等ノ諸人ヲ皆呼出シテ其分派
ノ允許ヲ爲ス可シ但シ其管係アル者ノ中ニ檢事ノ保護ヲ受ク可キ
者アル時ハ裁判所ニテ檢事ノ説ヲ聽ク可シ

第九百八十二條 分派ノ調書ヲ允許スル言渡書ニハ掛リ裁判役又ハ
證書人ノ面前ニテ區別シタル不動産ヲ附引ニ爲ス可キヲ記ス可
シ但シ掛リ裁判役又ハ證書人ハ附引ノ後其區分シタル部分ヲ引渡
ス可シ

第九百八十三條 裁判所ノ書記官及ヒ證書人ハ分派ニ管係アル者ノ
求メニ從ヒ分派ノ調書ノ全部又ハ一部ノ寫書ヲ渡スコシ

第九百八十四條 幼者又ハ其他民權ヲ行フ可カラサル者其他入ト共
通シテ所有スル不動産ヲ分派シ又ハ糶賣ト爲スコ付テハ亦前數條
ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第九百八十五條 共ニ不動産ヲ所有スル者又ハ共ニ不動産ヲ相続ス
可キ者皆丁年ニシテ民權ヲ行フヲ得可ク且自カラ立會ヲ爲シ又
ハ名代人ヲシテ立會ヲ爲サシムル時ハ別段裁判ノ手續ヲ經テ分派
ヲ爲スコ及ハス又既ニ裁判ノ手續ヲ經テ分派ヲ爲シ始メタル時ト
雖モ其分派ノ方法ヲ止メ相協議スル所ニ從ヒ隨意ニ分派ヲ爲スコ
ヲ得可シ

○第八章 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權

第九百八十六條 遺物ヲ相続ス可キノ權アル者其相続ヲ爲スコト承
諾スル前ニ民法ニ循ヒ遺物財産中ノ動産ヲ賣拂ハント欲スル時ハ
其相続ヲ爲ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面
ヲ出スコシ

其賣拂ハ動産賣拂ノ定例ニ循ヒ貼附ヲ爲シ及ヒ公ケニ爲シタル上
ニテ官吏之ヲ爲スコシ

第九百八十七條 遺物財産中ノ不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ遺物財産ノ
價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相続人其相続ヲ爲ス地
ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ出スコシ但シ
其願書ニハ其不動産ノ模様ヲ簡畧ニ記載スコシ○裁判所ノ上席人
ハ其願書ヲ檢察官ニ送達シ其説ト掛リ裁判役ノ申立トヲ聽キタル
上ニテ不動産賣拂ヲ許可シ且其附直段ヲ定ムル言渡ヲ爲シ又ハ其

賣拂ヲ爲ス前裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其不動産ヲ檢視セ
シメ其評價ヲ爲サシム可キ旨ヲ言渡ス可シ

裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメタル時
ハ相續人ノ願ニ因リ裁判所ニテ其評價人ノ申立書ヲ許可シ且檢察
官ノ説ヲ聽キタル上ニテ不動産ノ賣拂ヲ許ルヌ言渡ヲ爲ス可シ

第九百八十八條 前條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ第九百五十三
條以下數條ニ記シタル規則ニ循ヒ不動産ヲ賣拂フ可シ

第七百一條第七百二條第七百五條第七百六條第七百七條第七百十
一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四條第
七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七
百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第九百六
十四條ノ第三項及ヒ第四項第九百六十五條ハ此章ニ記スル所ニモ

亦通シテ之ヲ用フ可シ

遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル遺物相續人此
章ニ記スル所ノ規則ニ循ハスシテ不動産ヲ賣拂フ時ハ其特權ナキ
通常ノ遺物相續人ナリト看做ス可シ

第九百八十九條 全上ノ特權アル遺物相續人其遺物中ノ動産及ヒ人
ヨリ年金ヲ得可キノ權ヲ賣拂フ可キ時ハ此等ノ諸件ヲ賣拂フニ付
テノ定則ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可シ若シ其特權アル相續人其定則ニ循
ハスシテ賣拂ヲ爲ス時ハ其特權ナキ通常ノ遺物相續人ナリト看做
ス可シ

第九百九十條 遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フテ得タル代金ハ第六百五
十六條以下數條ニ記スル規則ニ循ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ
第九百九十一條 又不動産賣拂ニ因リ得タル代金ハ債主ノ特權及ヒ

書入質ノ權ノ順序ニ從ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ

第九百九十二條 死者ノ債主及其他遺物財産ニ管係アル者遺物財産

ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人ヲシテ保證人ヲ

立テシメント欲スル時ハ其相續人又ハ其住所ニ其旨ヲ求ムル招書

ヲ送ル可シ但シ其招書ハ裁判手續ノ法式ヲ用ヒサル書面タル可シ

第九百九十三條 此招書ヲ送達シタルヨリ三日ノ期限ト特權アル相

續人ノ住所ト裁判所所在ノ邑トノ間三〔ミリヤメートル〕毎ニ一日ヲ

増シタル期限トノ内ニ其相續人保證人ヲ立ルニ付テノ法式第五百

以下ニ循ヒ裁判所ノ書記局ニ其保證人ヲ立テタル旨ヲ申出ツ可シ

第九百九十四條 若シ死者ノ債主又ハ其他遺物ノ財産ニ管係アル者

特權アル相續人ノ立テタル保證人ヲ承諾セズシテ故障ヲ述フル時

ハ其債主又ハ其他遺物ニ管係アル數人ノ代書師中ニテ最モ先キニ

其任ヲ受ケタル者其數人ノ名代人タル可シ

第九百九十五條 全上ノ特權アル遺物相續人ノ爲ス可キ算計ニ付テ

ハ第五百二十七條以下數條ノ規則ニ循フ可シ

第九百九十六條 全上ノ特權アル遺物相續人死者ノ遺物財産中ヨリ

己レノ貸シタル財産ヲ取還サントスルノ道理アル時ハ他ノ遺物相續

人ニ對シテ其訴ヲ爲ス可シ若シ又其特權ヲ有スル相續人ノ外更ニ

他ノ相續人ナキ時又ハ相續人數人アルト雖モ皆全上ノ特權ヲ有ス

ル者ニシテ且ツ其數人皆死者ノ遺物財産中ヨリ己レノ貸シタル財産

ヲ取還サントスル訴ヲ爲ス可キ時ハ其訴ノ被告人タル可キ遺物管

財人一員ヲ別段裁判所ヨリ任ス可シ但シ其管財人ヲ任スル法式ハ

遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人ヲ任スルト同一タル可シ

○第九章 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル事遺物ノ財産ヲ拋棄スル

事婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ事

第九百九十七條 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル事又ハ遺物ノ財産ヲ拋棄スル事ハ夫婦財産ノ共通ヲ解除シ 民法第千四百五十三條見合 又ハ遺物相續ヲ始ムル地ヲ管轄スル初告裁判所ノ書記局ニ之ヲ届ケ其届ノ旨ヲ民法第七百八十四條ニ記シタル簿冊ニ登記シ又民法第千四百五十七條ニ循テ之ヲ處置ス可シ其他別段ノ法式ヲ爲スニ及ハス

又民法第千五百五十八條ニ記スル場合ニ於テ婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ先ツ其旨ヲ裁判所ニ願ヒ裁判所吟味ノ席ニテ其賣拂ヲ許可スル言渡ヲ得タル上之ヲ爲ス可シ

其他ノ手續ニ付テハ第九百五十五條第九百五十六條及ヒ其以下數條ノ規則ニ循フ可シ

○第十章 遺物相續人ノ虧欠シタル財産管財人ノ事

第九百九十八條

遺物財産ノ目錄ヲ記シ且熟考ヲ爲ヌクメノ定期内

民法第七百九十五條見合

遺物相續ヲ求ムル者出テ來テヌ又ハ人ノ知ル所ノ遺物相續人ナシ又ハ遺物ヲ相續ス可キ者アリト雖モ此等ノ者皆其

遺物ノ財産ヲ拋棄シタル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧欠セシ財産ト爲シ

民法第八百十二條ニ循ヒ其財産ノ管財人ヲ任ヌ可シ

第九百九十九條

若シ遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人二人以

上ヲ任シタル時ハ最モ先キニ任ヲ受ケタル管財人一人其職ニ任シ

其他ノ者ハ其職ヲ止ム可シ但シ此事ニ付テハ別段裁判所ノ言渡ヲ

得ルニ及ハス

第一千條 其管財人ハ遺物財産ノ目錄ナキ時ハ最初ニ其目錄ヲ記シ

テ其遺物財産ノ模様ヲ證明シ且第九百四十一條以下數條ト第九百

四十五條以下數條トニ記シタル規則ニ循ヒ動産ヲ賣拂フ可シ

第一千一條 又其管財人不動産又ハ人ヨリ年金ヲ得ルノ權利ヲ賣拂ハ
ソトスルコハ第九百八十六條以下數條ノ規則ニ循フ可シ

第一千二條 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ以テ
遺物相續ヲ爲ス者ノ爲メ前ニ記シタル規則ハ相續人ノ虧欠シタル
遺物財産ノ管財人ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第三卷 (千八百六年四月二十九日決定五月九日布告)

○一章 判斷人ノ事

第一千三條 何人ニ限ラズ其自由ニ爲スヲ得可キ權利ニ付キ判斷人ノ
判斷ニ任カスル契約ヲ爲スヲ得可シ

第一千四條 衣食住ノ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ得可キ事夫婦其

財産及ヒ住居ヲ分ツ事離婚ノ事人ノ身分ニ管シタル事其他總テ檢
察官ニ報告ス可キ事ニ付テハ判斷人ノ判斷ニ任カスル契約ヲ爲ス
可カラス

第一千五條 判斷人ノ判斷ニ任カスル契約ハ雙方ノ擇ミタル判斷人ノ
面前ニテ之ヲ調書ニ記シ又ハ證書人ノ面前ニテ之ヲ公正ノ書面ニ
記シ又ハ雙方ノ姓名ヲ手署シタル私ノ證書ニ之ヲ記ス可シ

第一千六條 全上ノ契約書ニハ雙方ノ爭フ所ノ事件ト判斷人ノ姓名ト
ヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其契約書ノ効ナカル可シ

第一千七條 全上ノ契約書ハ別段期限ヲ定メサル時ト雖モ其効アリト
ス但シ此場合ニ於テハ判斷人其契約書ヲ記シタル日ヨリ三月ノ間
其職務ヲ行フノ權アリトス

第一千八條 判斷人其職務ヲ行フ時間ハ之ヲ擇ミタル諸人ノ皆協議シ

タル上ニ非シハ其判断人ノ職ヲ止ム可カラズ

第千九條 判断ヲ受ク可キ雙方ノ者及ヒ判断人其判断ノ手續ヲ爲スニ付テハ裁判所ノ爲メ定メタル期限ト法式トニ循フ可シ但シ判断ヲ受ク可キ雙方ノ者別段ノ期限及ヒ法式ヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第千十條 雙方ノ者ハ判断人ノ判断ニ任カスルノ契約ヲ爲ス時又ハ其契約ヲ爲シタル後ニ其判断ノ控訴ヲ爲サ、ル旨ヲ定メ置クコトヲ得可シ

初告裁判所ノ言渡ニ服セスシテ之ヲ控訴スル爲メ又ハ其言渡ヲ取消サントスル爲メ第四百八十條以下見合判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ爲シタル上ハ其判断人ノ言渡ヲ確定ノモノト爲シ更ニ之ヲ控訴スルコトヲ得ス

第千十一條 判断人其吟味ヲ爲ス手續ニ付テノ書類又ハ其調書ハ各判断人之ヲ記ス可シ但シ雙方本人判断人中ニテ別段定メタル一人ニ此等ノ書類ヲ記スルコトヲ任シタル時ハ格別ナリトス

第千十二條 雙方ノ者判断人ノ判断ニ任カスル契約ハ左件ニ因テ其効ヲ失フ可シ

第一 判断人中ノ一人ノ死去スル事其職ニ任スルコトヲ肯セサル事其職ニ任シタル後地所ニ到ル事判断人ニ差支アル事但シ雙方本人又ハ後ニ残りタル判断人ノ隨意ニテ其事故アル判断人ニ代ヘテ更ニ他ノ判断人ヲ任スルコトヲ定メタル時又ハ判断人中ノ一人ニ事故アリト雖モ後ニ残りタル判断人ノミニテ判断ヲ爲ス可キコトヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第二 契約書ニ定メタル期限ノ終ル事又ハ其期限ヲ定メタルコト

ナキ時ハ三月ノ時間ノ經過シタル事

第三 判断人二人ナル時其二人ノ説互ニ相異ナル事但シ其二人

コテ其兩説ヲ決定セシムル爲メ別ニ判断人一人ヲ擇ムヲ得
可キ時ハ格別ナリトス

第一千十三條 判断ヲ受ク可キ者ノ中一人死去スルト雖モ其相續人皆

丁年ナル時ハ判断人ノ判断ニ任カスル契約ノ効アリトス但シ其相

續人目錄ヲ記シ且熟考ヲ爲スタメノ期限閉ハ判断人ノ吟味及ヒ判

断ヲ猶豫ス可シ

第一千十四條 判断人其職務ヲ行ヒ始メタル上ハ其職ヲ止メテ他所ニ

到ル可カラヌ○又雙方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ結ヒタ

ル後起リタル理由アルニ非レハ其判断人ニ付キ雙方本人ヨリ故障

ヲ述フ可カラヌ

第一千十五條 雙方本人ノ中一方ヨリ他ノ一方ノ書類ノ贗造タルヲチ

述ヘタル時又ハ其他何事ニ限ラズ犯罪ニ管シタル附帯ノ訴ノ起リ

タル時ハ判断人雙方ノ者ヲシテ裁判所ニ訴出セシメ其訴ノ裁判言

渡アリシ時ヨリ判断ヲ爲ス可キ期限ヲ算ス可シ

第一千十六條 雙方本人ハ判断人ノ判断ニ任カスル契約ノ期限ノ終ル

時ヨリ少クトモ十五日前ニ其憑據書及ヒ證書類ヲ判断人ニ出シ判

断人ハ此等ノ書類ニ據リテ其判断ヲ爲ス可シ

判断書ハ各判断人之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ又判断人ノ數二人ヨ

リ多クシテ其中ノ半以下ノ者判断書ニ姓名ヲ手署スルヲ肯セハ

ル時ハ他ノ判断人其旨ヲ判断書ニ記シ置キ其判断書ハ各判断人皆

其姓名ヲ手署シタルト同一ノ効アリトス

判断人ノ判断書ハ抗傳者ヨリ故障ヲ述フ可カラヌ

第一千十七條 判斷人二人ニシテ其說互ニ相異ナル時別ニ他ノ判斷人

一員ヲ擇ムヲ得可キニ於テハ雙方其說ノ異ナル旨ヲ本人等ニ言

渡シテ別ニ他ノ判斷人一員ヲ擇ム可シ若シ又之ヲ擇ムヲ協議セ

サルニ於テハ其旨ヲ調書ニ記シ判斷書ノ執行ヲ言渡ス可キ初告裁

判所ノ上席人其別段ノ判斷人一員ヲ擇ム可シ但シ雙方本人ノ中一

方ヨリ別段ノ判斷人一員ヲ擇ム可キ旨ヲ其裁判所ノ上席人ニ願フ

書面ヲ出ス可シ

此條ニ記シタル何ノ場合ニ於テモ說ノ互ニ相異ナル判斷人二人ハ

一通ノ調書又ハ別通ノ調書ニ其說ト其說ノ趣意トヲ記ス可シ

第一千十八條 別段ノ判斷人ハ其職ヲ受ケタルヨリ一月内ニ判斷ヲ爲

ス可シ但シ其職ヲ任セラレタル書面ニ一月ヨリ更ニ長キ期内ニ其

判斷ヲ爲シ得可キヲ記シタル時ハ格別ナリトス

又其別段ノ判斷人ハ従前ノ判斷人等ニ集會ヲ爲ス可キノ招書ヲ送
リ之ト評議シタル後ニ非レハ判斷ヲ爲ス可カラズ

若シ従前ノ判斷人出席セザル時ハ別段ノ判斷人一人ニテ判斷ヲ爲

ス可シ然レ其判斷人ハ必ス従前ノ判斷人中一人ノ說ニ從テ判斷ヲ

爲ス可シ

第一千九條 初メ任ヲ受ケタル判斷人及ヒ別段ノ判斷人ハ雙方本人

ノ爭テ法律ニ循ヒ判斷ス可シ但シ本人等ノ契約書ニ判斷人ハ雙方

ノ間ニ勸解ヲ爲ス可キノ權アルヲ定メ置キタル時ハ格別ナリト

ス

第一千二十條 判斷人ノ判斷言渡ハ其地方ヲ管轄スル初告裁判所ノ上

席人ノ言渡ニ因リ之ヲ執行フヲ得可シ但シ之カ爲メニ判斷人中

ノ一人其判斷ノ言渡ヲ爲シタルヨリ三日内ニ其言渡書ノ正本ヲ初

告裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

又初告裁判所ノ裁判言渡ニ服セスシテ判断人ノ判断ヲ求メタル時ハ判断人ノ判断言渡書ノ正本ヲ控訴院ノ書記局ニ納メ控訴院ノ上席人其判断言渡ヲ執行ハシムル言渡ヲ爲ス可シ

判断人ノ判断言渡書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ムルニ付テノ費用及ヒ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルニ付テノ税銀ヲ償ハシム可キ訴ハ判断人ニ對シテ爲ス可カラズ雙方本人ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

第千二十一條 判断人ノ判断言渡書ハ縱令ヒ預審ノ言渡ト雖モ裁判所ノ上席人ノ之ヲ許可スル言渡ヲ其判断言渡書ノ正本ノ末又ハ端ニ附記シタル後ニ非レハ之ヲ執行フ可カラズ但シ判断人ノ言渡書ハ之ヲ檢察官ニ送達スルニ及ハス

又判断人ノ判断言渡書ノ寫ノ末ニモ亦裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ附

記ス可シ

判断人ノ判断言渡ヲ執行フ事ヲ管轄スル權ハ之ヲ許可スルノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ屬ス可シ

第千二十二條 判断人ノ判断言渡ハ其判断ヲ受ケタル者ノ閉ニシテ其効ヲ生ス可ク其他ノ者ニ付テハ其効ナシトス

第千二十三條 判断人ノ判断言渡ヲ控訴スルニ付テノ規則ハ左ノ如シ

判断人ノ判断ヲ求メタル時ハ始審ト終審トヲ問ハズ當然治安裁判役ノ管轄タル可キ事件ニ付テハ判断人ノ判断言渡ヲ初告裁判所ニ控訴ス可シ

又始審ト終審トヲ問ハズ當然初告裁判所ノ管轄タル可キ事件ニ付テハ判断人ノ判断言渡ヲ控訴院ニ控訴ス可シ

第一千二十四條 裁判所ノ裁判言渡ヲ假リニ執行フニ付テノ規則ハ亦
判断人ノ判断言渡ニモ通シテ之ヲ用ラ可シ

第一千二十五條 判断人ノ判断言渡ヲ控訴シタル上ニテ負訴訟トナル
者ハ裁判所ノ裁判言渡ヲ控訴シテ負訴訟トナル者ニ等シキ罰金ヲ
言渡サル可シ

第一千二十六條 判断人ノ判断言渡ニ付キ敬慎ノ願書 第四百八十ヲ出
スニ付テノ定期及ヒ其法式並ニ其願ヲ爲シ得可キ場合ハ裁判所ノ
裁判言渡ニ付キ全上ノ願書ヲ出シ得可キ時ト同一ナリトス
全上ノ願書ハ控訴ヲ爲スト同シキ裁判所ニ之ヲ出ス可シ

第一千二十七條 然レ左ノ事ニ付テハ判断人ノ判断ニ付キ敬慎ノ願書
ヲ出ス可カラズ
第一 判断ノ手續平常裁判所ニテ行フ所ノ法式ニ背キタル事但

シ第一千九條ニ記シタル如ク雙方本人別段ノ契約ヲ爲シタル時

ハ格別ナリトス
第二 雙方本人ヨリ判断ヲ求メサル事件ニ付キ判断人其判断ヲ
言渡シタル事但シ此場合ニ於テハ後條ニ記シタル如ク其言渡
ノ取消ヲ願フコトヲ得可シ

第一千二十八條 左ノ場合ニ於テハ判断人ノ判断言渡ヲ控訴スルニ及
ハス又其言渡ニ付キ敬慎ノ願書ヲ出スニ及ハス
第一 雙方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲナスコトナシテ
其判断言渡ヲ受ケタル時又ハ其契約アリト雖モ其契約ニ定メ
タルヨリ以外ノ事ニ付キ判断言渡ヲ受ケタル時

第二 雙方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約アリト雖モ其契約
ノ効ナシ又ハ其期限既ニ終リタル場合ニ於テ判断言渡ヲ受ケ

タル事

第三 判斷人中ノ一人不在ナル時判斷ヲ爲ス可キノ任ヲ受ケタル者ニ非ル判斷人ノ判斷ヲ爲シタル時

第四 判斷人二員ノ説互ニ相異ナリ之ヲ決定ス可キカ爲メ更ニ別段ノ判斷人一員ヲ任シタル場合ニ於テ其別段ノ判斷人從前ノ判斷人ノ説ヲ問ハスシテ判斷ノ言渡ヲ爲シタル時

第五 雙方本人判斷人ノ判斷ヲ求メサル事件ニ付キ其判斷ヲ受ケタル時

總テ此等ノ場合ニ於テハ其判斷人ノ判斷言渡ノ執行ヲ承諾セサル者其言渡ノ執行ヲ命シタル裁判所ニ判斷言渡ノ取消ヲ訴出ス可シ
判斷人ノ判斷言渡ヲ裁判所ニ控訴シ又ハ其言渡ニ付キ敬慎ノ願書ヲ裁判所ニ出シ其裁判所ノ裁判言渡ヲ得テ之ニ服セサル時ニ非ン

ハ覆審院ニ訴出ス可カラズ

○總規則

第千二十九條 總テ訴訟法ニ記スル無効ノ規則罰金ノ規則期限ノ規則ハ必ス之ニ循フ可シ

第千三十條 總テ呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ノ効ナキ旨ヲ別段法律上ニ定メタルコトナキ時ハ其取消ノ旨ヲ言渡ス可カラズ

呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ノ効ナキ旨ヲ別段法律上ニ定メタルコトナキ時ハ此等ノ書類ヲ取扱ヒタル者代書師使吏證書人其爲ス可キ手續ヲ怠リ又ハ規則ニ背キタルニ付キ五フランシヨリ少ナカラズ百フランシヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第一千三十一條 法律上ニテ効ナシトスル書類又ハ益ヲ生セサル書類
又ハ罰金ノ言渡ヲ受クルノ原由タル書類ノ費用ハ其書類ノ取扱人
之ヲ擔當ス可ク且其取扱人ハ其時ノ模様ニ因リ本人ニ損失ノ償ヲ
爲ス可キノ言渡ヲ受ケ又ハ定期間其職ヲ罷メラル可シ

第一千三十二條 邑及ヒ公舎ハ裁判所ニ訴ヲ爲スニ付キ別段ノ行政法
ニ循テ可シ

第一千三十三條 (千八百六十二年五月三日左ノ如ク改ム)初告裁判所へ
ノ呼出狀治安裁判所へノ呼出狀本人又ハ其住所ニ送達スル書類ノ招書及
ヒ其他總テ本人又ハ其住所ニ送達スル書類ニ付テハ其送達ノ日ト
期限切レノ日トヲ定期中ニ算入スルコトナカル可シ○其定期ハ路程
五[ミリヤメートル]毎ニ一日ヲ増ス可シ○又民法或ハ商法ニ管シタ
ル諸事ニ付キ法律勅命言渡等ニ因リ路程ニ准シテ日數ヲ増ス可キ

時ハ亦前ニ記スル所ニ等シトス○四[ミリヤメートル]以下ノ路程ハ
之ヲ算フ可カラズ四[ミリヤメートル]以上ノ路程アル時ハ定期ニ一
日ヲ増ス可シ若シ期限ノ最終ノ日祭日ニ當ル時ハ期限ヲ翌日ニ延
ハス可シ

第一千三十四條 評價人ノ評價ヲ爲ス時ニ立會フ可キノ招書又ハ二箇
ノ訴訟ヲ混同シテ一箇ト爲スニ付テノ呼出狀第七百十ニハ其初度
ノ評價ヲ爲ス場所ト日刻又ハ初度ノ吟味ヲ爲ス場所ト日刻トヲ記
ス可ク第二次ノ評價ヲ爲シ又ハ第二次ノ吟味ヲ爲スニ付テハ更ニ
再ヒ其招書又ハ呼出狀ヲ送達スルニ及ハス

第一千三十五條 原告或ハ被告ヲシテ誓ヲ爲サシム可キ時又ハ保證人
ヲ立テシム可キ時又ハ證人吟味ヲ爲ス可キ時又ハ本人ノ問糺ヲ爲
ス可キ時又ハ評價人ヲ任ス可キ時及ヒ其他總テ裁判所ノ言渡ニ因

リ或事ヲ爲ス可キ時本人ノ住所或ハ争ノアル場所ト其言渡ヲ爲シ
タル裁判所ト大ニ隔リタルニ於テハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ヨリ
其時ノ模様ニ因リ其本人ノ住所或ハ其争アル場所ニ近キ裁判所ノ
裁判役全員又ハ一員又ハ治安裁判役ニ其爲ス可キ事務ヲ託シ又ハ
本人ノ住所或ハ争アル場所ニ近キ裁判所ニ其裁判役中ノ一人又ハ
治安裁判役ヲ擇ミテ別段其事務ヲ行ハシム可キヲ託スルヲ得
可シ

第千三十六條 裁判所ニ於テハ訴訟吟味ノ時其模様ニ因リ一方本人
ノ願ニ從ヒ或ハ裁判役ノ公務ヲ以テ訟庭取締ノ言渡ヲ爲シ又ハ一
方ノ書類他ノ一方ノ名望ヲ害ス可キモノタルニ因リ之ヲ棄滅スル
ヲ言渡シ且此等ノ言渡書ヲ刷行シテ之ヲ附附ス可キ旨ヲ定ムル
ヲ得可シ

第千三十七條 毎歲十月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル迄ノ間ハ朝六
字前ト夕六字後又四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル迄ノ間ハ朝四字
前ト夕九字後ニ裁判手續ニ管シタル書類ヲ送達ス可カラス又裁判
言渡ヲ執行フ可カラス○又祭日ニ於テハ其送達及ヒ執行ヲ爲ス可
カラス但シ其送達及ヒ執行ヲ遅延スル時危害アル可キ場合ニ於テ
別段裁判役ノ允許アル時ハ格別ナリトス

第千三十八條 確定ノ裁判言渡アリタル訴訟ニ管セシ代書師ハ其言
渡ヨリ一年内ニ其言渡ヲ執行フ特別ニ本人ニ代ル可キノ權ヲ受ケ
サルト雖モ當然本人ニ代テ裁判言渡ノ執行ニ管ス可シ

第千三十九條 裁判手續ニ管シタル書類ヲ受取ル可キノ任ヲ受ケタ
ル官吏ハ無費ニテ其受取リタル書類ノ正本ニ檢印ヲ爲ス可シ
其官吏檢印ヲ爲スヲ肯セサル時ハ其官吏ノ住所ノ初告裁判所ノ

檢事之ニ代テ其檢印ヲ爲シ之ヲ肯セサル官吏ハ檢事ノ申立ニ因リ
五フランクヨリ少ナカラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第千四十條 裁判役ノ管スル總テノ書類及ヒ調書ハ裁判所所在ノ場
所ニテ之ヲ記シ書記官之ニ立會ラテ其書類ノ正本ヲ預リ置キ其寫
ヲ渡ス可シ

又至急ノ場合ニ於テハ裁判役己ノ住所ニテ其受取リタル願書ノ答
ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ第八百六條以下ノ至急吟味
ノ規則ニ循フ可シ

第千四十一條 此訴訟法ハ千八百七年一月一日ヨリ之ヲ執行フ可シ
故ニ其執行以後ノ訴訟ハ此法ニ循ヒ之ヲ吟味ス可シ○其他訴訟ニ
管シタル従前ノ法律規則及ヒ習慣ハ之ヲ廢ス可シ

第千四十二條 此訴訟法執行ノ前ニ裁判所費用高ノ取極メノ爲メ並

ニ裁判所取締ノ爲メ行政規則ヲ設ク可シ
其時ヨリ遲クトモ三年内ニ其行政規則ヲ法律ノ體裁ニ爲シテ之ヲ
議院ニ差出ス可シ

辻 士革 校

佛蘭西訴訟法終
法律書

○第一篇 總テ商業ノ事(第一卷ヨリ第七卷ニ至ル迄ハ千八百七年九月十日決定同月二十日布告第八卷ハ同月十一日決定同月二十一日布告)

○第一卷 商人ノ事

第一條 凡ソ商賣ノ業ヲ行ヒ之ヲ以テ平常己レノ聽分ト爲ス者ハ商人ナリトス 商賣ノ業ハ第六百三十一條以下見合

第二條 男女ヲ問ハス滿十八歳以上ノ後見ヲ免レシ幼者ハ民法第四百八十七條ニ因リ商業ヲ爲サント欲スト雖モ左ノ二件アルニ非サレハ商業ヲ爲シ始ムルヲ得ス且其商業ノ爲メ結ビタル契約ニ付

キ丁年者ナリト看做ス可カラス

第一 父ノ許諾ヲ受ケタル事又父ノ死去シ或ハ治産ノ禁ヲ受ケ

或ハ失踪ノ時ハ母ノ許諾ヲ受クル事又父母共ニ在ラサル時ハ

親族會議ノ承諾ヲ受ケ且民法裁判所ノ允許ヲ得タル事

第二 父母ノ許諾ノ書又ハ親族會議ノ承諾ノ書ヲ幼者ノ住所ト

爲サントスル地ノ商法裁判所ノ簿冊ニ登記シ且貼附スル事

第三條 商人ニアラサル幼者ト雖モ第六百三十二條及ヒ第六百三十

三條ニ循ヒ商賣ノ業ナリト爲ス可キ諸事ヲ行ハントスル時ハ前條

ノ規則ヲ通シ用フ可シ

第四條 婦ハ夫ノ許諾ヲ得スシテ公ケノ商人トナルヲ得ス

第五條 婦公ケノ商人タル時ハ其商業ニ管シタル事ニ付キ其夫ノ許

諾ヲ得スシテ自カラ契約ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テ夫婦

互ニ其財産ヲ共通シタル時ハ夫モ亦其契約ノ義務ヲ負フ可シ

婦ハ其夫ノ商品ノ零賣ヲ爲スノミニテハ公ケノ商人ナリト看做ス

可カラヌ別ニ自カラ商業ヲ爲ス時ノミ之ヲ公ケノ商人ナリト看做

ス可シ

第六條 前ニ記スル如ク許諾ヲ受ケテ商業ヲ爲ス幼者ハ其不動産ヲ

書入質ト爲スヲ得可シ

又其幼者ハ民法第四百五十七條以下數條ノ法式ニ循フ時ハ其不動

産ヲ賣拂フヲ得可シ

第七條 又公ケノ商人タル婦ハ其不動産ヲ書入質ト爲シ又ハ賣拂フ

ヲ得可シ

然レ夫婦其婚姻ノ契約書ニ嫁資分括ノ法ニ循フ可キヲ定メタル

時ハ其婦民法ニ定メタル場合ト規則トニ循ハザレバ其嫁資ノ不動

産ヲ書入質ト爲シ又ハ賣拂フヲ得ス 民法第千五百五十四條以下見合

〇第二卷 商業簿冊ノ事

第八條 凡ソ商人ハ日用ノ簿冊ヲ設ケ置キ其貸金負債商賣ノ取引手形ノ承諾 第百十八條 及ヒ裏書 第百三十六條 以下見合 其他總テ如何ナル名義

ルヲ問ハズ己ノ受取り高ト拂ヒ高トチ毎日記入シ且家内費用高ノ大略ヲ毎月記入ス可シ但シ通常商賣ニ用フルト雖モ敢テ必要ト爲スニ非カル他ノ簿冊ヲ設ケ置クハ此條ノ規則ニ管セサル事トス 又商人ハ人ヨリ受取リシ書狀ヲ一束ニ爲シ置キ人ニ贈リタル書狀ハ別段設ケタル簿冊ニ寫シ留ム可シ

第九條 又商人ハ毎年自己ノ動産不動産並ニ其貸金及ヒ負債ノ目錄

ヲ造リテ之ニ姓名ヲ手署シ且毎年其目錄ヲ別段設ケタル簿冊ニ寫シ留ム可シ

第十條 商人日用ノ簿冊及ヒ目錄寫留ノ簿冊ハ毎年一度姓名ノ手署ニ代フル横線ヲ畫シテ且檢印ヲ爲ス可シ書狀寫留ノ簿冊ニハ同上ノ式ヲ爲ス可シ及ハズ

總テ此等ノ簿冊ハ日附ノ順序ニ從ヒ利白空行欄外ノ記入ナク之ヲ記ス可シ

第十一條 第八條及ヒ第九條ニ記シタル簿冊ハ商法裁判所ノ裁判役一員又ハ邑長或ハ其輔佐通常ノ法式ニ循ヒ無稅ニテ番號ヲ附シ姓名ノ手署ニ代フル横線ヲ畫シテ且檢印ヲ爲ス可シ 〇商人ハ十年間此等ノ簿冊ヲ保テ置ク可シ

第十二條 總テ規則ニ協フタル商業ノ簿冊ハ商業ノ事ニ付キ商人等

五ノ間ニ之ヲ證ト爲ス可キヲ裁判役ヨリ允許スルヲ得可シ

第十三條 商人必要ナル商業ノ簿冊ヲ設ケ置クト雖モ前數條ニ記シタル法式ニ循ハサル時ハ本人之ヲ裁判所ニ差出シテ己レノ爲メ資益トナル可キ證ト爲スヲ得ス但シ第三篇分散ニ記スル所ハ別段ナリトス 第五百八十六條第

第十四條 商人ノ簿冊及ヒ目錄ヲ檢視ノ爲メ他人ニ渡ス可キヲ裁判所ヨリ言渡ス場合ハ遺物相續財産ノ共通會社ノ分派家資分散ニ限ル可シ

第十五條 訴訟中何時ニテモ訴訟ニ管スル事ニ付キ商人ノ簿冊中ヨリ書拔ヲ作ル爲メ相手方ノ願ニ因リ又ハ裁判役ノ公務ヲ以テ裁判役其簿冊ヲ裁判所ニ差出ス可キノ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第十六條 若シ商人自カラ差出サント述フル簿冊又ハ裁判役ヨリ差

出タ可キヲ言渡シタル簿冊訴訟ヲ管スル裁判所ト遠隔ノ地ニ在ル時ハ其裁判所ヨリ其簿冊所在ノ地ノ商法裁判所又ハ治安裁判役ニ其簿冊ヲ檢視シテ其中入用ノ部分ヲ調書ニ記シ之ヲ差越ス可キ事ヲ託スル書面ヲ送ルヲ得可シ

第十七條 若シ訴訟ヲ爲ス一方相手方ノ簿冊ヲ以テ證ト爲ス可キヲ申立テタル時相手方之ヲ差出スヲ承諾セサルコ於テハ裁判役其申立ヲ爲シタル一方ニ誓ヲ爲ス可キヲ要ムルヲ得可シ

○第三卷 會社ノ事

○第一章 會社ノ種類及ヒ其規則

三一五 第十八條 會社ノ契約ハ民法商法及ヒ雙方ノ約束ヲ以テ之ヲ定ム

四一五

第十九條 法律上ニテ商業會社ノ三種ヲ認ム

合名會社

差金會社

無名會社

是レナリ

第二十條 合名會社トハ二人以上ニテ互ニ契約ヲ結ビ其會社ノ名前
ヲ以テ商業ヲ爲スヲ目的トスルモノヲ云フ

第二十一條 社中ノ者ノ名前ニ非サレハ會社ノ名前ノ一部タル可カ
ラス

第二十二條 合名ノ會社ニ加ハリ其會社ヲ結フ契約書ニ姓名ヲ記入
シタル各人ハ其會社ノ負フタル義務ヲ連帶シテ擔當ス可シ但シ其
社中ノ一人ノミノ負フタル義務ト雖モ其者會社ノ名前ニテ契約ヲ

爲シタル時ハ社中ノ各人皆連帶シテ其義務ヲ擔當ス可シ

第二十三條 差金會社トハ諸般ノ義務ヲ連帶シテ擔當ス可キ一人又
ハ數人ト元金ヲ差加フル一人又ハ數人ト互ニ取結ヒタル會社ヲ云
フ但シ元金ヲ差加ヘタル者ヲ名ケ金主ト云フ

此會社ノ事務ハ會社ノ名前ニテ支配ス可シ但シ其會社ノ名前ニハ
連帶シテ義務ヲ擔當ス可キ一人又ハ數人ノ姓名ヲ用フ可シ

第二十四條 連帶シテ義務ヲ擔當ス可キ者數人アル時ハ其數人皆會
社ノ事務ヲ支配スルト其中ノ一人會社ノ事務ヲ支配スルトヲ問ハ
ズ此等ノ者ニ付テハ合名ノ會社ナリト看做シ金高ヲ差加ヘタル數
人ニ付テハ差金ノ會社ナリト看做ス可シ

五一五

第二十五條 金主ノ姓名ハ會社ノ名前ノ一部タル可カラズ

五一五

第二十六條 會社ノ爲メ幾許ノ損失アリト雖モ金主ハ其差加ヘタル

六一五

金高又ハ差加フ可キ金高ニ至ル迄ノ外其損失ヲ擔當スルニ及ハス
第二十七條 (千八百六十三年五月六日左ノ如ク改ム)金主ハ社中ノ者
ノ爲メ會社ノ事務ヲ支配ス可キ名代ノ任ヲ受ケタル時ト雖モ決シ
テ其事務ヲ支配ス可カラズ

第二十八條 (千八百六十三年五月六日左ノ如ク改ム)若シ金主前條ノ
禁ヲ犯スヲアル時ハ其支配ノ所爲ニ因リ會社ノ爲メニ生シタル負
債及ヒ義務ヲ合名社中ノ者即チ連帶シテ義務ヲ擔當ス可キ者ト連帶シテ擔當ス可
シ又其金主ハ其支配シタル所爲ノ多少ト輕重トニ准シ會社ノ義務
ノ全部又ハ一部ノミヲ合名社中ノ者ト連帶シテ擔當ス可キ言渡ヲ
受クルヲアル可シ○金主會社ノ事務ニ付キ助言ヲ爲シ又ハ檢査取
締ヲ行フタルノミニテハ會社ノ義務ヲ連帶シテ擔當スルニ及ハス
第二十九條 無名會社トハ社中ノ者ノ名前ヲ以テ會社ノ名前ト爲サ

ノルモノヲ云フ

第三十條 無名會社ハ其目的ト爲ス事業ヲ以テ其名前トス

第三十一條 無名會社ハ社中ノ者タルト否トヲ問ハス又給料ノ有無
ヲ問ハス受任ノ期限定マリシ名代人其事務ヲ支配ス可シ

第三十二條 支配人即チ名代人ハ其受取リタル名代證書ノ如ク執行フ可
キ事ノミヲ擔當ス可シ

支配人ハ其支配ヲ爲シタル事ニ付キ會社ノ負フタル義務ヲ別段一
身ニ擔當スルニ及ハス又連帶シテ之ヲ擔當スルニ及ハス其任ヲ受
限内ニテ支配ヲ爲
シタル時ヲ云フ

第三十三條 無名會社中ノ各人ハ其會社ノ爲メニ幾許ノ損失アリト

雖モ其會社ニ差加ヘタル金高ノミヲ失フ可シ

七一五

第三十四條 無名會社ノ元金ハ之ヲ同價ノ株數ニ分チ又其株數ヲ更

ニ數箇ニ分ツトテ得可シ

第三十五條 其株數金ヲ差加ヘタルトハ手形ヲ以テ之ヲ證スルトテ得可シ

其株數ヲ人ニ讓リ渡サント欲スル時ハ即チ其手形ヲ讓リ渡ス可シ
第三十六條 又株數金ヲ差加ヘタルトハ會社ノ簿冊ニ記入シテ之ヲ證スルトテ得可シ

此場合ニ於テ其株數ヲ人ニ讓リ渡サント欲スル時ハ其讓渡ノ旨ヲ會社ニ届ケ之ヲ其簿冊ニ記入シテ其讓リ渡ヲ爲ス者又ハ其名代人之ニ姓名ヲ手署ス可シ

第三十七條 無名會社ハ皇帝ノ允許ヲ得タル上之ヲ取建テ且其會社ヲ結フ契約書モ亦皇帝ノ允許ヲ請フ可シ但シ皇帝ヨリ其允許ヲ爲スノ法式ハ行政規則ヲ以テ定メタル所ニ循フ可シ

第三十八條 差金會社ノ元金モ亦之ヲ數箇ノ株數ニ分ツトテ得可シ但シ此事ニ付テハ此類ノ會社ノ爲メ別段定メタル規則ニ背クトナカル可シ

第三十九條 合名會社又ハ差金會社ハ公正ノ證書又ハ私ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ私ノ證書ヲ以テ之ヲ證シタル時ハ民法第一千三百二十五條ノ規則ニ循フ可シ

第四十條 無名會社ハ必ス公正ノ證書ヲ以テ之ヲ取結フ可シ

第四十一條 會社ニ管シタル訴ニ付テハ縱令百五十フランク以下ノ金高ニ管シタル時ト雖モ會社ノ證書ニ記シタル所ト相反シタル事又ハ之ニ記シタルヨリ以外ノ事又ハ其契約書ヲ記スル前後或ハ之ヲ記スル時ニ當リ言訛シタルト云フ事ニ付キ證人ヲ以テ證ヲ立ツルトテ許サス

第四十二條 (千八百三十三年三月三十一日左ノ如ク改ム)合名會社又ハ差金會社ノ證書ハ之ヲ記シタルヨリ十五日内ニ其會社ノ舖店ヲ設ク可キ地ニ在ル商法裁判所ノ書記局ニ其拔書ヲ差出シテ之ヲ其書記局ノ簿冊ニ登記シ且三月間訟庭ニ貼附シ置ク可シ

若シ會社ノ舖店ヲ數箇所ニ設ケ商法裁判所ノ管轄各異ナル時ハ其各裁判所ノ書記局ニ同上ノ拔書ヲ差出シ其簿冊ニ登記シテ且其訟庭ニ貼附ス可シ

毎年第一月ノ初メノ十五日内ニ商法裁判所ヨリ合名會社又ハ差金會社ニ其管轄地内ノ首府又其首府アラサル時ハ最近ノ都府ニテ刊行スル一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ其會社ノ證書ヲ記シタルヨリ十五日内ニ其拔書ヲ記入ス可キヲ言渡シ且其印刷ノ費用高キ定ム可シ

其新聞紙ニ記入シタルハ刷工ノ證印ヲ爲シ邑長ノ確信ノモノナルヲ認メシ新聞紙一葉ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ其新聞紙ニ記入シタル所ハ三月内ニ官署ノ簿冊ニ登記ス可シ

此等ノ法式ヲ行ハサル時ハ社中ノ者ニ付テハ其會社ノ證書ノ効ナカル可シ然レニ社中ノ者ヨリ他人ニ對シテハ其法式ヲ行ハサル旨ヲ述ヘ他人ノ權利ヲ害ス可カラズ

第四十三條 會社ノ證書ノ拔書ニハ左件ヲ記ス可シ

株數ヲ有スル者又ハ金主ニ非サル社中各人ノ姓名身分居所
會社ノ名前

社中ノ者ノ中ニテ會社ノ事務ヲ支配シ又ハ會社ノ爲メ總テノ證書ニ姓名ヲ手署ス可キ在テ受ケタル者ノ姓名等ノ記載
株數又ハ差金ニテ既ニ差加ヘ又ハ差加フ可キ金高

會社ヲ開ク期日並ニ會社ノ終ル可キ期日

第四十四條 合名會社及ヒ差金會社ノ證書公正ノ書タル時ハ證書人其拔書ニ姓名ヲ手署ス可シ又合名會社ノ證書私ノ書タル時ハ社中ノ各人其拔書ニ姓名ヲ手署シ又差金會社ノ證書私ノ書タル時ハ元金ヲ株數ニ分ナタルト否トヲ問ハス連帶シテ義務ヲ擔當スル各人其拔書ニ姓名ヲ手署ス可シ

第四十五條 無名會社ノ取設ヲ允許スル皇帝ノ允許狀ハ其會社ノ證書ト共ニ同一ノ時間之ヲ貼附シ置ク可シ

第四十六條 管テ定メ置キタル會社ノ期限既ニ終リタル後猶會社ヲ繼續セントスルニハ社中ノ各人ヨリ其旨ヲ商法裁判所ノ書記局ニ届出テ其屆書ヲ以テ其繼續ノ事ヲ證ス可シ
此屆書及ヒ豫定期限ニ至ラサル前ニ會社ヲ解ク證書社中ノ者ノ變

更シ又ハ退去シタル證書總テ新ニ造リタル契約書會社ノ名前ノ更改シタル證書ハ第四十二條第四十三條第四十四條ニ定メタル法式ニ循フ可シ

此法式ヲ行ハサル時ハ第四十二條ノ最終ノ一項ノ規則ヲ通シ用フ可シ

第四十七條 前ニ記シタル三種ノ會社ノ外法律上ニ於テ共分會社ト稱スル會社ヲ認ム此會社ハ數人金高ヲ出合セテ物件ヲ買入レ又ハシ其事終リタル後數人ニ其得失ヲ算計スル會社ヲ云フ但シ此會社ハ一ニノ事業ニ限リタル者ニシテ永ク社中ヲ結ヒ商業ヲ爲スモノニ非ス

第四十八條 此會社ハ一箇又ハ二箇ノ特ニ定メタル商業ノ事務ニ管スル者ニシテ其目的ト爲ス所ノ事務會社ヲ取結フニ付テノ法式社中數人ノ出合金高其數人間ノ約定等ハ互ニ契約シテ之ヲ定ム可シ

第四十九條 其分會社ヲ結ビタルハ簿冊ヲ差出スヲ及ヒ往復ノ書狀ヲ差出スヲ因リ之ヲ證ス可ク又裁判所ニテ證人ヲ以テ證ヲ立テシムルヲ允許ス可シト思フ時ハ證人ヲ以テ其證ヲ立ルヲ得可シ

第五十條 其分會社ヲ結フニ付テハ他ノ會社ヲ取結フニ付テノ法式ヲ行フニ及ハス

○第二章 社中各人ノ間ニ起リタル争及ヒ之ヲ裁判スルノ方法
第五十一條 ヨリ第六十三條ニ至ル迄ノ數條ハ千八百五十六年七月十八日之ヲ廢ス

第六十四條 會社中其算計ヲ定ムル者ヲ除ク外總テ社中ノ各人及ヒ其寡婦相續人又ハ代權人ニ對シ爲ス可キ訴訟ハ其會社ノ期限ノ終リタル時又ハ之ヲ解キタル時ヨリ五年ヲ以テ其期滿得免ノ期限

ナリトス但シ此カ爲メヨハ會社ノ期限ヲ記シタル會社取結ノ證書又ハ會社ヲ解クノ證書ヲ第四十二條第四十三條第四十四條第四十六條ニ從ヒ貼附シテ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トシ且此等ノ法式ヲ行ヒタル後ニ裁判所ヘノ訴ヲ受ケ期滿得免ノ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除乘スルヲ必要トス

○第四卷 夫婦財産ヲ分ツ事

第六十五條 總テ夫婦其財産ヲ分クントスル訴ハ民法第三篇第五卷第二章第三款及ヒ訴訟法下篇第一卷第八章ニ定メタル所ニ循フ可シ

第六十六條 夫婦中一方ノ者商人タル時其居分クメ又ハ離婚ヲ

爲サシムル言渡ヲ爲スコ付テハ訴訟法第八百七十二條ノ法式ニ循
フ可シ若シ其法式ニ循ハサル時ハ其債主自己ノ權利ニ管シタル事
ニ付キ其分居又ハ離婚ノ故障ヲ述ヘ且既ニ爲シタル算計ノ故障ヲ
述フルコトヲ得可シ

第六十七條 夫婦トナル可キ者ノ中一方商人タル時ハ其婚姻ノ契約
書ヲ記シタルヨリ一月内ニ其抜書ヲ記シテ之ヲ訴訟法第八百七十
二條ニ記シタル書記局及ヒ其他ノ局ニ差出シ且同條ニ循ヒ之ヲ懸
帖ニ記シテ公ケニ示ス可シ

其抜書ニハ夫婦財産ヲ共通スルヤ財産ヲ分ナタルヤ嫁資分括ノ法
ニ循フヤヲ記載ス可シ

第六十八條 婚姻ノ契約書ヲ記シタル證書人ハ前條ニ記シタル如ク
其抜書ヲ差出ス可ク若シ此規則ニ背ク時ハ百フランクノ罰金ヲ言

渡サレ又夫婦中ノ者ト密ニ謀テ其罪ヲ犯シタルノ證アル時ハ其職
ヲ罷メラレ且其債主ニ對シテ損失ノ償ヲ爲ス可シ

第六十九條 千八百三十八年五月二十八日左ノ如ク改ム(財産ヲ分ナ
タル夫又ハ婦或ハ嫁資分括ノ法ニ循フタル夫又ハ婦婚姻ヲ結ヒシ
後ニ商人トナル時ハ其商業ヲ始メタル日ヨリ一月内ニ其婚姻契約
書ノ抜書ヲ差出ス可シ若シ此規則ニ背キタル時後ニ分散スルコト
ルニ於テハ通常ノ倒産人タルノ言渡ヲ受ク可シ 第五百八十六
條第三項見合

第七十條 財産ヲ分ナ或ハ嫁資分括ノ法ニ循フタル夫又ハ婦此商法
布告ノ時既ニ商業ヲ爲スニ於テハ其布告ヨリ一年内ニ同上ノ抜書
ヲ差出ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ前條ニ記シタル言渡ヲ受ク可
シ

◎第五卷 商人集會場ノ事手形賣買世話人ノ事商業世話人ノ事

◎第一章 商人集會場ノ事

第七十一條 商人集會場トハ皇帝ノ允許ヲ得テ商人船長手形賣買世話人商業世話人ノ集會スル場所ヲ云フ

第七十二條 商人集會場ニテハ其爲ス所ノ商業及ヒ取引ノ模様ニ因リ手形爲替ノ相場商品ノ相場請合海上請合等ヲ云フノ相場船賃借ノ相場水陸運送賃ノ相場國債手形ノ相場及ヒ其他相場ヲ立ツルコトヲ得可キ諸件ノ相場ヲ定ム可シ

第七十三條 此等ノ相場ハ國中一般ノ取締規則又ハ別段ノ取締規則ニ循ヒ手形賣買世話人及ヒ商業世話人之ヲ證ス可シ

◎第二章 手形賣買世話人ノ事及ヒ商業世話人ノ事

第七十四條 (千八百六十二年七月二日左ノ如ク改ム)法律上ニテ商業ノ事ニ付キ二種ノ世話人ヲ認ム即チ手形賣買世話人及ヒ商業世話人是レナリ◎商人集會場ノアル地ニ於テハ此等ノ世話人アリ◎此等ノ世話人ハ皇帝ヨリ其任ヲ受ク

第七十五條 (千八百六十二年七月二日左ノ如ク改ム)商人集會場ノ手形賣買世話人別ニ一局ヲ開キタル時ハ金高差加人ヲ己レノ仲間ト爲ス可シ得可シ但シ其金主ハ其世話人ノ役所ノ利益ト損失トヲ算計シテ利益アレハ之ヲ分チ損失アレハ之ヲ擔當ス可シ但シ其金主ハ世話人ノ役所ニ幾許ノ損失アリト雖モ其差加ヘタル金高ニ至ル迄ノ外其損失ヲ擔當スルコト及ハス◎其役所ノ持主即チ手形賣買世話人ハ其役所ノ元金高ト保證高トヲ合シタル高ノ中少クモ四分一ヲ自己ノ名前ニテ所有ス可シ◎此差加金コ付テノ契約證書及ヒ之ヲ更改スル

證書ハ之ヲ公ケニ爲ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其契約又ハ更改ニ管シタル者ニ付キ其契約又ハ更改ノ効ナカル可シ然レモ此等ノ者ヨリ之ヲ公ケニ爲サ、ル旨ヲ申述ヘ他人ノ權利ヲ害ス可カラズ

第七十六條 法律上ニ定メラル規則ニ循ヒ任テ受ケタル手形賣買世話人ハ國債ノ手形又ハ其他相場ヲ立ルヲ得可キ手形賣買シ又ハ他人ノ爲メ國債ノ手形爲替手形及ヒ其他賣買スルヲ得可キ手形ノ賣買ヲ取扱フテ其相場ヲ證スルノ特權アリ○又手形賣買世話人ハ商品賣買世話人ト共ニ金銀貨幣又ハ其財料ノ賣買ヲ取扱ヒ且其世話ヲ爲スヲ得可シ○貨幣又ハ其財料ノ相場ヲ證スルハ手形賣買世話人ノ特權ナリトス

第七十七條 商業世話人ニ數種アリ商品賣買世話人請合世話人通辨兼船借入世話人水陸運送世話人はナリ

第七十八條 法律上ニ定メラル規則ニ循ヒ任テ受ケタル商品賣買世話人ハ商品賣買ノ世話ヲ爲シテ其相場ヲ證スルノ特權ヲ有シ且手形賣買世話人ト共ニ金銀貨幣及ヒ其財料賣買ノ世話ヲ爲スヲ得可シ

第七十九條 請合世話人ハ證書人ト共ニ請合ノ契約書ヲ記シ姓名ヲ手署シテ其契約書ノ真正ナル旨ヲ證シ且海河運送ニ付テノ請合賃ノ相場ヲ證ス可シ

第八十條 通辨兼船借入世話人ハ海船ノ借入賃ヲ定ムルニ付テノ世話ヲ爲シ且訴訟ノ時ハ届書海船借入證書船積荷目錄商業契約書及ヒ其他商業ニ管スル書面ヲ翻譯スルノ特權ヲ有シ且海船借入賃ノ相場ヲ證スルノ特權ヲ有ス

又其世話人ハ商業ノ事ニ付キ訴訟アル時及ヒ運上所ニテ通辨ヲ爲

ス可キ時船主商人乗組人又ハ其他ノ海客ヲ問ハス總テ外國人ノ爲
メ通辨ヲ爲スノ特權ヲ有ス

第八十一條 別段政府ノ允許ヲ得タル時ハ一人ニテ手形賣買世話人
商品賣買世話人請合世話人通辨兼船借入世話人ノ職ヲ兼ヌルコトヲ
得可シ

第八十二條 法律ニ循ヒ任ヲ受ケタル水陸運送世話人ハ其所在ノ地
ニ於テ水陸運送ノ世話ヲ爲ス可キノ特權ヲ有ス可シ但シ水陸運送
世話人ハ如何ナル口實アリト雖モ商品賣買世話人請合世話人船借
入世話人ノ職ヲ兼テ有ス可カラズ

第八十三條 分散シタル商人ハ復權ヲ得タル後ニアラサレハ手形賣
買世話人又ハ商業世話人ト爲ル可カラズ 復權ノ事ハ第六
百四條以下見合

第八十四條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ第十一條ニ記シタル

法式ニ循フタル簿冊ヲ設ケ置ク可シ

此等ノ世話人ハ賣買請合取引ノ箇條及ヒ其他總テ己レノ世話ヲ以テ
爲シタル商賣ノ箇條ヲ其順序ニ從ヒ塗抹書入語ノ入替等ナク且略
語及ヒ數字ヲ用フルコトナク毎日其簿冊ニ登記ス可シ

第八十五條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ハ如何ナル口實アリト
雖モ自己ノ算計ノ爲メ商業又ハ銀行ノ所爲 手形引替賣
買等ノ所爲ヲ爲ス可カ
ラズ又此等ノ世話人ハ直ニ自己ノ名前ヲ用フルト他人ノ名前ヲ
借り用フルトヲ問ハス商業ノ目論見ニ管係ス可カラズ
又此等ノ世話人ハ本人ノ算計ノ爲メ人ヨリ金高ヲ受取リ又ハ自己
ノ金高ヲ以テ立替ヘ置クコトヲ得ス

第八十六條 此等ノ世話人ハ己レノ世話ヲ爲シタル賣買取引貸借ヲ其
契約ノ如ク執行ラノ保證人トナル可カラズ

第八十七條 前二條ニ記セシ規則ニ背キタル世話人ハ懲治罪裁判所

ヨリ其職ヲ罷ムルノ言渡ヲ受ケ且三千フランクニ過キサル罰金ノ

言渡ヲ受ク可シ但シ世話人規則ニ背キタルニ因リ本人ノ爲メ損害

ヲ生シタル時ハ其損害ヲ償フ可キノ訴ヲ受ク可シ

第八十八條 前條ニ循ヒ一度其職ヲ退ケラレタル手形賣買世話人又

ハ商業世話人ハ再ヒ其職ニ復スルヲ得ス

第八十九條 手形賣買世話人又ハ商業世話人分散ヲ爲シタル時ハ倒

産人ナリトシテ犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第九十條 (千八百六十二年七月二日左ノ如ク改ム)左ノ諸件ハ行政規

則ヲ以テ別段之ヲ規定ス可シ

第一 保證ノ高世話人等ノ官ニ差 但シ其高二十五萬フランクニ

過ルコトナカル可シ

第二 國債手形所有ノ權ヲ賣買スル事其手形取引ノ事其他總テ

此卷ニ記スル規則ノ如ク執行フ事

○第六卷 質物ノ事及ヒ仲買人ノ事

○第一章 質物ノ事

第九十一條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)商人タルト

否トモ問ハス商業ノ爲メ動産ヲ質ト爲ス時ハ契約ヲ爲ス雙方ニ付

テモ亦他人ニ付テモ第九條ニ記スル如ク其旨ヲ證ス可シ

又賣買スルヲ得可キ手形ヲ質ト爲ス時ハ其旨ヲ裏書ニ爲シテ之

ヲ證スルヲ得可シ

錢糧工作商業等ノ會社又ハ民法上ノ會社ノ株取又ハ差加金ヲ人ニ

譲渡の時其旨ヲ會社ノ簿冊ニ登記ス可キ場合ニ於テハ之ヲ質ト爲スニ付テモ亦其旨ヲ會社ノ簿冊ニ登記ス可シ
 甲ノ乙ヨリ金高ヲ得可キ證書ヲ丙ニ質ト爲ス時丙其旨ヲ乙ニ報告シタル後ニ非サレハ乙ニ對シ其證書ヲ質トシテ得可カラサルコト付キ民法第二千七十五條ノ規則ハ之ヲ改ムルコトナシ
 手形類ヲ質ニ取リタル債主ハ其手形ノ金高ヲ己ニ受取ルコト得可シ

第九十二條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)何レノ場合

ニ於テモ債主質物ヲ現ニ己レノ方ニ引取り置キ又ハ負債者ト債主ト協議シテ定メタル者ニ預ケ置キタルニ非サレハ債主其質物ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可カラズ
 債主質物タル商品ヲ己レノ倉庫又ハ船舶中ニ入レ又ハ運上所或ハ公

ケノ倉庫ニ入レ又ハ其商品未ク到着セスト雖モ船ノ積荷目録或ハ運送狀ヲ得タルニ因リ之ヲ己レノ方ニ引取ル可キ手續ニ至リシ時ハ其商品ヲ己レノ方ニ引取り置キタルト看做ス可シ

第九十三條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)負債者其債

ヲ拂フ可キ期限ニ至リ猶之ヲ拂ハサル時ハ債主ヨリ負債者ニ其質物ヲ賣拂フ可キ旨ヲ報告シタルヨリ八日ノ後又嘗テ負債者ニ代リ他人ヨリ債主ニ商品ヲ質ト爲シ置キタル時ハ債主ヨリ右賣拂ノ旨ヲ其者ニ報告シタルヨリ八日ノ後ニ至リ其質物ヲ糶賣ニ爲スノ手續ニ取掛ルコト得可シ

手形賣買世話人ノ世話ニテ糶賣ト爲ス可キ物件ヲ除クノ外總テ商業世話人ノ世話ヲ以テ其質物ノ糶賣ヲ爲ス可シ○然レモ商法裁判所ノ主席人ハ管係アル者ノ願ニ因リ商業世話人ニ非サル官吏ヲシテ

其質物ノ糶賣ヲ爲サシムルコトヲ言渡スヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其糶賣ノ任ヲ受ケシ者ノ何人タルニ問ハス糶賣ノ法式費用目錄責任等ノ諸事ハ商業世話人ノ糶賣ヲ爲ス時ト同一ナル可シ此糶賣ニ付テハ千八百五十八年五月二十八日ノ法律第二條ヨリ第七條ニ至ル迄ノ數條ノ規則ヲ通シ用フ可シ債主前ニ記シタル法式ヲ行ハス直チニ其質物ヲ已レノ所有ト爲シ又ハ賣拂フ可キノ契約ハ其効ナカル可シ

○第二章 總テ仲買人ノ事

第九十四條 (千八百六十三年五月二十二日左ノ如ク改ム) 仲買人トハ他人ノ算計ノ爲メ自己ノ名前又ハ會社ノ名前ニテ商業ヲ爲ス者ヲ云フ
本人ノ名前ニテ本人ニ代リ商業ヲ爲ス仲買人ノ權利ト義務トハ民

法第三篇第十三卷ニ之ヲ定ム

第九十五條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム) 總テ仲買人ハ本人ノ爲メ商品ヲ已レニ受取リタル前ト後トニ問ハス本人ノ爲メ立替ヘタル金高又ハ本人ニ貸シタル金高ヲ取戻スコトニ付キ已レニ差送り又ハ預ケ置キ又ハ任セサル商品ノ價ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ
其特權ヲ得ントスルコトハ第九十二條ニ記シタル規則ニ循フ可シ
仲買人ノ特權ハ元金ニ付キ之ヲ得ルノミナラス利息口錢費用高ニモ亦之ヲ及ホス可シ

仲買人本人ノ算計ノ爲メ商品ヲ賣渡シタル時ハ本人ノ債主ニ先チ其商品ノ代金ヲ以テ自己ノ貸高ノ償ヲ得可シ

○第三章 水陸運送ノ爲メノ仲買人

四五

第九十六條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)水陸ノ運送
ヲ任スル仲買人ハ商品ノ種類ト分量トヲ日用ノ簿冊ニ記入シ又別
段求メテ受ケタル時ハ其價ヲモ亦記入ス可シ

第九十七條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)水陸運送ノ
爲メノ仲買人ハ運送狀ニ定メタル期限内ニ商品及ヒ手形ノ到着セ
サル實ニ任ス可シ但シ抗拒ス可カラサル力ニ因リ其到着ノ遅延シ
タル確證アル時ハ格別ナリトス

第九十八條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)水陸運送ノ
爲メノ仲買人ハ商品及ヒ手形ノ破損滅盡シタル時其責ニ任ス可シ
但シ運送狀ニ之ニ反シタル契約ヲ記シタル時又ハ抗拒ス可カラサ
ル力ノ爲メ其破損滅盡シタル時ハ格別ナリトス

第九十九條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)水陸運送ノ

爲メノ仲買人ハ自己ヨリ商品ヲ差送りタル他ノ仲買人ノ所爲ヲ擔
當ス可シ

第一百條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)賣主又ハ差送
人ノ倉庫中ヨリ既ニ運ヒ出シタル商品ハ別段ノ契約アルニ非サレ
ハ其運送ノ途中買主ノ引受タル可シ但シ其破損滅盡シタル時ハ買
主ヨリ仲買人又ハ運送人ニ對シテ訴テ爲ストヲ得可シ

第一百一條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)運送狀ハ商品
差送人ト運送人トノ間ノ契約書タルコアリ又ハ差送人仲買人運送
人ノ三方ノ間ノ契約書タルコアリ

第一百二條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)運送狀ニハ必
ズ其日附ヲ記ス可シ

一四五

運送狀ニハ運送ス可キ商品ノ種類量目又ハ大サ並ニ運送ノ期限ヲ

記ス可シ

運送状ニハ水陸運送ノ爲メノ仲買人管係アル時ハ其仲買人ノ姓名住所商品ヲ受取ル可キ者ノ姓名運送人ノ姓名住所ヲ記ス可シ

又運送状ニハ運賃並ニ遅延シタル時ノ償ヲ記ス可シ

運送状ニハ商品ノ差送人又ハ仲買人姓名ヲ手署ス可シ

運送状ノ端ニハ商品ノ記號番號ヲ附記ス可シ

仲買人ハ每葉番號ヲ附シテ且姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫セシ簿冊ヲ設ケ置キ空行間隙ナク運送状ヲ寫シ留ム可シ

○第四章 運送人ノ事

第三百三條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)運送人ハ其運送ナル物件ノ滅盡シタル時其責ニ任ス可シ但シ抗拒ス可カラサル力ニ因リ其滅盡シタル時ハ格別ナリトス

又運送人ハ其運送スル物件ノ破損シタル時其責ニ任ス可シ但シ其物件ノ質不良ナルニ因リ又ハ抗拒ス可カラサル力ニ因リ破損シタル時ハ格別ナリトス

第三百四條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)若シ抗拒ス可カラサル力ニ因リ契約シタル期限内ニ運送ヲ爲スニ能ハサル時ハ運送遅延ノ爲メ運送人ヨリ償ヲ出スニ及ハス

第三百五條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)商品ヲ受取ル可キ者之ヲ受取リ且其運賃ヲ拂フタル上ハ運送人ニ對シテ訴ヲ爲ス可カラス

第三百六條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)商品ヲ受取ル可キ者之ヲ受取ルコトヲ肯セス又ハ之ヲ受取ルニ付キ争ノ生スル時ハ鑑定人ヲシテ其商品ノ模様ヲ檢視セシム可キコトヲ商法裁判所ノ

上席人ニ願ヒ又商法裁判所ノアラサル時ハ治安裁判役ニ願ヒ其上
席人又ハ裁判役ハ其願書ノ末ニ其願ヲ允許スル旨ヲ記シテ其鑑定
人ヲ任シ其鑑定人ハ其商品ノ模様ヲ檢視シテ之ヲ證ス可シ
又其爭ヲ生シタル商品ハ先ツ之ヲ人ニ預ケ置キ次ニ公ケノ倉庫ニ
入ル可キコトヲ言渡スヲ得可シ
然ル上ニテ運賃ノ高ニ充ル迄運送人ノ爲メ其商品ヲ賣拂フ可キノ
言渡ヲ爲スコトヲ得可シ

第百七條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)此卷ニ記スル
所ノ規則ハ船主及ヒ陸地運送車ノ持主ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ
第百八條 (千八百六十三年五月二十三日左ノ如ク改ム)商品ノ滅盡破
損シタルニ因リ仲買人及ヒ運送人ニ對シテ爲ス可キ訴ハ佛蘭西國
内ノ運送ニ付テハ六月ヲ以テ期滿得免ノ期限トシ外國ヘノ運送ニ

付テハ一年ヲ以テ期滿得免ノ期限トス但シ此等ノ期限ハ商品ノ滅
盡シタル時ハ其運送ヲ爲シ終ル可キ期日ヨリ之ヲ算ヘ又其破損シ
タル時ハ之ヲ引渡シタル日ヨリ之ヲ算フ可シ但シ仲買人又ハ運送
人ニ詐偽不正アル時ハ此例ニ非ス

○第七卷 賣買ノ事

第百九條 賣買ハ左件ヲ以テ其證ト爲ス可シ

公正ノ證書

私ノ證書

本人等ノ姓名ヲ手署セシ手形賣買世話人又ハ商業世話人ノ目錄
又ハ算計證書

買主ノ承諾シタル賣買ノ勘定書
往復ノ書狀

雙方ノ簿冊

裁判所ニテ證人ヲ以テ證ヲ立ルコトヲ許ルル可シト思フ時ハ證人
ノ述ル所ノ證

○第八卷 爲替手形ノ事「ビエーダナルドル」ノ事 手形ノ名 第八期
十七條ニ詳ナリ
滿得免ノ事

○第一章 爲替手形ノ事

○第一款 爲替手形ノ法式

第一百十條 爲替手形ハ此地ヨリ彼地ニ向ケテ差立ツルモノナリ

爲替手形ニハ其日附ヲ記ス可シ

爲替手形ニハ亦左件ヲ記ス可シ

拂フ可キ高

拂方ノ姓名

拂フ可キ期日及ヒ場所

差立方管テ貨幣或ハ商品ヲ受取リタルニ付キ手形ヲ差立ルコト又

ハ借財ノ代ニ差立ルコト又ハ其他差立ニ付テノ原由

爲替手形ハ他人ノ裏書ニ從ヒ拂フ可キモノアリ又ハ差立人ノ裏書

ニ從ヒ拂フ可キモノアリ

手形ノ番號一番二番三番四番等ナル時ハ之ヲ附記ス可シ

第五 第一百十一條 爲替手形ノ金高ヲ拂フ可キ者ハ甲ニシテ其拂フ可キ場

第七四 所ハ乙ノ住所タルコトヲ得可シ

又爲替手形ノ差立人ハ自己ノ算計ノ爲メニ非ス他人ノ算計ノ爲メ
之ヲ差立ルヲ得可シ 他人ニ頼マシ
シ時ヲ云フ

第一百十二條 姓名身分住所差立ノ地拂フ可キ地ヲ假設ケテ記シタル
爲替手形ハ之ヲ通常ノ約束書ト看做ス可シ 民法裁判所ノ管轄ニ非
リ

第一百十三條 商業ヲ爲サ、ル婦女ノ姓名ヲ手署シタル爲替手形ハ其
婦女ニ付テハ之ヲ通常ノ約束書ト看做ス可シ

第一百十四條 商業ヲ爲サ、ル幼者ノ姓名ヲ手署シタル爲替手形ハ其
幼者ニ付テハ其効ナカル可シ但シ此場合ニ於テ雙方ノ權利ハ民法
第一千三百十二條ニ循ヒ之ヲ定ム可シ

○第二款 爲替手形ヲ拂フ可キ金高ヲ備フル事

第一百十五條 (千八百十七年三月十九日左ノ如ク改ム)爲替手形ノ差立

人又ハ爲替手形ノ差立ヲ頼ミタル者ハ其手形ヲ拂フ可キ金高ヲ拂
方ニ備ヘ置クヲ必要トス但シ差立人自己ノ算計ノ爲メニ非ス他
人ノ頼ニニ因リ差立タル時ト雖モ裏書人ト手形ノ持主トニ對シ其
手形ヲ拂フ可キヲ保證スルノ義務ヲ免カル、トナカル可シ

第一百十六條 爲替手形ノ拂期日ニ至リシ時拂方ノ者差立方又ハ差立
ヲ頼ミタル者ニ對シ少クトモ其手形ノ金高ニ等シキ債ヲ負フタル
時ハ差立人又ハ差立ヲ頼ミタル者其手形ヲ拂フ可キ金高ヲ拂方ニ
備ヘ置キタリトス可シ

第一百十七條 拂方手形ヲ承諾シタル時ハ差立方又ハ差立ヲ頼ミタル
者其手形ヲ拂フ可キ金高ヲ拂方ニ備ヘ置キタルト看做ス可シ
拂方同上ノ承諾ヲ爲シタル時ハ裏書人ニ付テハ其手形ヲ拂フ可キ
金高拂方ニ備ハリタルノ證アリトス可シ

拂方ノ手形ヲ承諾シタルト否トチ問ハス拂方現ニ之ヲ拂ハサル時
ハ差立人其拂期日ニ當リ拂方ニ其金高ヲ備ヘ置キタルノ證ヲ立ツ
可シ若シ然ラサレハ手形ノ持主定期後ニ要償ノ書拂方手形ヲ承諾
セヌ又ハ其金高
ヲ拂ハサルニ因リ其持主其償ヲ得ント要ムル書ヲ記シタル時ト雖モ其差立人其手形ヲ拂
フ可キトテ保證ス可シ

〇第三款 爲替手形ヲ承諾スル事

第一百十八條 爲替手形ノ差立人及ヒ裏書人ハ拂方ノ其手形ヲ承諾シ
期日ニ至テ之ヲ拂フ可キトテ連帶シテ保證ス可シ

第一百十九條 若シ拂方手形ヲ承諾セサル時ハ其手形持主承諾ヲ得サ
ルニ付テノ要償ノ書ヲ記シテ其證ヲ立ツ可シ

第一百二十條 爲替手形ノ裏書人及ヒ差立人ハ拂方ニテ手形ヲ承諾セ
サルニ付テノ要償ノ書ヲ受取りタル上其手形ノ拂期日ニ至リ各自

之ヲ拂フ可キノ保證人ヲ立ツ可シ若シ然ラサレハ其手形ノ金高ト
要償ノ書ノ費用並ニ返シ爲替ノ費用トシ償フ可シ第七十八
條以下見合

手形差立人ノ保證人及ヒ裏書人ノ保證人ハ各其本人ノミト連帶シ
テ義務ヲ負フ可シ

第一百二十一條 爲替手形ヲ承諾シタル者ハ其金高ヲ拂フ可キノ義務
ヲ負フ可シ

其手形ヲ承諾シタル者ハ其承諾ノ前ニ差立人ノ家資分散セシチ知
ラサル時ト雖モ一旦爲シタル承諾ヲ取消ス可カラス

第一百二十二條 爲替手形ヲ承諾シタル者ハ其手形ニ姓名ヲ手署ス可
シ

其承諾ハ「ア」セ「ブ」テ「承諾ト云ヘル語ヲ手形ニ附記スルニ因リ之
ヲ證ス可シ

拂方手形ヲ見タルヨリ一日又ハ數日或ハ一月又ハ數月ニ之ヲ拂フ可キ時ハ其手形ニ其金高ヲ拂フヲ承諾シタル日附ヲ附記ス可シ此場合ニ於テ其日附ヲ附記セサル時ハ其手形ノ日附ヨリ一日又ハ數日或ハ一月又ハ數月ニ其金高ヲ拂フ可シ

第二百二十三條 拂方ノ住所外ニテ拂フ可キ爲替手形ヲ承諾シタル時ハ之ヲ拂フ可キ住所ノ地ヲ附記ス可シ

第二百二十四條 手形ヲ承諾シタル時ハ其金高ヲ拂フニ付テノ別段ノ約束ヲ加フ可カラズ然レモ手形ノ金高中其一部ノミヲ拂フ可キヲ承諾シ他ノ一部ヲ拂フヲ承諾セサルヲ得可シ此場合ニ於テハ手形ノ持主承諾ヲ得サル一部ニ付キ要償ノ書ヲ記ス可シ

第二百二十五條 爲替手形ハ之ヲ示シタル時拂方直ニ之ヲ承諾シ又

ハ遅クモ二十四時内ニ承諾ス可シ

拂方手形ヲ承諾シ又ハ承諾セスシテ二十四時ノ後ニ至リ之ヲ還サ
ル時ハ持主ニ對シテ其損失ヲ償フ可シ

○第四款 他人干涉シテ手形ノ承諾ヲ爲ス事

第二百二十六條 拂方手形ノ金高ヲ拂フヲ承諾セサルニ因リ其持主
要償ノ書ヲ記シタル時ハ他人其差立人ノ爲メ又ハ裏書人ノ爲メ其
手形ニ干涉シテ之ヲ拂フ可キノ承諾ヲ爲スヲ得可シ

其干涉ノ旨ハ要償ノ書ニ附記シ干涉者姓名ヲ手署ス可シ
第二百二十七條 干涉者ハ其干涉ノ旨ヲ遅延ナク其本人ハ裏書人ヲ云
フニ報告ス可シ

第二百二十八條 手形差立人又ハ裏書人ノ爲メ手形ニ干涉シテ其金高
ヲ拂フ可キ承諾ヲ爲ス者アル時ト雖モ其手形ノ持主ハ拂方之ヲ承

諸セサルニ因リ差立人及ヒ裏書人ニ對シ償ヲ要ムルノ權ヲ失フコトナカル可シ

○第五款 爲替手形拂期限ノ事

第二百二十九條 爲替手形ハ左ノ約束ニテ之ヲ差立ツルコト得可シ

拂方手形ヲ見タル時直ニ其金高ヲ拂フ可キ事

拂方手形ヲ見タルヨリ一日又ハ數日ニ其金高ヲ拂フ可キ事

拂方手形ヲ見タルヨリ一月又ハ數月ニ其金高ヲ拂フ可キ事

拂方手形ヲ見タルヨリ「ユザンス」第二百三十條見合又ハ數「ユザンス」ニ其

金高ヲ拂フ可キ事

手形ノ日附ヨリ一日又ハ數日ニ其金高ヲ拂フ可キ事

手形ノ日附ヨリ一月又ハ數月ニ其金高ヲ拂フ可キ事

手形ノ日附ヨリ「ユザンス」又ハ數「ユザンス」ニ其金高ヲ拂フ可キ

事

別段定メタル期日ニ手形ノ金高ヲ拂フ可キ事

市ノ日ニ金高ヲ拂フ可キ事

第三百十條 拂方手形ヲ見タル上直チニ之ヲ拂フ可キ時ハ持主之ヲ

示シタル時拂方之ヲ拂フ可シ

第三百十一條 拂方手形ヲ見タルヨリ一日又ハ數日ニ其金高ヲ拂フ

可キ時

拂方手形ヲ見タルヨリ一月又ハ數月ニ其金高ヲ拂フ可キ時

拂方手形ヲ見タルヨリ「ユザンス」又ハ數「ユザンス」ニ其金高ヲ拂フ

可キ時

此等ノ場合ニ於テハ拂方手形ヲ承諾シタル日又ハ承諾ヲ爲サハル

コト因リ其持主要償ノ書ヲ記シタル日ヨリ其期限ヲ算フ可シ